

30116 ✓

教科書文庫

3
291
41-1900
20000 23781

M33.
1900.

Kodak Gray Scale

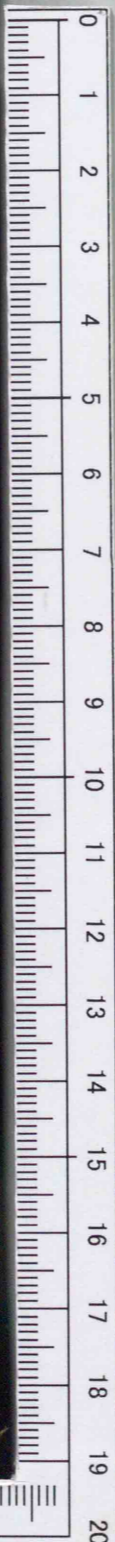
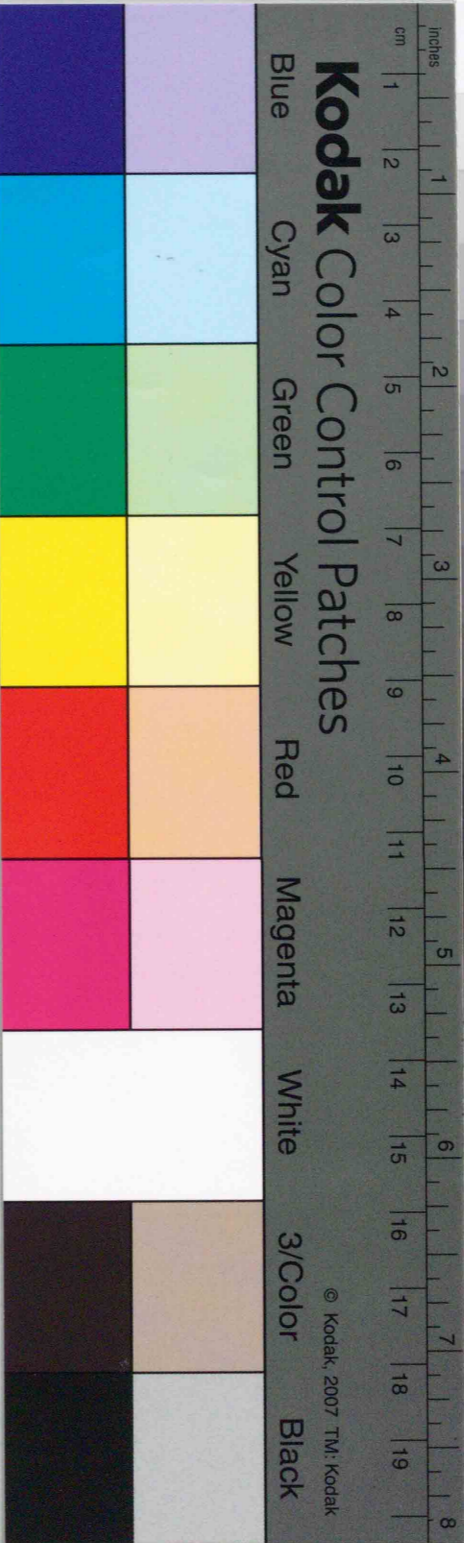


© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科
41-
2000



教科書文庫

3

291

41-1900

2000023781

3959
JK5

資料室

明治三十三年一月八日
文部省檢定
中學地理教科書

新式日本地理

文學士 藤岡作太郎校閱
理學士 比企 忠校閱
理學士 岩崎重三校閱
池田廉之助著

東京 內田老鶴



訂 改



新式日本地理第三版のはしがき

本書の第一版はさる三月に始めて刊行し、爾來未だ一年に満たざるに、第二版の印刷本、また既に盡きて、ここに第三版を印刷するに至る、現時、地理學教科書の世に刊行せらるるもの啻に汗牛充棟のみならず、あたりにあたりて、本書が斯く教育社界の歡迎を受けんことは、實に著者が豫想の外に出づ、そもそも地理學教科書編纂の難事なることは、世上既に定論あり、然るを著者が淺薄の識を以て、敢て本書を梓刻する、思へば顔忸怩として心未だ寧からざるなり、されど、著者は明治二十四年に、専ら地理科教授を擔當して、職に中學程度の學校に就きしより、普ねく各府縣の管内地誌を集め、彼を酌み、此を捨てて教案を作り、遂に一の麁本を完うすることを得た

はしがき

一

りしかば、いつかはその稿本を公けにして、大方の是正を請はむと思へりきを、をりしも、昨年文部省は、各地方に於ける中學教育の統一を圖らむがため、教科細目といふものを示されたり、ここに著者は益曩日の自信を固め、偏へにその教科細目によりて稿本を校訂し、つひに本書を出版することを得たり、されど猶行文の妥當、記事の遺漏、事實の正確を缺ける所あるによりて、這般の校閲を、理學士比企忠君、文學士藤岡作太郎君、理學士岩崎重三君に請ひたるに、三君は公私の事務多端なるにも拘はらず、快よく承諾して、各その專攻の學識を以て、仔細に補正の勞を賜ひたり、これ著者が特に感謝の意を表する所にして、外に、文學士三好愛吉君、文學士佐竹元二君、文學士春日圓城君、東京帝國大學文科大學卒業石田鼎一君等も、また

書中記載の事項に就きて、頗る有益なる助言を與へられたるは、亦著者が深く鳴謝する所なり、かくて本書は初版再版に較ぶれば、ために幾倍の光彩を添へたることは疑ふべくもあらず、若し本書にして、多少教育社界に貢獻することあらば、そは著者の功にあらずして、全く前記諸君の賜なり。

惟ふに地理學教科書中に網羅する事項は、歴史、地文、地質、鑛物及び動植物等の諸學科はいふまでもなく、その他、百般の科學と相關聯して、その範圍の及ぶ所、頗る廣濶なるを以て、これが教科書をして、繁簡よろしきを得、學ぶ者をして、快樂を覺え、かつ實益を擧げしめむことは、實に容易の事にあらず、著者不敏にして、今この重任を叨りにす、資料の選擇、字句の校正、編次の體裁等未だ盡さざるあるは

もとよりその所幸に大方諸賢の指教によりて、なほ本書の大成する
ことを得ば、著者の光榮これに過ぎず。

明治三十二年十二月

著者 志 る す

凡 例

- 一 本書は、中學校・高等女學校及びこれと同等なる、諸學校の教科書
にあてむがために編纂したるものなり。
- 一 書中の活字を大小の二様に分かつては、講習時間の伸縮を自由
ならしめむがためにして、大字の部は必ず課すべきもの、小字の
部は教師の取捨に一任したるものなり。
- 一 書中讀方のかたきものには振假名を施せり、その内にも、左右に
記せるあるは兩様の讀方あるものなり。
- 一 龍頭に細字を以て註記したるものは、本文に於て都邑發達の順
序、古今隆替の狀況、及び名區勝地又は特種の地勢等、地理學上の
價值を詳記する餘裕なきを補はむがためにして、教師はこれに
よりて説話の餘地を得、生徒はこれによりて記憶の便宜を得べ

しと思へる著者が用意に出でたるなり。但し舊諸侯は慶應二年の調査によりて、祿高十萬石以上のものを擧ぐ。

一人口の多寡・物産の産額・及び産業の興廢等は、大抵日本帝國第十八統計年鑑によりたれども、まゝ最近の調査によれるもあり。また中等教育上に必要と認めざるものは、その數量を省略して、一これを載せず。

一寒暖計は學術上の通用として、攝氏によるを可とすれども、普通に世人の用ゐるは華氏なるを以て、本書もこれを用ゐる。もしこれを攝氏のに改算せむとならば、左法によるべし。但しCは攝氏、Fは華氏を示す。

$$C = \frac{5}{9}(F - 32)$$

一山岳の高低・河流の長短・道路の遠近等は、大抵我が國の里法に従

ひたれども、水路・鐵道・電信等の延長は、多くは西洋の度量衡により。もしこれを我が國のに換算せむとならば、左の用例に従ふべし。

一哩は十四町四十五間

一海里は十六町五十八間

一米は三尺三寸

一耗は三厘三毛

一尋は六尺

一噸は凡そ千六百八十斤

著者識

訂增 新式日本地理目次

第一章 總論

位置	一頁
境界	三
廣袤	五
區劃	七
沿岸	一三
地勢	二〇
水系	二三
氣候	二八
海流	三三
生物	三五
第二章 地方誌	
中日本	四二

中日本東部……………四三
 東海區……………四三
 東京府・神奈川縣・千葉縣・茨城縣・埼玉縣・
 山梨縣・静岡縣・愛知縣・三重縣
 中山區……………七三
 滋賀縣・岐阜縣・長野縣・群馬縣・栃木縣
 奧羽區……………八六
 福島縣・宮城縣・巖手縣・青森縣・秋田縣・
 山形縣
 北陸區……………九八
 新潟縣・富山縣・石川縣・福井縣
 中日本西部……………一〇九
 近畿區……………一〇九
 京都府・奈良縣・和歌山縣・大阪府・兵庫縣
 中國區……………一三二

四國區……………一四四
 鳥取縣・島根縣・山口縣・廣島縣・岡山縣
 香川縣・愛媛縣・德嶋縣・高知縣
 九州區……………一五一
 大分縣・福岡縣・佐賀縣・長崎縣・熊本縣・
 宮崎縣・鹿兒島縣
 北日本……………一六七
 北州區……………一六八
 北海道廳
 千島區……………一七六
 北海道廳
 南日本……………一八〇
 琉球區……………一八〇
 沖繩縣
 臺灣區……………一八六

臺北縣・臺中縣・臺南縣・宜蘭廳・臺東廳・澎湖廳

第三章 政治

政體……………一九四

立法……………一九四

行政……………一九五

司法……………一九六

兵備……………一九七

第四章 住民

種族及びその特質……………二〇三

人口……………二〇五

教育……………二〇八

宗教……………二〇九

第五章 生業

農業……………二二二

增訂 新式日本地理目次終

林業……………二二四

牧畜業……………二二四

水産業……………二二五

礦物……………二二八

工業……………二三〇

商業……………二二二

交通……………二二四

漢學大學
圖書印

訂增 新式日本地理

理學士 比企 忠 閱

文學士 藤岡作太郎 閱

理學士 岩崎重三 閱

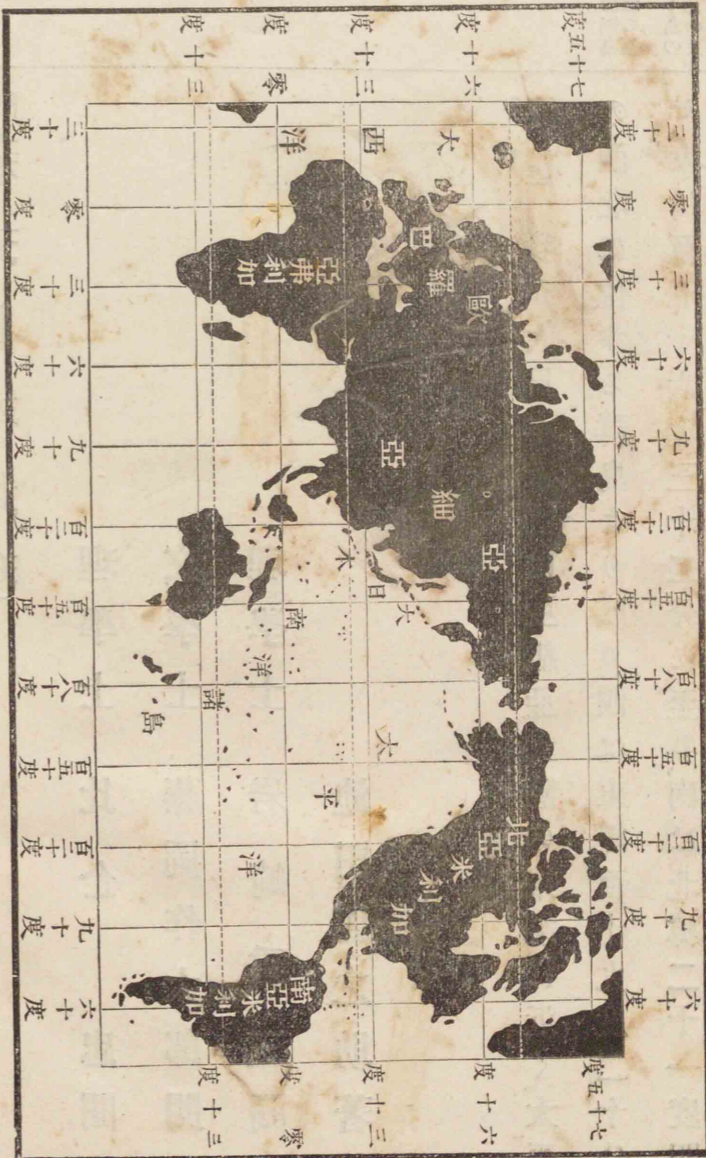
池田鹿之助 著

第一章 總論

位置 我が大日本帝國は、亞細亞大陸の東端に近く、太平洋の西北に位する群島より成り、西は東經百十九度二十分より、東は百五十六度三十二分に至り、南は北緯二十一度四十分より、北は五十度五十六分に及ぶ。その地形は、狭く長く、

(一) 澎湖島の西端
(二) 千島の東端
(三) 臺灣南端
(四) 千島の南端

位置



置位の本日のけ於に界世

アライト島の北端

(一)又サガレン島と云ふ

(二)その間九十餘里

東北より西南に、凡そ千二百五十里に亘り、大部は温帯地方に横たはるも、南部は既に熱帯に入り、北端亦寒帯に近し。

境界 境域は四周に海を環らし、東北はオコック海に接し、東より南は太平洋に洗はれ、西は東海支那海に瀕し、西北は日本海を擁す。さて、我れと最も近き地域は、東北の宗谷海峡を距つる樺太島、および千島海峡を距つるカムチャッカ半島にして、これ等は共に西伯利亞の地區に屬し、西は一葦帶水を距てて、我れと親密の關係を有する支那朝鮮に接し、日本海を控ふる對岸一帶の地を西伯利亞とす。又東は遙かに北亞米利加洲を望み、南はオセアニア洲と稱する大小無數の島嶼に對し、西南隅はバシール海峡を距てて、馬來群島の比律賓諸島に呼應す。

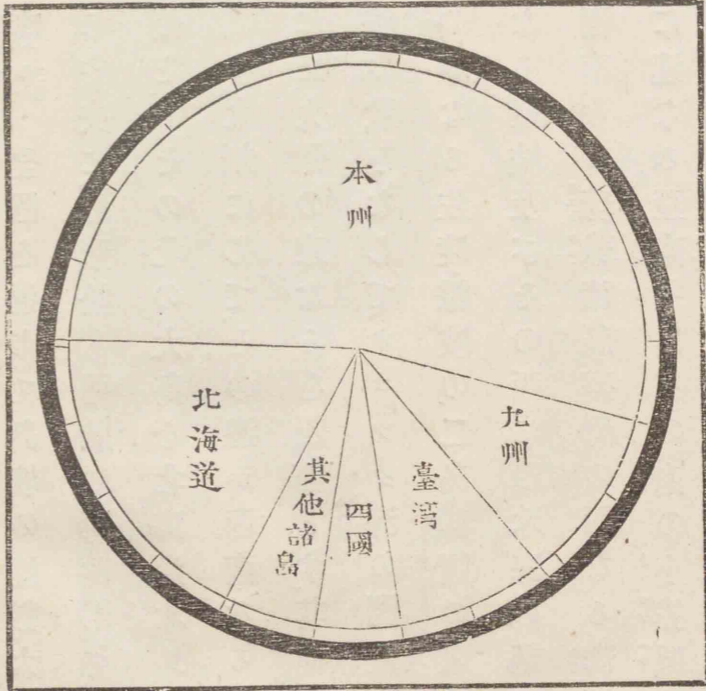


帝國の全圖

廣袤 全國を通じて、島嶼の總數大凡五千に達す。就中、群島の中央に、地形恰も弓狀に彎曲して、日本海を抱くものを本州とし、その北の大島を北海道本地とす、本州の西南なる大島は九州にして、その遙か西南なるを臺灣とし、本州の西南にて、九州の東なるを四國とす、其他、北海道本地の東北に連鎖の狀をなして、オコツク海の門戸を鎖せる千島群島、本州の北なる佐渡、隱岐の二島、四國の東なる淡路島、九州の西北なる壹岐及びその西に、日本海の咽喉を扼する對馬、九州の西南なる琉球諸島、臺灣の西なる澎湖列島を始め、本州の南に連なる豆南七島、その南の小笠原群島等は、我が帝國を組成する、主要の群島にして、外に、隸屬せる數多の島嶼を合せ、面積二萬七千餘方里あり、その内、本州は面積最も廣く、全土

(一)千八百
十方里餘

の半ば以上を占め、北海道本地・九州・臺灣・四國等順次之に亞
ぐ、今、四國の面積を一として、各部の廣表を較ぶれば左の圖



面積の比較

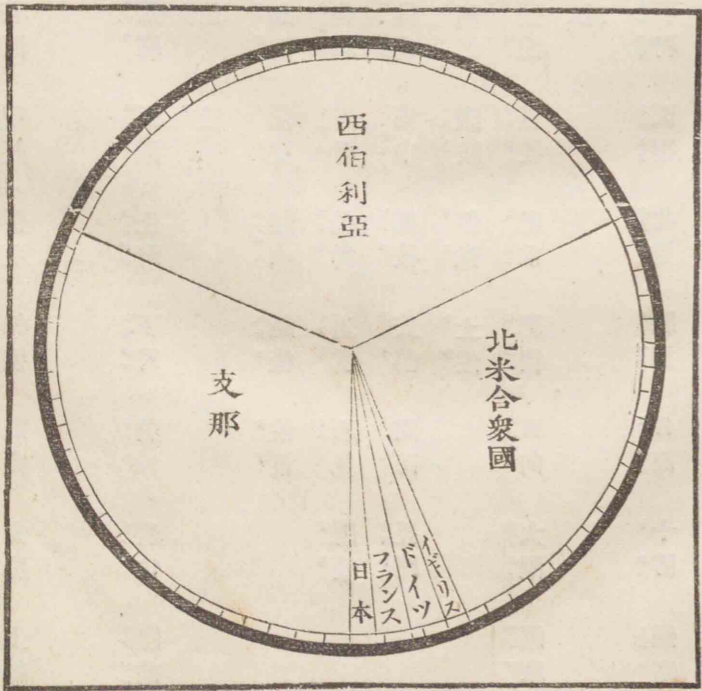
の如し。
帝國の面積を以て四隣
に國を成せる支那・朝鮮・
西伯利亞・北米合衆國等
の廣表に較ぶれば、朝鮮
のみ、獨り我が國の半ば
なれども、その他は、皆我
が國に幾倍或は幾十倍
す、されど、世界の文明國
と稱する英吉利・佛蘭西
獨逸等の面積に較ぶれ

ば殆ど大差なきのみならず、英吉利の如きは、遙かに我が國より小なり、今、帝
國の面積を一として、各國の廣表を較ぶれば、左の圖の如し。

區劃 全國を大別

して畿内・八道とし、
更に天然の形勢に
よりて、之を八十五
國に分ち、外に、新
領地臺灣あり。

- 畿内 山城 大河内 攝津 志摩
- 東海道 伊賀 伊勢 尾張
- 大和 和泉



面積の比較

東山道	近江	美濃	飛騨	信濃	上野	下野	磐城	岩代	陸前	陸
中	陸奥	羽前	羽後							
北陸道	若狹	越前	加賀	能登	越中	越後	佐渡			
山陰道	丹波	丹後	但馬	因幡	伯耆	出雲	石見	隱岐		
山陽道	播磨	美作	備前	備中	備後	安藝	周防	長門		
南海道	紀伊	淡路	阿波	讃岐	伊豫	土佐				
西海道	筑前	筑後	豊前	豊後	肥前	肥後	日向	大隅	薩摩	壹
岐	對馬	琉球								
北海道	渡島	後志	石狩	天鹽	北見	膽振	日高	十勝	釧路	根
室	千島									

されど、政治上の區劃は、以上の八十五國、及び臺灣を、或は合

せ、或は分かちて、一廳三府四十三縣となし、臺灣には總督府ありて、その下に三縣三廳を置く、その名稱は左の如し。

廳府縣	官廳所在地	管轄國名
北海道廳	札幌區	北海道
東京府	東京市	武藏の内、伊豆の内、小笠原島
京都府	京都市	山城、丹波の内、丹後
大阪府	大阪市	河内、和泉、攝津の内
神奈川縣	横濱市	相模、武藏の内
兵庫縣	神戸市	播磨、但馬、淡路、攝津の内、丹波の内
長崎縣	長崎市	壹岐、對馬、肥前の内
新潟縣	新潟市	越後、佐渡
埼玉縣	浦和町	武藏の内

群馬縣 茨城縣 栃木縣 奈良縣 三重縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 滋賀縣 岐阜縣 長野縣

前橋市 千葉町 水戸市 宇都宮市 奈良市 津市 名古屋市 靜岡市 甲府市 大津市 岐阜市 長野市

上野、
安房・上總・下總の内、
常陸・下總の内、
下野、
大和、
伊勢・伊賀・志摩・紀伊の内、
三河・尾張、
駿河・遠江・伊豆の内、
甲斐、
近江、
美濃・飛騨、
信濃、

宮城縣 福島縣 巖手縣 青森縣 山形縣 秋田縣 福井縣 石川縣 富山縣 鳥取縣 島根縣 廣島縣

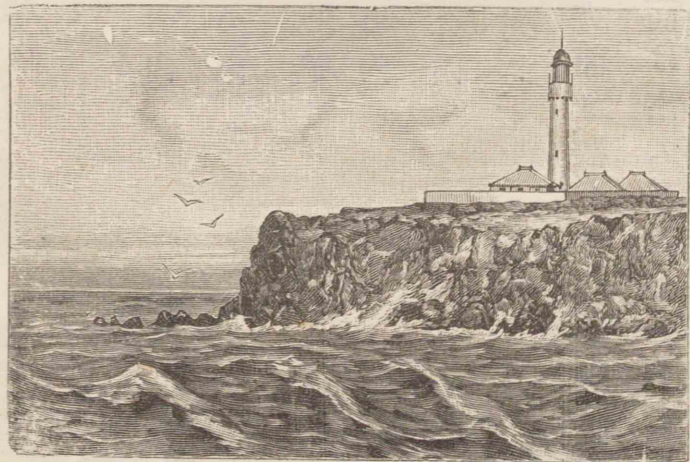
仙臺市 福島町 盛岡市 青森市 山形市 秋田市 福井市 金澤市 富山市 鳥取市 松江市 廣島市

陸前の内・磐城の内、
岩代・磐城の内、
陸前の内・陸中の内・陸奥の内、
陸奥の内、
羽前・羽後の内、
羽後の内・陸中の内、
越前・若狹、
加賀・能登、
越中、
因幡・伯耆、
出雲・石見・隱岐、
安藝・備後、

れども、海岸の延長は、却てその三倍に當り、四國の面積、亦臺灣の半ばなれども殆どその二倍に近し。

海岸線の延長を面積に較ぶれば、海岸の一里は殆ど面積四方に近き割合なるが故に、海岸には到る處に、海角港灣多し。就中、本州にては北端なる津輕、下北の二半島は陸奥灣を抱き、下北半島の東北端なる尻矢崎より南にかけ、陸中陸奥の界までは一帯の砂濱にして、出入少なく、是より南、陸前の南部に至る瀕海の地は、斷崖削立して海岸の屈曲夥しく、殊に牡鹿半島東に突出して仙臺灣をなす、仙臺灣より南、大東崎に至る海濱は、犬吠岬東に

(一) 近海に暗礁海霧多し、燈臺の設置ありて八里餘を照らす
(二) その燈臺は高さ十



犬吠崎の燈臺

六丈八尺白色の點火にして海上九里餘を照らす

(一) その燈臺には第一等不動白色の點火ありて九里餘を照らす
(二) 又茅渚

斗出して、鹿島灘と九十九里濱とを分かち、大概は平坦なる砂丘にして出入に乏し、大東崎より野島崎にかけての海を房州沖と稱し、沿海に岩礁多きが上に潮流疾く、舟行危く、東海第一の險所と稱す、此の邊一帯の地は、所謂房總半島にして、西の三浦半島と相對して東京灣を抱き、灣口の浦賀海峽は富津觀音の二岬を出だして、その咽喉を扼す、附近の海は鯉、鯔、鮪等の漁網殊に盛んに、東京人の需用を充たして猶餘りあり、東京灣は北に開くこと凡そ十三里、一面の淺砂をなし、西岸に産する、所謂淺草海苔は、その名殊に著はる。三浦半島の以西にては、伊豆半島は、その南端に石廊岬を出だし、左右に相模灘と駿河灣とを控ふ、駿河灣の西南端なる御前崎より、西へ大王崎にかけ、海上七十五里を遠州灘と稱し、内に、渥美、知多志摩の三半島は、渥美灣、知多灣、伊勢海を分かち、海岸一帯は砂洲なれども、浪高きを以て航海者の恐るる所たり、志摩半島より西南に潮岬にかけて、紀伊半島の海岸を熊野灘といひ、礁濱にして岩壁水に逼れり、潮岬より西は紀の海にして、田邊灣の外著しき出入なし、是より北は、大阪灣深く陸地に彎入し、その東岸及び北岸は砂濱なれど

神武天皇の命に
御矢に命を
流矢に命を
此の海に命を
洗ひ給ひし
に給ひし
さば血沼の
と傳ふ

も、西には淡路島横たはりて、紀淡海峡と明石海峡とをなす。大阪灣より西の方、下の關海峽まで沿海百餘里は即ち瀬戸内海にして、概ね砂濱なれども、海岸の屈曲殊に著しく、海上には無數の島嶼星列して、明媚の風致をなす。その播磨の海を播磨灘と稱し、備前には兒島半島東に曲りて、兒島灣を抱く。半島の西に水島灘あり、備後の南に備後灘、燧灘あり、それより音戸瀬戸を通ずれば、廣島灣にして、灣内の牡蠣はその味殊に佳く、遠く京阪地方の人の食膳に上る。その西は周防灘にして、壇浦は實にその西部にあり。日本海に瀕する方面は、概ね平直なる砂濱にして、海岸の出入甚だ少なく、島根半島東に斗出して、宍道湖中海を擁し、越前若狹丹後の沿岸亦稍出入して、敦賀灣若狹灣宮津灣舞鶴灣をなせる外、能登半島は北より東に彎曲して、その東に富山灣をなし、男鹿半島は羽後に突出して、八郎潟を擁するのみ、されど、附近の海は皆漁網に富み、男鹿半島の邊は雷魚を以て名高く、越後佐渡の海には烏賊鱈あり、能登の邊は鯨鯨あり、その他、若狹の鯛鱈は殊に京阪人の賞味する所なり。

(一)所謂阿波の鳴門

(二)又豊豫海峽云ふ

(三)傳へ云ふ三韓より船載の大鐘此の海邊に沈めりとの間に十五

四國は瀬戸内海に瀕する方面、海岸著しく出入し、東北淡路島との間なる鳴門海峽は、潮流相激して大渦をなし、航行甚だ危し。されど、魚類はその味殊に佳く、鳴門を通過せる鯛は市價ために貴し。鳴門海峽より西の海岸は、岩壁砂濱互に交はりて、西北に讃岐半島をなし、更に西南に曲折して、高繩半島と共に、豫讃灣をなす。伊豫一帯の海を伊豫灘と云ひ、西端は佐田岬に盡く、是れ即ち四國の極西端にして、九州の地藏岬と相對し、速吸海門を挾む。是より南は豊後水道にして、海岸殊に出入し、許多の島嶼處々に散點す。土佐の海を土佐灘と稱し、室戸蹊の二岬、その東西を限りて、土佐灣をなし、灣内は鯉珊瑚真珠等の産を以て名あり。

九州は西と北とに海岸殊に出入し、北部は東北に下の關海峽を距てて本州の西端に對す。是より西は沿岸處々に砂洲あれども、概ね壁崖峭立して、博多灣・唐津灣・伊萬里灣・洞海等の海灣をなし、その外洋の響灘・玄海灘は鐘ヶ崎を以て分界とす。玄界灘の西南は壹岐對馬にして、對馬は朝鮮海峽を距てて朝鮮と相對す。九州の西部は海岸一層錯雜し、肥前の大部は、分かれて彼杵島原

里快晴の日は遙かに炊煙を望むを得

(一)所謂有明洋又前海と云ふ
(二)又薩隅内海の名あり

(三)又大隅灣と云ふ

(四)西洋人は之を噴火灣と云ふ

の二半島をなし、彼杵半島は北に曲りて大村灣を抱き、島原半島は南に回りて、野母崎と共に千々岩灘を擁す、灘の南に横たはれるは天草島にして、その外洋の天草洋は、頼山陽の詠詩を以て名あり、天草島の東は八代灣にして、海水、南は黒瀬戸を過ぎて外洋に通じ、北は宇土半島を廻りて筑紫海に通ず、是より海岸を南へ、野間崎を東に廻れば、薩摩大隅の二半島は鹿兒島灣を抱き、佐多開聞の兩岬、その咽喉を扼す、大隅半島の南は種子屋久等の諸島に呼應して、七島灘をなし、遠く琉球諸島に至る。大隅半島の東に志布志灣あり、是より北に、日向の海を日向灘と云ひ、濱海は砂洲相連なり、且つ風浪荒きによりて良港に乏し。日向灘の北は豊後水道にして、佐賀關を北に廻れば、海水西に蝕して、大分灣をなし、灣北に國東半島あり。

北海道本地は概ね海岸の出入に乏しく、西南部に函館灣内浦灣石狩灣と、東南部に厚岸灣根室灣の外に著しき海灣なく、岬角亦甚だ少なく、北見半島北に張りて宗谷岬をなし、知床半島東北に突出する外襟裳岬納沙布岬神威岬積丹岬恵山岬白神岬等を出だせるのみ、その海岸は概ね平行せる砂濱なれ



壁絶大の岸東灣臺

ども、内浦灣口より襟裳岬に至る一帯は、断岸削立して峻嶮を極む。臺灣は概ね海岸の屈曲に乏しく、東北の小部稍出入して、富貴角北斗角三角等の岬角あると、南端に南岬あるとにより、海岸の延長凡そ二百八十里に過ぎず、瀕海の地も、支那に向へる方面は砂洲平遠にして、海岸には沙邱大に發達すれども、太平洋に向へる方面は、岩壁水際より直立して、高く五千尺よ

り六千尺に達し、殊に宜蘭より花蓮港にかけて、一帯の海岸は最も峻峻を極め、山岳水に迫りて屹立せるが内に、高さものは七千尺に時だち、一抹の輕雲絶壁に懸りて搖かざるが如きは、實に世界第一の高断岸なり。

地勢 帝國の地勢は亞細亞大陸の東部と關連して、全部三個の連續したる弓狀より成り、皆凸面を太平洋に向け、凹面を亞細亞大陸に對す。三弓中最北の北弓は、北海道本地の東半部、及び千島群島より成れる千島火山脈にして、露領カムチヤカ半島に起り、千島群島にかけて北海道本地に及び、良牛山・斜里岳・跡登雄阿寒・雌阿寒等の火山をなし、十勝・石狩の境上を限りて、ヌタプカウシベ・石狩岳・十勝岳・オプタテシケ等の高峯をなす。最南の南弓は九州の南部・琉球及び臺灣より成れる琉球山脈にして、北は肥後・日向の南境より、點々海

上にその頭角を顯はし、沖繩・八重山の諸群島にかけて臺灣に互り、東南に反轉して凸面を支那に對す。その凹面には霧島火山脈これと竝立し、北は霧島山より櫻島を過ぎ、西南に開聞嶽より薩南の寶七島を經、臺灣の北部を横斷して大屯山となり、終に澎湖島に止まれり、南弓と北弓との間なる中弓は、我が國の地體を構成する主要の隆起帶にして、本州・四國と、北海道本地の西半部及び九州の北部とを含み、全土、崑崙山脈・樺太山脈の二山脈より成り、富士火山脈はその兩脈の結合する處を横斷して、妙高・淺間・八ヶ岳・富士・箱根・天城等の諸山を起せるを以て、此の處一帯は、三弓中地體殊に隆起し、山岳最も高峻を極む。

中弓の太平洋に面する地方と、日本海に面する地方とは、全

く地體の構造を異にせるにより、又前なるを外帶と稱し、後なるを内帶と稱す。而して、樺太山脈は樺太島に起り、北海道本地を南北に貫きて、天鹽岳・宗谷岳・夕張岳・芽室岳等となり、一度太平洋に没し、本州に入りては、北上山脈・阿武隈山脈となり、早池峯・姫神山・八溝山・靈山・大瀧根山等を起して、外帶地方を彌縫し、常陸・下野の界より、武藏・信濃の界にかけて、秩父山群となりて、中央の高原に合す。その裏面には、一帯の火山脈、北は北海道本地の内浦灣頭なる惠山・駒ヶ岳等の火山に起り、陸羽の界を劃りて、岩手・藏王・森吉・駒ヶ岳・吾妻・磐梯・那須・二荒・赤城・榛名等の諸山に續き、淺間山に至りて止まる、これを淺間火山脈と云ふ、此の火山脈は、本州北部の内外二帶を分離する主要の山脈にして、地形上最も必要なるにより、普通

にこれを中央分水山脈と稱す。●崑崙山脈は支那の崑崙山脈の連續にして、支那の東海より、二派に分かれて九州に入り、本脈は肥後の南部より四國に入り、四國山脈となりて吉森山・劍山を起し、紀伊に渡りて高野山・地藏岳・大臺ヶ原山・那智山等となり、三河より赤石山・秋葉山・駒ヶ岳・白嶺・御岳・乘鞍岳・鎗ヶ岳等に續きて、越後の親不知の嶮に終り、他の一脈は、肥前の彼杵半島より九州の北部を互り、下關海峽を越えて中國山脈となり、本州西部の脊梁をなして山陰・山陽を分かち、若狹・越前に至りて本脈と合す、本支兩脈の間は、所謂瀬戸内海にして、阿蘇火山脈は肥前の温泉嶽に起り、阿蘇山・祖母岳・由布岳等にかけて、國東半島を経て瀬戸内海に没す。

水系 我が國は土地狹く、且つ山岳その脊梁を縱斷せるに

(一)又阪東
太田の合流
烏川の合流
通す
千八水川の
名あり越後
を流るるこ
里凡そ四十

より、兩側の海に達する距離、一般に近く、また勾配甚だ急なるを以て、長大なる水系を作ること能はず、されど、稍大なるものに至りては、その水域、灌漑の便によろしきが故に、農産物は主としてこの平原より出づるのみならず、運輸の利に富み、人民次第に稠居して、その地に繁華なる都會をなす、利根川流域の關東平原、本曾川の濃尾平原、淀川、大和川の畿内平原、筑後川の筑紫平原、信濃川、阿賀川の越後平原、北上川、阿武隈川の宮城野、石狩川の石狩平原、吉野川の阿波平原、下水溪の臺南平原などは、恰もその實例を示せり。

今我が國の主なる水系を見るに、北海道本地は、樺太山脈によりて東西に分かたれ、千島火山脈その東部を横ぎりて、南北の分水界をなせるにより、水系は三方に向ひ、石狩川、天鹽川は日本海に、十勝川、釧路川は太平洋に、湧別川、常呂川、網走川等はオコック海に注ぐ。就中、石狩川、天鹽川、十勝川は北海道の三大河にして、石狩、天鹽の兩川は共に數十里の間、汽船の通ずるのみならず、流域は地味肥え、耕作に適す。

(一)盛阿
下流は舟
楫を通す
二下流は島
漕の便あり
三又奥の
平野云ひ
田圃凡そ三
十萬町歩
四田圃凡
そ五十四萬
町歩
(五)西に折
る所より
舟筏を通す
(六)能代と
共にその平

本州にては、北部は中央分水山脈によりて、水系一は太平洋の流域を作り、他は日本海の流域を作る、而して、太平洋の流域を作るものは、那須、八溝の低連脈によりて、水系を南北に分ち、北上川、阿武隈川は南北より落ち合ひて宮城野を灌漑し、利根川、那珂川、鬼怒川、隅田川、多摩川、馬入川等は關東平野を灌漑す、宮城野は地區廣く、その土能く米桑に適し、仙臺米は古へより名高し、關東平野も地域廣く、八國に跨り、土肥え、穀類、蔬菜に適するのみならず、數多の支流、縦横に貫けるを以て、頗る運輸の便に富み、都邑の發達せる者、東京市を始め、人口一萬以上のもの二十有餘あり、日本海の流域を作るものも、亦、太平洋面と同じく、吾妻、月山の連脈によりて、水系を南北に分ち、北に岩木能代、御物、最上の諸流あり、南に阿賀、信濃の二流あり、就中、御物能代、最上の流域は地坦らかに、米穀に適し、所謂、秋田米、羽後米の出づる處たり、信濃川は本州第

野十三萬町歩の田圃
有す
(七)田圃凡
そ十一萬町
歩
(二)田圃凡
そ十五萬町
歩

(二)二十七萬
町歩の田圃
有す

(三)十九萬
町歩の田圃
有す

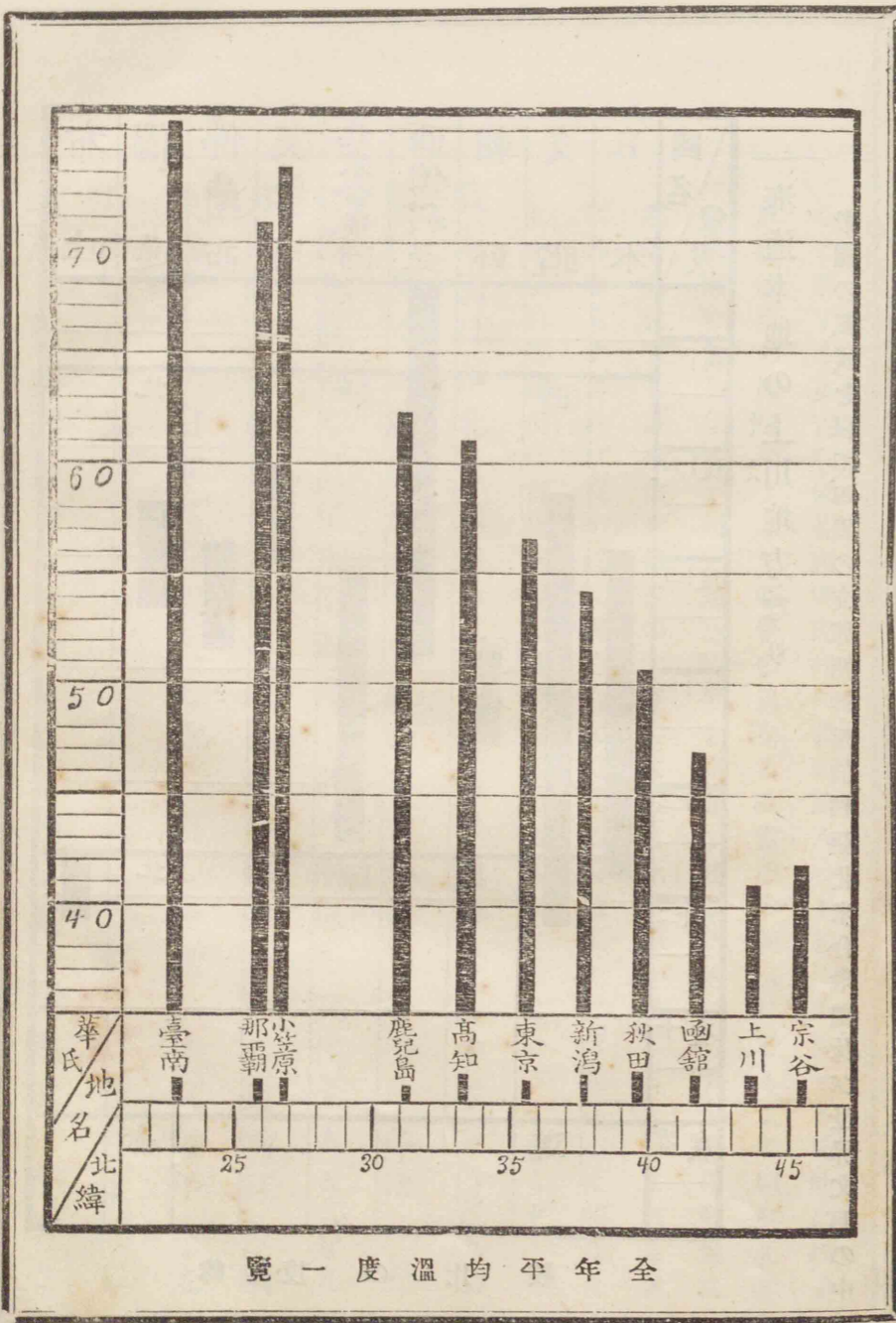
一の長流にして、その流域なる越後平原は米作に適し、所謂越後米本場の地たり。本州の南部は琵琶湖を中心として、水系は東部西部南部に分かれ、東部は赤石木曾飛驒の諸山脈によりて南北に分かれたれ、南部は木曾矢作天龍大井富士の諸川南下して太平洋に注ぎ、北部は能登半島を以て更に二分せられ、北に流るる黒部川神通川庄川は、西北に流るる九頭龍川手取川と方向を異にせり。就中、木曾川の流域は、地區最も廣く、土亦肥え、美濃米尾張米の産地たり。西部は中國山脈によりて、水系は自然に南北に分かれたれ、朝來川日野川千代川江川は日本海に排水し、淀川大和川加古川吉井川旭川高梁川太田川の諸流は瀬戸内海に排水す、その内、淀大和の流域は、所謂畿内平原にして、地區廣く五國に跨り、地平らかに、土肥ゆ、殊に淀川は流程長からざれども、水量多きが故に、頗る漕運の便に富み、河系に京都大阪の大都あり。南部は紀伊山脈その中央に横たはりて、水系を三方に分ち、紀川は西に、宮川は東に、熊野川は南に流る。四國にては四國山脈を以て、水系を南北に分ちてども、山勢稍北に偏せるに

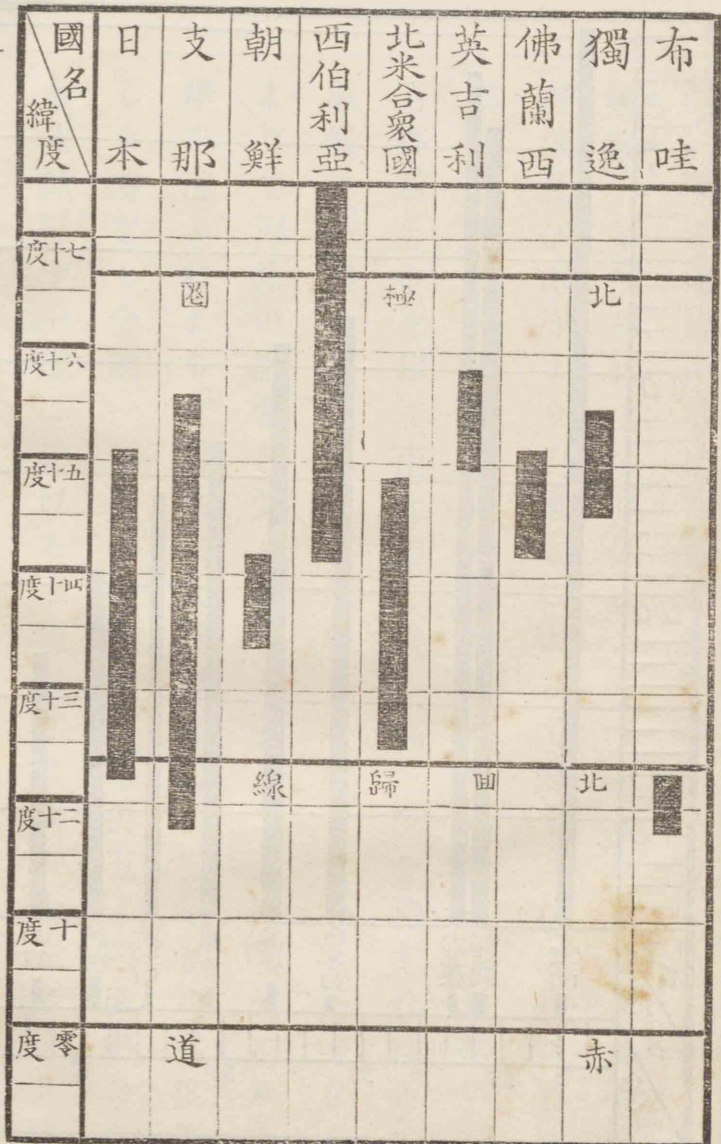
(一)四國三
郎と云ふ

(二)又筑紫
二郎と云ひ
筑後に入り
てより舟楫
を通ず、舟
磨川、川内
川、紫の三
大川と云ふ
(三)人吉よ
り下流舟楫
を通ず
(四)河口よ
り十六里舟
楫の便あり
(五)十二萬
五千町歩の
田圃有す

より、南部に渡川仁淀川の諸流あるに反し、北部に大河なく、吉野川は山系に並びて東流し、流域は地平らかに、藍の産出を以て名あり。九州にては國東半島より英彦山を経て多良岳に至る諸山によりて、水系を南北に分ち、南部は更に大分の南より、鹿兒島灣に至る山岳によりて、東西に分ちたるを以て、遠賀川山國川は北に、筑後川菊池川白川球磨川川内川は西に、大淀川美津川五ヶ瀬川大野川は東に注ぐ。就中、筑後川の流域は、所謂筑紫平原にして、地區最も廣く、米作に適し、遠賀川菊池川白川の流域も亦平野をなし、肥後米筑後米は良質の譽あり。臺灣にては分水山脈によりて、水系を東西に分ちてども、山勢東に迫るにより、西に淡水溪大甲溪濁水溪下淡水溪等の諸水あるに反し、東は卑南溪獨り稍大なるのみ。湖沼も亦河流と同じく、地形狹小なるにより、面積の廣大なる者なければども、琵琶湖・霞浦・猿間湖・中海・猪苗代湖・北浦・八郎

鴻・尖道湖・印旛沼等は皆舟運灌漑の便あり。
 氣候 氣候は緯度の高低によりて定まれども、又地勢・風向・
 海流及び海洋よりの遠近によりて變ず。されば、我が國は南
 部は熱帶に入り、北部は寒帶に近きのみならず、地勢の錯雜
 も亦著しきを以て、南北地を換へ、高低處を轉ずれば、各地の
 氣候に、差異あるは免るる能はざる所なれども、島國なるに
 よりて海洋の影響を受くること多く、ことに暖流來りて海
 岸を洗ふにより、寒暑共に大抵溫和にして、冬夏の溫度に著
 しき差なし。全國一年の平均溫度は、華氏五十四度半なれど
 も、北緯三十一度に於ける平均溫度は同六十三度半、北緯四
 十度に於ける平均溫度は同五十度なり、その内、平均溫度の
 最も高きは、臺灣・琉球及び小笠原地方にして、最も低きは北





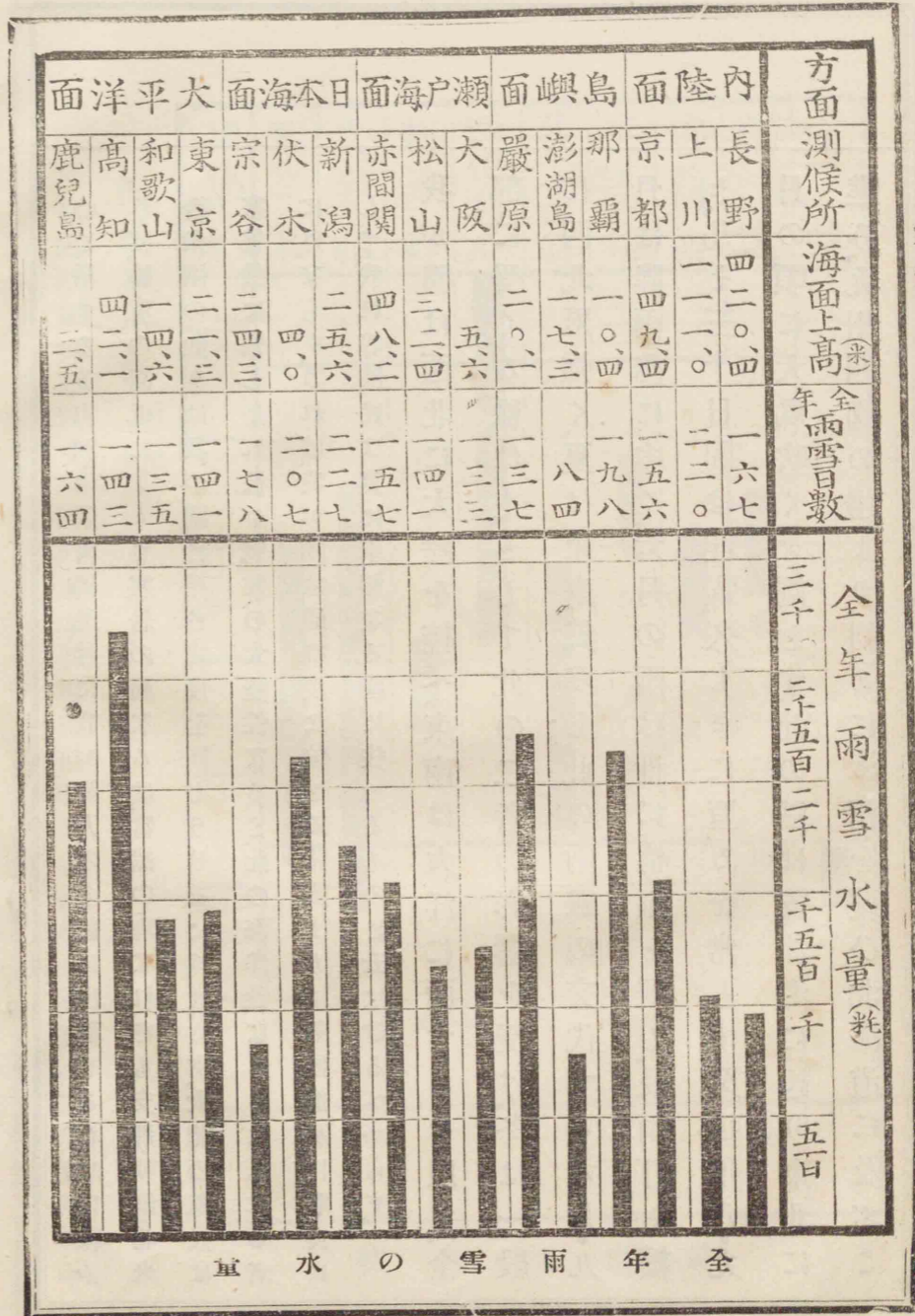
海道本地の上川地方なり。

帝國の氣候を以て、四隣の支那朝鮮西伯利亞北米合衆國及び世界文明の中

緯度の比較

心と稱する、英吉利佛蘭西獨逸并に我が國人の多數に出稼せる布哇に較ぶれば、緯度の高低によりて、寒暑の異なるは、當然の理なれども、支那朝鮮北米合衆國の如きは、我が國と殆ど緯度を同じうせるに拘はらず、大體の氣候は寒暑共に強し、是れ彼が氣候の大陸性なると、此の海洋性なるとによれる者に外ならず、されば、我が國は同緯度に位せる諸國よりは、氣候遙かに順良にして、我れ等國民は實に幸福なる國に住めるものと云はざるべからず。

我が國は西北に大陸を控へ、東南は大洋に面するを以て、全部に受くる風は主として此の二者の影響を受け、冬は一般に西北風強く、夏は東南風多し。此の兩風の交代する六月・九月は降雨殊に多く、六月の雨は世に梅雨と稱し、長雨打ち續き、凡そ三十日間淫霖久しきに亙るを常とす。又毎年八・九月の頃に大風吹くを例とす、此の風は支那海に起り、東北に進み、九州・四國の邊より、斜めに本州を襲ひ、北海道に及ぶこ



と多し、古來農家の、所謂、二百十日・二百二十日の厄日と稱するもの即ち是なり。

雨雪は全國を通じて多く、年中雨量の最も多きを六月・九月とす。降雨の多量なる地方は、紀伊半島の南部・四國・九州の南部・能登半島の附近にして、その稀少なるは瀬戸内海の沿岸地方・本州の中央部及び北海道とす。臺灣は冬期東北氣候風の衝路に當るを以て、東北部に降雨多く、新高山一帯の連脈は、此の期節に降雪を見ることあり、されど、夏期は西南氣候風の溫氣を含み來るにより、西南部はこれがために屢驟雨あり。

海流 我が國の氣候は、又海流のために支配せらるること少なからず、而してその海流には、暖流と寒流とありて、南部

は概ね暖流に洗はれ、北部は寒流に洗はる。

暖流は、所謂日本海流にして、臺灣の南端近傍に起り、東北に向ひ、琉球諸島に至りて二派となり、本流は九州四國及び本州の南岸を洗ひ、犬吠岬の沖にて二たび二派に分かれ、その一派は東方に進みて遠ざかり、他の一派は北方に流れ、金華山沖に至りて、方向を東北に轉ず、此の海流は、その色殊に深藍なるにより、黒潮(ニクロシホ)の名ありて流動激し、その支流は九州の西岸を過ぎ、對馬海峽より日本海に入り、東北に進みて更に二分し、一は津輕海峽を過ぎ、襟裳岬の邊にて消失し、他は北海道の西岸を洗ひ、宗谷海峽よりオコック海に入りて消滅す、對馬海流是なり。

寒流は千島海流、來滿海流、樺太海流の三派に分かれ、みな源をオコック海に發す。千島海流は、所謂親潮(ニクシホ)にして、千島諸島を洗ひ、北海道の東南岸より、本州の東岸に沿ひ、犬吠岬の邊にて黒潮の本流に合し、その跡を没す。來滿海流は日本海の西北部を流れ、朝鮮海峽を過ぎ、津輕海峽より來ス。千島海流の分派と合し、東海に入り、臺灣海峽に達す。樺太海流は樺太島の北端にて、來滿海流

(一)又黒潮川と云ひ、その幅廣き處凡そ二百里に互る

(二)その幅平均二百里に互る

より分かれ、同島の東岸に沿ひて進み、宗谷海峽より來る對馬海流に合し、日本海に入りてその形跡を没す。

生物 群島の地形は、南北に長く、また、四面に海洋の感化を受くると、雨量の豊かなるにより、生物は温帯より寒熱の二帯に互りて、その種類極めて夥し。

植物は蘇鐵、棕櫚、芭蕉、榕樹、樟、羊齒、烏木、檳榔樹、椰子、甘蔗、鳳梨、露兜(タコノキ)より、トド松、エゾ松、ハヒ松、羅漢松等を始め、山毛櫸、樅、杉、赤松、黒松、五釵松、榲桲、山茶、栗、扁柏、梅及び米、麥、草、綿、櫛、茶、甘蔗、甘藷等の各種を有し、その分布は學者によりて異なれども、大抵は熱帯樹帶、半熱帯樹帶、温帯低地帶、温帯高地帶、高山帶の五帯に分かつ。

熱帯樹帶は、年内温度の高低少なく、降雪結霜の憂なき琉球中部以南の諸島



珈 球

蕉 實

露 兜

小笠原群島、臺灣等の地方にして、主要の植物は椰子、榕樹、檳榔、樹紗、羅などの外に、芭蕉、鳳梨、甘蔗、珈球等も亦能く生育す。

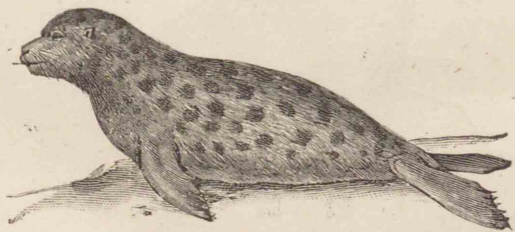
半熱帯樹帯は北緯二十六度より、同三十六度に至る間に、琉球の中部以北九州、四國及び本州の南部を含み、高地は海拔千五六百尺に達す、主要の植物は山茶、檉、杉、羅漢松、黒松、竹、柏、樟等にして、蘇鐵、棕櫚亦能く野生し、竹類の生成又良好なり、されど、此の樹帯は我が國にて早くより開けたる地なるにより、平地は化して耕地となり、米、麥、甘藷等の耕作能く行はれ、殊に茶樹の生育に適す。

温帯低地帯は北緯三十六度より北海道本地を含みて、千島の南部に達する地域にして、低地は半熱帯樹帯と同じく、稻作を第一とし、百般の農業能く行はれ、高地は栗、樺、扁柏、檜、杉、赤松、金松、海松等生育し、殊に漆樹の培栽に適す。温帯高地帯は四國、本州、北海道の海拔六千尺より、八九千尺に達する高山峻嶺を含み、氣候悪しく、暴風多く、且つ地味瘠せたるを以て、その森林は良材を生せず、エゾ松、トド松等は本帯主要の植物に屬すれども、その樹木は用材た

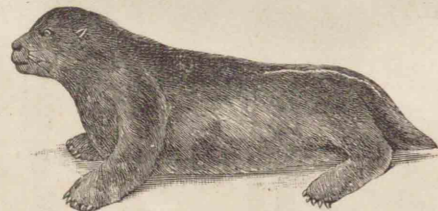
る價值よりは、却て岩石の崩壊、土砂の流出を防ぐが爲めに貴重せらるるに過ぎず。

高山帯は温帯高地帯以上の地區にして、ハヒ松を以て主要の植物とす、此の樹は信濃の御岳駒ヶ岳羽後の鳥海山陸奥の八甲田山等の絶頂に生育し、北海道には三千尺の高地に繁茂し、殊に千島には處々に蔓延して、廣き森林をなせり。

動物は禽獸蟲魚の族、一々數へ來れば、その種類極めて多けれども、分布は植物の如く判然たる區分をなさず、されど、南北自らその種類同じからずして、北海道の熊・鹿は、本州のものと同なるのみならず、本州の猿・猪等は北海道に未だこれを見ず、海産物も亦、太平洋に住める者と日本海のとほ、稍その性質を異にし、太平洋の黒潮には鯛・鯉・鱈・鮪・鰹・河豚・ウミガメ・ナサガメ等を出だすに、日本海には、烏賊・鮭・鱒・鱈・鰹・海豹。



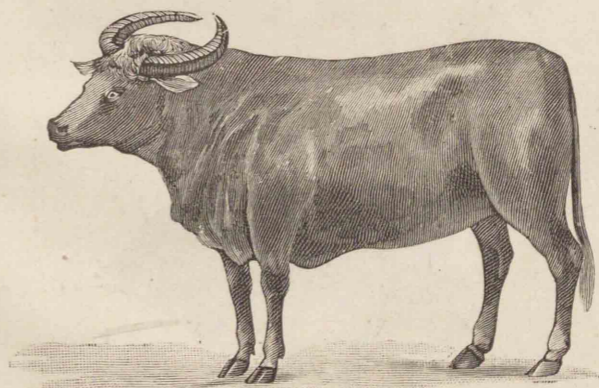
海豹



海豹



獸 膾 膾



牛 水

膾膾獸フツトキの類を産す、その他鯨魚サシノイウナは本州中部地方の谿谷に産し、水牛は多く臺灣に住す、猿は殊に四國に有名にして、琉球・薩摩・大隅には毒蛇・毒蟲多く、わけて琉球の飯匙イハシ傭人は人の最も懼るる所、臺灣には獨り豹を産す、その他、千島群島には、シマガラス・ウミガラス・エトピリカ・ホシガラス等の諸鳥及び貂・熊等の諸獸あり。

第二章 地方誌

帝國の版圖は臺灣より千島に亙り、長き緯度の間に位せるを以て、本州・四國・九州は、琉球・臺灣・北海道と、啻に氣候生物等

の同じからざるのみならず、琉球・北海道は、嘗て久しく化外に置かれたりし所、臺灣は新たに清國より收容したる所とて、人情風俗言語等も亦、自然に異なるものあるにより、均しく我が皇家、一視同仁の民たるに拘はらず、百般の施設は、本州・四國・九州と、今猶、著しき差違あるを以て、地理學上、全國を(一)中日本、(二)北日本、(三)南日本の三部に分ち、中日本は本州・四國・九州を合せ稱し、北日本は北海道、南日本は琉球・臺灣を稱することとす。

(一) 中日本

中日本は地區最も廣くして、全面積の三分の二以上を占むるにより、便宜上、琵琶湖を以て、又東部・西部に二分す。これを畿道の制に較ぶれば、東部は東海・東山・北陸の三道にして、西

部は畿内・山陽・山陰・南海・西海の一畿・四道に當る、よりて更に東部を(イ)東海區、(ロ)中山區、(ハ)奥羽區、(ニ)北陸區に分ち、西部を(イ)近畿區、(ロ)中國區、(ハ)四國區、(ニ)九州區に分かつ。

中日本東部

(イ) 東海區

東海區は伊賀・伊勢・志摩・尾張・三河・遠江・駿河・甲斐・伊豆・相模・武藏・安房・上總・下總・常陸の東海道全部を含み、縣治上分ちて、東京府・神奈川縣・千葉縣・茨城縣・埼玉縣・山梨縣・静岡縣・愛知縣・三重縣の一府八縣とす。

東京府 武藏の南部・豆南七島・小笠原群島を支配す。●全部關東平野の西部を占め、多摩川・隅田川・中川等の灌漑を受くるにより、地坦らかに、土肥えたれども、西境は關東山彙に接して一帯の山地をなせり。●東京市は府廳所在の地にして、武藏の東南に位し、南は東京灣を控へ、隅田川市の東部を流

(一) 戸城はその江太田道灌の築きし處

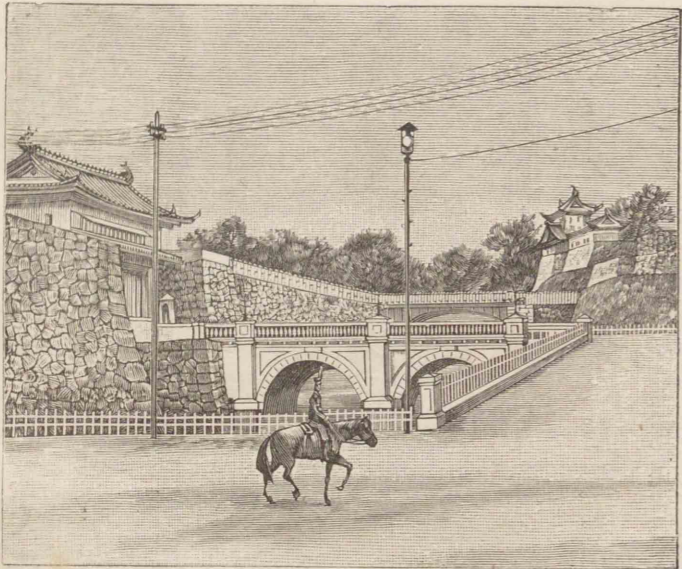
(二) 麴町、神田、日本

る。此の地、維新前までは、江戸と稱し、その昔しは、武藏野と云ひ、草莽の一面に生ひ繁れる、はてしなき原野なりしが、徳川氏覇府を爰に開きしより、次第に繁昌に趣き、明治の初年、皇居を移し給ふに及びて、名を東京と改められ、爾來、中央政府所在の地として、今日の盛大を致せり、されば、古歌に「武藏野は月のかくれん山もなし草より出でて草にこそ入れ」といひし茫々たる荒野も、今は、變じて人口百五十萬の市街となり、嘗に帝國第一の大都たるのみならず、又世界屈指の大市たるに至れり、住民は古へ江戸兒エドコと稱し、性活潑任俠にして、水火をも辭せざる氣象ありしが、維新後は、四方より入り込みし人に化せられ、各地と大抵風俗を均しうするに至れり。

● 全市を十五區(三)に分ち、更に地勢に従ひ、俗に山の手、下町シタマチ

橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、本郷、下谷、深草、本所、注川

(一) 外に赤坂、宮あり



皇城二里橋

に大別す、市街は四通八達して、主要なる街路には馬車鐵道

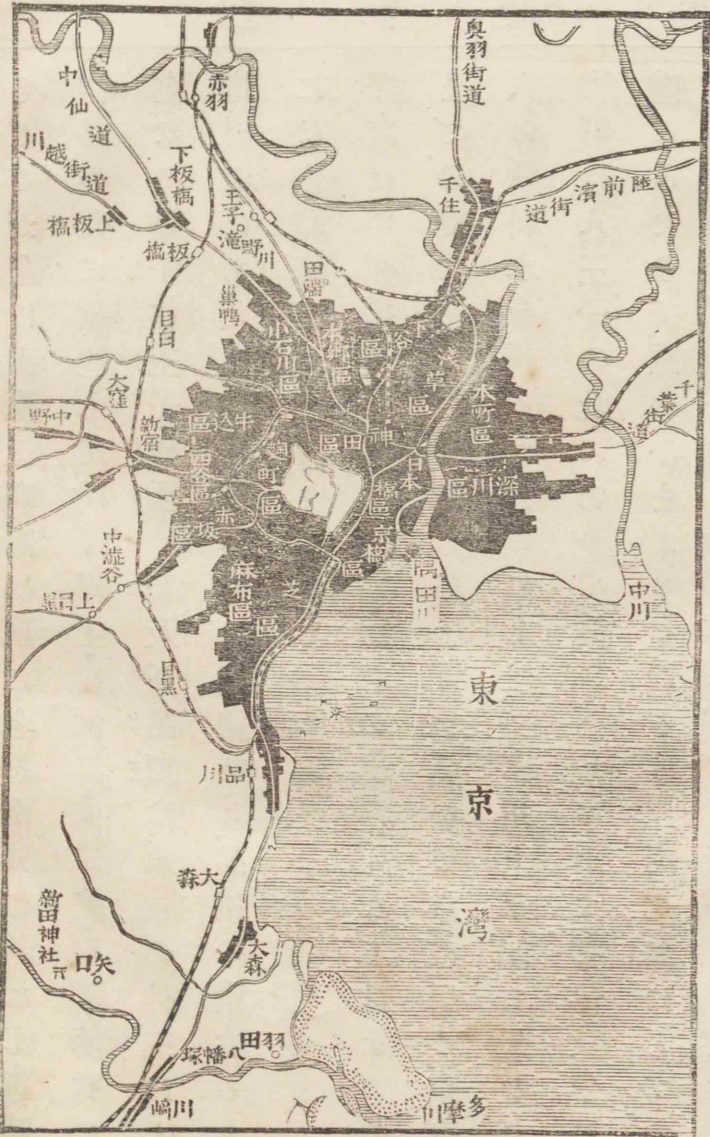
を設け、又電氣燈或は瓦斯燈を點じて、暗夜も猶ほ白晝の觀あり、皇城は市の中央に位し、その周圍は二重若しくは三重の塹を鑿ち、内閣、宮内省、樞密院、近衛師團等は城内に、國會議事堂を始め、内務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信の諸省、大審院、控訴院、行政

(一)有名なる浅草寺あり
 (二)増上寺あり
 (三)増上寺あり
 (四)増上寺あり
 (五)増上寺あり
 (六)増上寺あり
 (七)増上寺あり
 (八)増上寺あり
 (九)増上寺あり
 (十)増上寺あり
 (十一)増上寺あり
 (十二)増上寺あり
 (十三)増上寺あり
 (十四)増上寺あり
 (十五)増上寺あり
 (十六)増上寺あり
 (十七)増上寺あり
 (十八)増上寺あり
 (十九)増上寺あり
 (二十)増上寺あり

にあり。●本市は又我が國學藝の中心にして、東京帝國大學・學習院・華族女學校・陸海軍大學校・高等師範學校・第一高等學校・陸軍士官學校・高等商業學校・東京工業學校・東京商船學校・東京美術學校等より、各種の専門學校を始め、東京帝室博物館・動物園・植物園・圖書館等一も備はらざるなし。●市内には各所に公園多し、就中、上野の公園は樹木の手入れ能く行届き、殊に櫻樹多くして、花時には頗る明媚の風致を添へ、その地域の大きなは實に世界に有數たり、又都人の常に群集するを淺草とし、芝及び九段の公園之に亞ぎ、その規模小なれども、星ヶ岡・富ヶ岡は勝景を以て聞え、日枝神社は神田・明神と共に名高し、その他、郊外には隅田川の河畔・愛宕山上の風景・團子坂の菊・龜井戸の梅・飛鳥山・小金井の櫻・瀧の川の紅葉

に覽れたる志士を祀る

など、何れも四時都人遊覽の賞地たり。●本市の袋物・團扇・足袋・下駄・煙管・海苔・錦繪等、舊來の産物は益進歩して聲譽を墮



近附のそび及京東

(一)附近の地、梨子の産あり

(二)所謂一織、織、風通

(三)附近より五日市の織物を産す

(四)鎮西八郎朝の流されし地

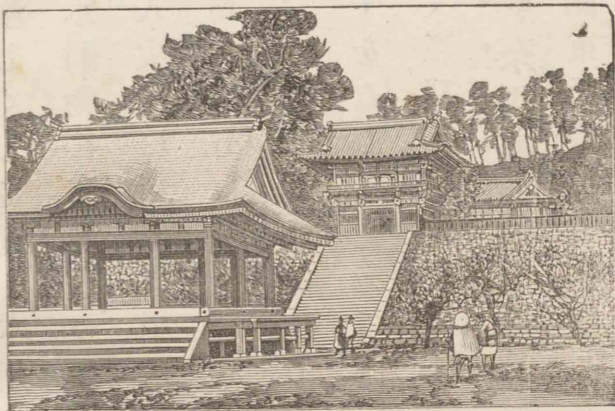
さざるが上に、美術工藝品は夙に名を海外に著はし、近時、製作品亦大に發達して、硝子細工、裝飾品、西洋紙、麥酒等殊に著名なり。●千住王子板橋新宿及び品川は東京の外郭にして、皆國道にあたり、鐵道は各地と連絡せり、品川の南なる大森には淺草海苔の特産あり、新宿の西に八王子青梅あり、八王子町は甲州街道に當り、製絲機織の業盛んなり。此より新宿までの間に、多摩川を渡る邊より、長渠を東京に引く、東京市人の飲料水を得るがためにして、多摩川上水即ち是なり。青梅町は八王子の北にありて、眞綿石灰を出す。●伊豆半島の南にあたりて、霞のひまより見ゆるは豆南七島にして、大島最も大きく、その東南は利島新島神津島三宅島御倉島等より、遠く八丈島に連なる、御倉島と八丈島との間は、所謂、黒潮

(一)小笠原貞頼の發見に由る

の流路に當り、殊に夏時西南風の盛んなるときは、その海流激しくして、近く本州に觸ることあり、故に附近の海は温水動物に富み、鱧の如きは我が國屈指の好漁場と稱せらる、八丈島には八丈絹八丈紬の産あり。●小笠原群島は豆南七島の南方にあり、父島母島最も大きく、その南は硫黄島に連なる、此の群島は久しく無人の境なりしが、今は人口凡そ三千を有し、地肥えて、椰樹鳳梨露兜甘蔗珈琲等の生育に適し、又漁利あり、硫黄島には硫黄の特産あり。

●**神奈川縣** 武藏の最南部及び相模全國を管轄す。●大部は關東平野に屬すれども、西は箱根の諸山を控へ、南東は一帶海に面し、三浦半島その間に突出して、相模灘と東京灣とを分かつ。●横濱市は縣廳所在の地にして、武藏の東南隅に位

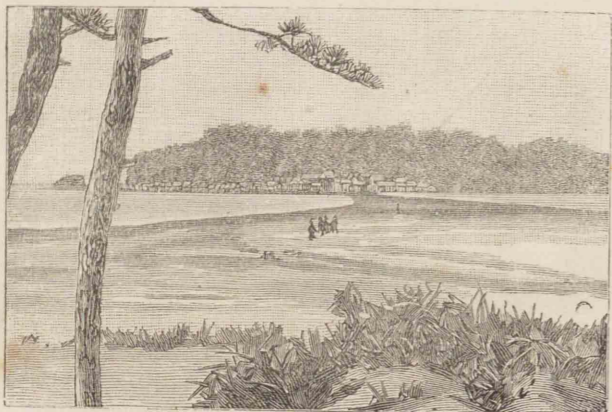
（一）生多村
その北にあ



鎌倉八幡宮

す。もと、海濱の小漁村たるに過ぎざりしが、安政六年に、外人との互市場となりしより、内外の船舶次第に輻湊し、今は、我が國第一の開港場となり、人口も凡そ二十萬に近く、外人多く在留し、外國の領事館あり。ここより主として、生絲・羽二重・絹手巾・甲斐絹・茶・銅を輸出し、綿絲・石油・砂糖・羅紗・機械・雜貨類を輸入す。●東京より官設東海道線の鐵道は、神奈川を経て一時間に横濱に達す、途中の六郷川の上流に矢口渡あり。横濱より西、流車半時間のところに大船あり。

（二）照鐘嵐雪月帆
平野名島瀨
野崎川名島瀨
小川名島瀨
乙瀬戸名島瀨
歸秋夜暮晴晚夕

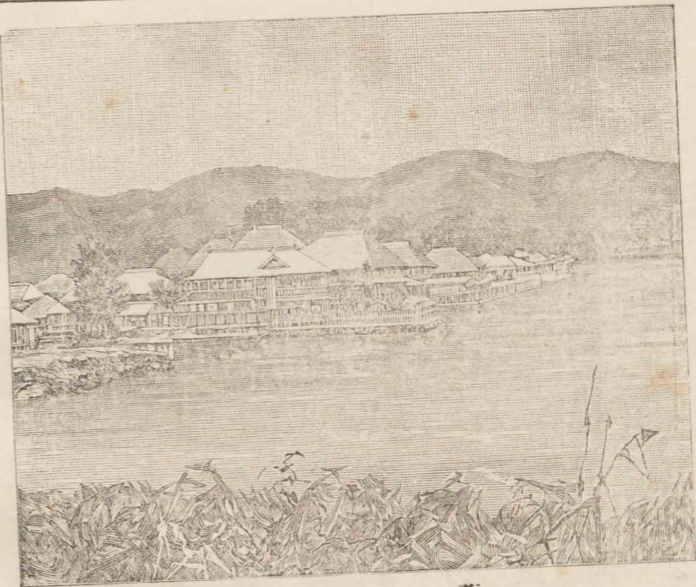


江の島

り、是より支線は三浦半島に分かれ、鎌倉を経て横須賀に至る。三浦半島附近の海には、魚貝多きを以て、その南端なる三崎に東京帝國大學の臨海實驗場あり、史上に名高き浦賀は横須賀の東南にあり、北條顯時の建てたる金澤文庫の遺趾ある金澤は、横須賀の北にありて、その八景はことに名高く、實に關東有數の勝區たり。横須賀は灣内廣く、自然の良港をなせるに、より、重要な軍港として、第一海軍區の鎮守府を置き、巨大なる造船場あり、鎌倉は、今や、風物

(一)官幣
社にし
長親王
る

(二)遊基上
人の開基
の山清淨
光寺あり
中山と雨降
神



湖の蘆

大磯より國府津に達す。此の邊は氣候一帶に溫和にして、殊

荒れ果てたれども、昔し源頼朝の幕府を開きし地にして、鶴ヶ岡八幡宮、鎌倉宮、建長寺、圓覺寺、長谷大佛等あり、鎌倉より西に海岸を、七里ヶ濱に行けば、稻村崎龍口寺、腰越等、數多の古蹟あり、その對岸の江島は風景絶佳にして、潮水退けば歩いて渡ることを得。●大船より汽車は西に藤澤を經、馬入川を渡り、大山を右に見て

社あり大山
多登山す者

二蘆の湯、
湯本、塔の
澤、堂、ケ、島、
宮の下、箱
根の七湯と
稱し、小籠
谷、湯の花、
姥子、仙石
原、強羅を
湯加へて十二

に大磯は海水浴に適し、夏日浴客常に群をなす、國府津より電氣鐵道は西へ小田原に通ず、ここは後北條氏によりて史上に名高き處にして、梅干の名産あり。是より湯本を經て、箱根峠を越ゆ、箱根は有名なる温泉のある處、その十二湯は避暑の好地たり、絶頂の蘆の湖は水清きが上に、富士の山影湖面に映じ、山水靈秀にして、湖畔に離宮あり、この地また維新以前には名高き箱根の關所ありし處たり。

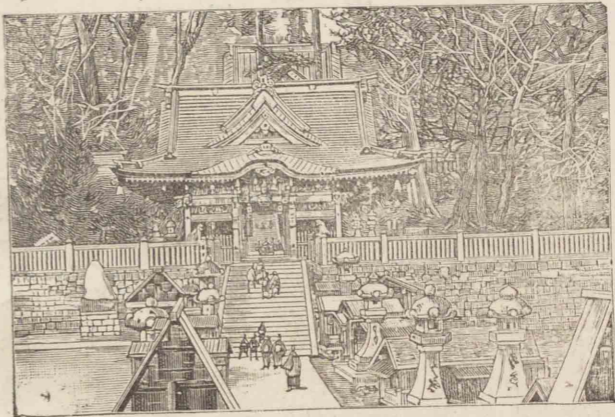
縣下の物産には、漬物、鎌倉海老、挽物、細工等あり。

●千葉縣 安房・上總の全部・下總の大部を支配す。●大部は房總半島の地にして、北は利根川・江戸川を限り、地勢概ね平坦なれども、南部は山岳稍重疊して、清澄・鹿野・鋸の諸山を起せり。●千葉町は縣廳所在の地にして、下總の西南に位し、第一

高等學校の醫學部あり。總武鐵道は東京より江戸川を渡り、市川・船橋を經、一時間餘にして此處に達す。江戸川は武藏・下

(一)明治六
年(一八七三)
至尊の
名づけ給ひ
し所

(二)有名な
宗吾神社
あり



成田の新勝寺

野田・流山・行徳等の都會あり、市川の北なる國府臺は里見氏の古戰場にして、船橋の東北には習志野あり。千葉町よりは、總武鐵道は猶東に佐倉を經て銚子に通じ、成田鐵道は佐倉より成田を經て佐原に至る。成田には新勝寺の不動尊ありて殊に世に名高し、佐原は地

に於ける偉功の不朽なるべきは、誰れ人も疑はざる所なり。佐原の東なる香取神宮は建國の功神、經津主神を祀り、武甕槌神を祀れる常陸の鹿島神宮と共に、神武天皇の御代に創建せられ、我が國最古の神社の一なり。銚子の



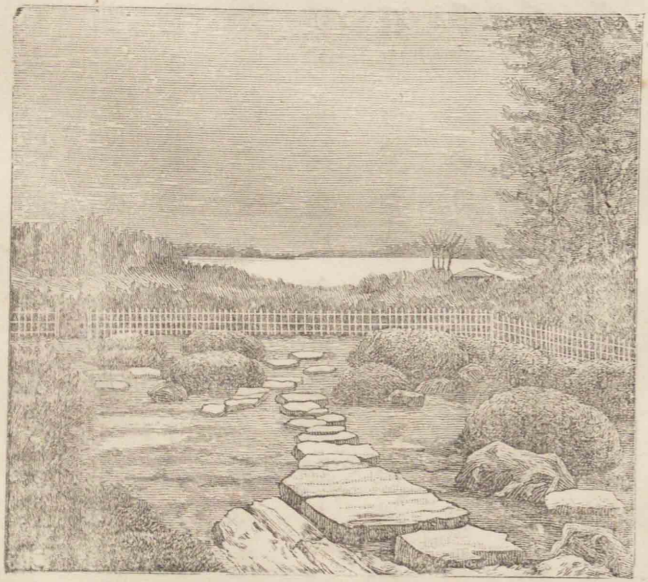
伊能忠敬翁と測地の翁

は利根川口にある港にして、醤油・乾魚・縮布を産し、市況繁華なり、銚子の海角は犬吠岬にして、ここより西南にかけ、一弓彎の砂汀をなせるを九十九里濱とす。安房は陸路交通の便に乏しけれども、房總鐵道は千葉町より大網を経て、一は東北の東金に至り、他は南に上總の東海岸を掠む。是より西南に海岸に沿ひて行けば、勝浦・小湊を経て館山あり。小湊は日蓮上人の生れし處にして、誕生寺あり。安房地方に日蓮宗の信徒多きは全くこれにちなむ。館山は北條・木更津と共に、氣候溫和なるにより療養地として知られ、東京通ひの汽船日に往來す。

縣下の物産にては野田醬油・流山味淋・行徳鹽・銚子縮布・佐倉炭・佐原酒・東金茶・房州砂等能く世に知らる。

(一)水戸中納言三十五萬石
(二)金澤の兼六園・阿山の後樂園を合せ稱す

茨城縣 常陸の全部・下總の西北小部を管す。●利根川の流域は地一般に平坦なれども、北部は阿武隈山脈の南端に屬して、山巒重疊し、それよりつづきて筑波・加波の諸山をなす。●水戸市は縣廳所在の地にして、北に那珂川を帶び、南に千波沼を控ふ。此の地は徳川氏の舊城下にして、當時の弘道館・偕樂園は、今に舊型を存し、殊に偕樂園は風趣に富み、日本三公園の一たり。河口の湊は此の地と汽船の往來あり、日本



園 樂 偕

(一) 源義家
の吹く風
を勿來の關
と思へども
みちもせど
散る山櫻に
しなと詠み
所

鐵道の水戸線は東京より濱街道に沿ひ、小金原を過ぎ、霞浦を右に見て土浦・石岡等を経、水戸に通じ、常磐線は更に北に街道に沿ひ、勿來を過ぎて仙臺に連結し、又水戸よりは、西に笠間・下館・結城を経、小山に至りて東北鐵道に會する小山線及び北に久慈川を渡りて、太田に達する太田鐵道あり。太田は徳川光圀公隱棲の地たりし處、勿來は名高き關趾にして、附近の山地よりは、寒水石、石炭を出だすを以て、これ等積出の要港として、東の海岸に平瀧港あり、結城は鬼怒川に臨める小都會なれども、附近より結城紬・結城木綿を製織するを以て知らる、古河町はこの西南にあり。

縣下農業盛んにして、麥の産額最も夥し、されど北部は煙草、又西部は綿の栽培に適して、水戸煙草の名世上に高く、木綿織は皆眞岡木綿の名を以て諸國

に取引す、その他西内紙・結城紬各種の石材も亦能く世に知らる。

埼玉縣 武藏の北部大半を支配す。●西部は秩父山群の山岳起伏すれども、東部は利根川・荒川の灌域にして、關東平野の一部をなす。●浦和町は縣廳所在の地にして、東京を距つること五里、もとは、さみしき中山道の一驛なりしが、日本鐵道の停車場をここに設けしより、市街漸次繁華となれり、町の北なる大宮は、氷川神社あるによりて名高く、瀛車はここに二分し、其東北線は栗橋を過ぎて小山に續き、高崎線は荒川の流域に沿ひ、熊谷を経て上野に入る。大宮の西なる川越は四通の要地にして、川越平織を出だし、附近の地よりは甘藷の名産あり、川越鐵道は此處より綿布の産ある所澤を過ぎ甲武鐵道に合す。所澤の西なる飯能附近は斜子織を産

(一) 始めて
日本外史を
刊行せし處

す。熊谷より荒川を遡れば秩父地方にして、その大宮は生絲取引の市場をなし、秩父絹の名世に高し。

縣下は我が國にて農業の最も盛んなる處にして、麥の産額は、實に帝國第一に位す、その他生絲、茶、諸織物の外、秩父地方には石灰石等を出だす。

●**山梨縣** 甲斐一國を支配す。●全國皆山地にして四面に高山を繞らし、中央に平原を殘せるさま、恰も播鉢の如し。●甲

(一)武田勝頼の據りし處
(二)日本武尊の止まり給ひし處に納め奉る地
(三)武田勝頼の滅びし地

府市は縣廳所在の地にして、所謂摺鉢の底に位し、四方の産物集散の市場なるを以て商況甚だ盛んなり。市の北なる躑躅崎の古城趾、東なる酒折宮は共に有名なり。甲府より東に、勝沼を經、天目山を左に見、笹子峠を越え、馬入川の谷に出て、猿橋驛より東京に達する沿道は、所謂甲州街道にして、甲武鐵道は、當時東京より八王子まで通ぜり、勝沼附近の地は葡

(一)周防の錦帯橋、越中の愛本橋を併せ稱す長七十七間

(一)その間十八里

萄の培養盛んにして、多くは葡萄酒の醸造に供す、猿橋驛には有名なる猿橋の奇工ありて、日本三奇橋の一と稱せらる。

笹子峠以東は、所謂郡内地方にして、甲斐絹

郡内織の産を以て知らる。甲府より天目山

の北を過ぎ、青梅を経て、東京に出づるを青梅街道といひ、青梅鐵

道はその一部既に開通せり。韮崎は甲府の西北、信濃路の街道にあり、鯉澤は富士川によりて、駿河に通ずる要津にして、水勢疾きが故に、舟行僅かに五六時間にして、東海道筋に出



猿橋

道にあり、鯉澤は富士川によりて、駿河に通ずる要津にして、水勢疾きが故に、舟行僅かに五六時間にして、東海道筋に出

(一)日蓮宗の本山久遠寺あり

づ川の西岸には有名なる身延山あり。縣下の物産には甲斐絹郡内縞の外、葡萄酒、麥酒、水晶、雨畑硯等を主とす。此の國は武田氏累代の領地とて、國人今猶信玄を崇拜す。又山國の常として、住民は性一般に剛毅にして、片意地なり。

(二)駿川氏七十萬石の舊城下

静岡縣 駿河・遠江と伊豆半島とを管す。●富士火山脈は伊豆を貫きて駿河の北に亘り、赤石山脈の一帯は遠江の北部に蟠まるを以て、地の勾配南に急なれども、富士・大井・天龍の流域より沿海は田圃開け、農業盛んなり。●静岡市は駿府又は府中と稱す、縣廳所在の地にして、駿河の西部に位し、東京・名古屋の中間なるにより、市街賑やかに、竹細工・漆器を産し、製茶・製紙の取引盛んなり。此の地は徳川家康の隠居せし處にして、市の東なる久能山には東照宮あり、市内の淺間神社。

(一)臨濟宗の本山に於て今川義元(二)新羅三郎の故事を以て聞ゆ

(三)最上川を合流せ稱す

(四)日本武尊の故事を以て知らる



富士川より富士山を望む

市の北の大岩なる古刹臨濟寺は皆有名なり。東海道鐵道は國府津より足柄山の北を廻り、海拔千五百尺の御殿場より沼津を經、北に富士山、南に田子浦を望みて、日本三急流の一なる富士川を渡り、興津を過ぎ、遙かに清見寺より三保松原を眺め、開港場なる清水港の附近を經て静岡に入り、焼津より西に、大井川・天龍川を渡り、濱松より濱名湖の鐵橋を越えて三河に入る。大井川は平時水量甚だ少なけれども、潦水時に至れば、その勢ひ疾きが故に、往時、橋梁の設けなかりしとき

（一）家康、
信玄、其の
北の井伊谷
宮に伊宗長
親王を祀る

（二）富士の
巻、弟とて曾
我、弟の美
高談を以て名

「大井の川渡し」として街道に有名なりしが、今は堅固の橋梁を架せり、濱松は遠江の都會にして、東西兩京の中間に當り、市況賑やかに、茶の出荷夥し、その北の三方ヶ原は史上に有名なり、濱名湖はもと海邊の淡水湖なりしが、明應年間の津波にて、湖口切れて海に通ぜり、その處を今切と云ふ、このあたり風景の佳絶なる處多し。

御殿場は須走口を経て、富士山に登る道筋とす、富士山は直立一萬二千尺に餘る著名の高山にして、南麓の裾野は遠く南方の平野に連なる、山巔より四方を望めば、雙眸にたゞむ所遙かに五十六里に互り、所謂富士見十三州の名實に空しからず、遠くより之を見れば、その姿は恰も白扇を倒に懸くるが如く、頂上に舊火口ありて、周圍に八峯削立し、劍ヶ峯最も高し、山上は盛夏にも猶千古の雪を殘し、谿谷には清泉を湧出する處あり、是れ所謂金水、銀水にして、北の裾野には河口山中精進本栖、西等の七湖散在し、箱根山の蘆の湖と共に

に富士の八湖の名あり。

沼津近傍の海濱は、白き砂、青き松、相映じて、風光甚だ明媚なるが上に、冬期氣候頗る溫和なるを以て、能く人身の保養に適す、此處より狩野川を遡れば、伊豆半島にして、流域に北條、韭山、修善寺等ありて、豆相鐵道その一部に敷設せらる、附近には頼朝の流されし蛭島、頼家の幽せられし修善寺など幾多の古跡あり、修善寺は温泉を以て知られ、半島の東南端なる下田港また史上に名あり、熱海は北條の東北海岸に近く、著名の間歇泉なれども、人工を以てその口を塞ぎしにより、噴出の状態を認むること能はず、この地、療養地としてその名殊に高し、小田原より七里餘、人車鐵道の設けあり、雁皮紙ここに産す。

縣下の物産には茶・駿河半紙・興津鯛・遠江の石油・壘表・椎茸・伊豆の鯉節・天城山の石材・木材・山葵等あり。

愛知縣 三河・尾張を管す。●東北は渥美半島へかけ、木曾赤石の餘脈を受けて、山岳起伏すれども、大部は所謂濃尾平原に屬せるを以て、地概ね平らかに、土肥え、田圃能く開けて、尾張米・尾張大根・三河木綿本場の地たり。●名古屋市は徳川氏の舊城下にして、金の鯨を以て名高き城は、市の北部に位し、今は、第三師團の司令部を置き、その牙城は離宮となれり、此の地は縣廳所在の地にして、もとより東海道第一の都會なりしが、鐵道東西を連結せしより、商工業大に發達し、市況一層賑やかに、我が國第四の大都となり、人口凡そ二十五萬あり、市の物産は名古屋扇・七寶燒・紡績絲・陶器・銅器・織物等とす。

(一)尾張大納言六十二萬石

(一)草薙御劍を奉祀す

(一)舊名を吉田と云ふ



名古屋城

市の南の町續きなる熱田は熱田神宮のあるにより、單に宮と云ひ、伊勢に渡る要津に當り、船舶の常に碇泊せるは、東京の品川に於けると、形勢を同じうす。名古屋より東北の山地なる瀬戸は、名高き製陶地にして、今猶盛んに外國向の陶器を製す。●縣下の交通は官設鐵道の東海道線は、濱松より豊橋・岡崎・大府・名古屋・清洲・一宮を経て美濃に連なり、中央線は一部既に多治見まで開通し、豊川鐵道は豊橋より分かれ、豊川に沿ひ、豊川を経て新

(二)信長、
勝頼と戦ひ

武豊タケトヨに至り、關西鐵道は名古屋より分かれ伊勢に入り、尾張の西部には津島祭を以て名高き津島に通ずる尾西鐵道あり。新城より東北の煙巖山は松・杉・扁柏等の樹深く全山を掩ひ、縣下第一の森林なり、此の山は半腹に有名なる鳳來寺ホライジありに因みて、又鳳來寺山と稱し、その殿堂は宏大に、風景は殊に豪壯にして、海道有數の名山たり。豊川には世に豊川稻荷と稱する有名なる吒枳ダキ尼天ニテンありて、賽人常に絶えず、ここを流るる豊川は大平川・矢作川と共に三河の大河にして、國名の因て起る所たり。武豊は開港場にして、白木綿・酒類の輸出・豆類・油糟の輸入あり。●本縣は織田信長・豊臣秀吉・徳川家康などの出でし處なるを以て、戰國時代の古戰場頗る多し、岡崎は徳川氏崛起の地なるを以て顯はれ、鳳來寺山南の長篠(一)ニガシラ

し處
(一)今川
(二)家康
(三)家康の
破りし處
陣營のあり
し處

知多半島頸部の桶狭間・名古屋の北の長久手・小牧山は皆英雄が興廢の跡にして、名古屋の西の上中村は、秀吉出生の地として知られ、清洲は織田氏の居城せし處、殊に豊橋の隊兵は、日清戦争に最も驍名を顯はし、二たび三河武士の名を天下に轟かせり。

(四)所謂鳴
海紋

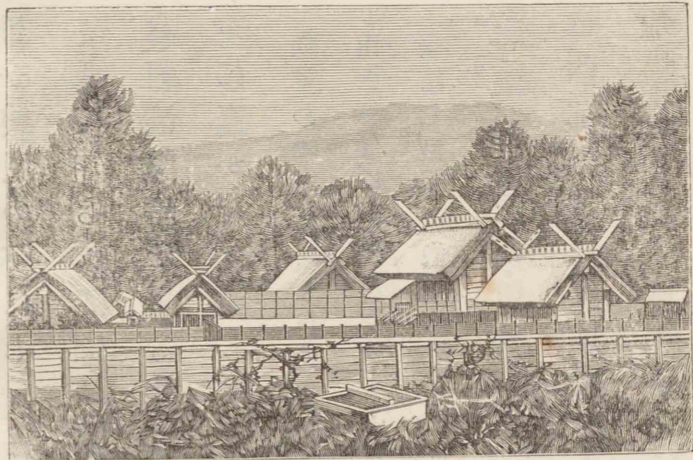
縣下の物産には瀬戸焼・常滑焼・犬山焼・有松絞・宮重大根・名倉砥石・岡崎味噌・半田酒等は、今に聲譽を墜さず、尾張米亦世に聞え、近時、製茶・養蠶の業も亦大に發達し、沿海は漁網多く、佐久島の海鼠腸殊に名あり。

三重縣 伊賀・伊勢・志摩の全部・紀伊の東部を支配す。●地勢は西部一帯に鈴鹿・笠置・紀伊の諸山脈を受くれども、沿海は地坦らかに、土肥え、殊に北部は濃尾平原に入り、産する所の伊勢米は品質の佳なるを以て稱せらる。●津市は又安濃津

萬石 (一)三十二

(二)眞宗高田派の本山

と稱す、もと藤堂氏の城下にして、阿漕浦に臨み縣廳所在の

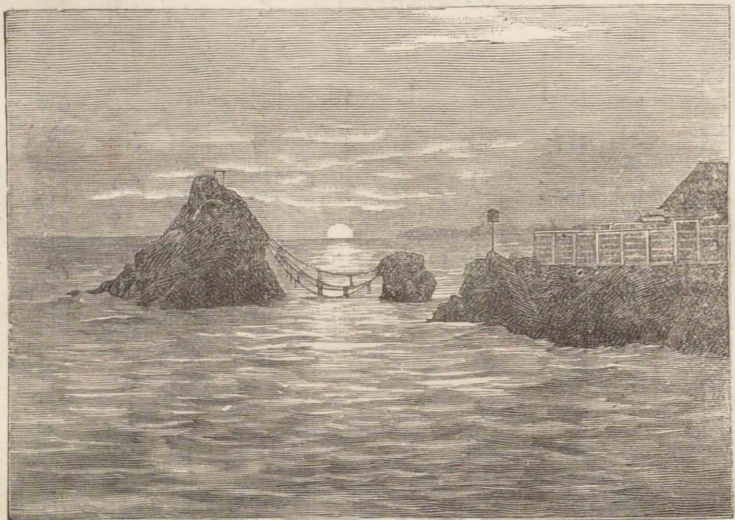


大 廟

町は大廟のあるところ、宇治の内宮には天照皇大神宮、山田

地たり、緞子織、紗織、阿漕焼はこの産とす。市の北なる一身田に専修寺あり。ここより參宮鐵道は松阪を経て、宇治山田町に達し、關西鐵道は北に龜山に至りて東西に分岐す。松阪は本居宣長の生れし地にして、敷島の「大和心を人間はば朝日に匂ふ山櫻花」の歌と共に芳名今に馨し、松阪縞ここに産す。宇治山田

の外宮には豊受大神宮の鎮座し給ふにより、諸國より參拜する者、四時絶ゆることなく、市況これがために甚だ賑やかに、春慶塗御山の細工物を出だす。二見浦、朝熊山は共に勝地にして、二見浦の夫婦岩は殊に名高く、參宮の旅客は必らずこの海濱に來りて、日の出を拜するを例とす。鳥羽は志摩の良港にして、舟泊の便あれども、土地の偏せ



二見浦の夫婦岩

（一）久松氏
十一萬石の
舊城下

（二）日本武
尊の御陵あ
り

るによりて、貨物の出入盛んならず。四日市市は開港場に
て、陸は南北に鐵道を通じ、海は横濱と瀛船の定期航行あれ
ども、取引猶盛んならず。桑名は伊勢海の要津に當り、豪商多
く、米穀の取引甚だ盛んに、萬古燒・時雨蛤の産あり。上野町は
伊賀の都會にして、傘を名産とす。關西鐵道は此處より西は
山城・大和を過ぎて大阪に通じ、東は柘植に至り、草津・龜山に
分かる。龜山の北は、所謂能褒野にして、柘植の東北は有名な
る鈴鹿峠なり、峠は古へ鈴鹿の關のありし處にして、關東・關
西の稱はこの關より分かちしなりと云ふ。

縣下の物産は茶紙・陶器等の外、鰯・鯛・鯉・鰻等の海産物あり、又志摩よりは鹿角
菜・石花菜・眞珠を出だす。

（ロ）中山區

中山區は近江美濃・飛驒・信濃・上野・下野の中山道全部を含み、縣治上分かちて、
滋賀・岐阜・長野・群馬・栃木の五縣とす。

滋賀縣 近江全國を管す。●地勢は山岳四周に連互すれど
も、中央は窪みて琵琶の太湖をなし、湖畔の地平らかに、土肥
え、殊に稻作に宜しく、江州米の名世に高し。

琵琶湖は又鴉の海と稱し、我が國第一の太湖にして、東西は一里より五里に
充たされども、南北は長く十六里に亙りて、琵琶湖をなし、周圍は六十餘里あ
りて、面積殆ど近江一國の三分の一を占め、内に奥沖・多景・竹生の諸島あり、湖
水は西南に流れて、瀬田川の溪流あるのみにして、四方の山々より下る、野洲
愛知・犬上・姊川等八百八川の諸水を集むるを以て、水量多く、舟楫の便を助く
ること頗る夥しく、湖邊の風光亦明媚にして、近江八景の勝は夙に人口に膾
炙し、富士山と共に我が國の雙絶と稱す。

（一）八十餘
方里最も深
き處は三百
三十尺あり

（二）矢橋
石山秋歸
帆瀬田夕
照粟津晴
嵐三井晚

鐘、唐崎夜
雁、比良暮
雪、堅田落

大津市は縣廳所在の地にして、琵琶湖の南岸に位し、湖畔の諸所を回航する漁船の發着場なると、西に京都を控ふるとによりて、貨物の集散甚だ速く、市街繁華なり。園城寺は市の西なる長等山にあり、近年、此の麓に運河を鑿ち、湖水を疏して、京都への舟路を開けり、比叡山は市の西北に



勢田橋より石山を望む

(一)所謂三井寺にして天台宗寺門派の本山

(一)天台宗山門派の本山

(二)附近の滋賀村に天智天皇の御跡あり

(三)木曾義仲の古戰場なり

(四)所謂近江富士にして藤原秀郷が傳説に依りて又蜈蚣山の名あり

(五)七本槍を以て史上



粟津ヶ原

聳ゆる名山にして、山上に延暦寺あり、山麓の湖畔には有名なる唐崎の老松あり、これより遙か北なる湖邊の青柳村は中江藤樹の生れし處なり。●東海道鐵道は大津より南に膳所・粟津ヶ原を経て、石山の附近より勢多の鐵橋を渡りて湖東に曲り、草津にて關西鐵道と會し、更に三上山を右に見、八幡彦根を過ぎ、米原より東に伊吹山の南麓を越えて美濃に入り、北陸鐵道は米原より猶湖畔を北に、長濱を過ぎ、遙かに湖

に著はる

道を経て敦賀に通ず。八幡は蚊帳地を出し、長濱は濱縮緬本場の地たり、草津は東海・中山二道の分かるる處にして、東海道筋に従へば、水口・土山を経て鈴鹿峠に出づ、日野は水口の東北にあり、彦根は井伊氏の舊城下にして、いま猶湖東第一の都會たり、此こより關西鐵道に連絡せむとする近江鐵道は大部既に開通せり。

縣下の民は忍耐の氣象に富み、節儉の美風を守り、男子は農商を勵み、婦女は機織を勉め、殊に男子は近江商人として行商を事とするもの多し。物産は濱縮緬、伊吹艾、源五郎鮎野洲晒布、中野煙草、近江蕪、葎蚊帳地、麻織物、信樂燒等最も著はる。

岐阜縣 美濃・飛驒を治む。●縣の西南は平野相連なりて、濃尾平原をなし、殊に木曾川・長良川・楫斐川等の下流の地は、夏

石二十萬

○一〇 所謂稻葉山

○二〇 戸田氏十萬石の舊城下
○三〇 不破野又青野原と云ふ徳川氏天下分け目の古戰場なり

秋の候、往々水害を受くることあれども、中央以北は山岳盤結して濃飛高原をなし、その飛驒は地殊に高きを以て、氣候甚だ寒く、冬時積雪丈餘に及び、三四月の頃漸く解け、梅櫻一時に咲く。●岐阜市は縣廳所在の地にして、長良川に臨み、東に金華山を控ふ、名古屋米原と鐵道の連絡あるを以て、市況盛んに美濃紙・提灯・團扇を名産とし、又附近より縮緬を出だす。長良川の鵜飼は、今に古風を存し、夏時遊覽の人少なからず。大垣は岐阜の西に位し、桑名に通ずる舟楫の便を有す。大垣の西には、有名なる不破の關趾ありて、その平原を關ヶ原と云ふ、養老瀧はその南の多度山中にあり。●岐阜より東は、街道二つに分かれ、東なる木曾川の沿岸は中山道にして、信濃に入り、東北なる關を過ぎて飛驒川・益田川の沿岸は飛驒

（一）徳川氏直轄の地たりし處

（二）古へ禁裏へ笏を奉り賜はり嘉號を賜はり位を賜はり山を賜はり樹を賜はりといふ

路にして、高山に至る。岐阜の東なる多治見は名高き製陶地にして、産額夥しく、その製品は内地向の飲食器を主とし、價の廉なると、實用に適するとは、他の陶器のおよぶ所にあらず、ここより名古屋まで官設鐵道の中央線既に開通せり。高山は中央高原に位する飛驒第一の都會にして、風致に富み、地勢の似たるより小京都の名あれども、寒暑の差甚だしく降雨多し。全山皆水松より成れる位山は町の西南に聳ゆ。笏及び短冊掛などに作れる、所謂一位細工はその木材をここに取り、總じて飛驒は、中古課役の代りに毎年工匠を貢したりしを以て、古へよりその術に巧みなるもの多く、所謂飛驒匠の名は、夙に人の稱する所なり。

縣下の物産は米穀・陶器・紙・生絲・此目・春慶塗・眞綿・銀・銅・鐵及び砂金を主とす。縣

下處々に穴居の跡ありて、東濃地方最も多く、又太古の植物及び貝殼の化石を出だす處あり。

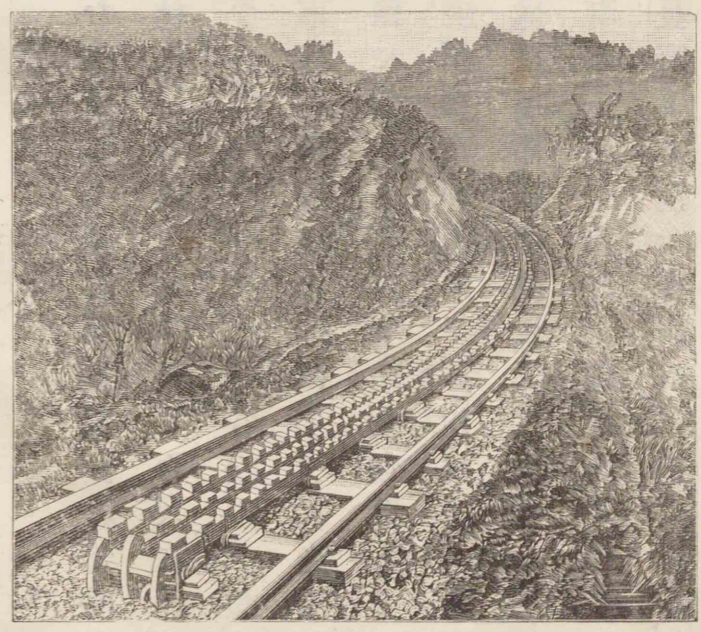
長野縣 信濃全國を治む。●境域十國に界し、四面は皆峻山

に包まれ、峯巒域内に盤結して、地體平均二千三百尺に達し、平谷には纔かに、善光寺平・佐久平・伊那谷・木曾谷・松本平・諏訪平の低地を残す。●長野市は縣廳所在の地にして、善光寺平に位し、信越鐵道線の通路に當ると、善光寺の大伽藍あるとにより市街繁華なり、千曲川は市の南にて、犀川に會し信濃川を成す、その落ち合ふ處は、所謂川中島にして、武田・上杉の二氏が古戰場たり、松代町はその東南の平地にあり、佐久間象山はここに生れき。●長野より南は、瀛車は國道に沿ひ、田毎の月の名所たる姨捨山を右に見、淺間山の煙を左に眺め

（一）その阿彌陀如來の三國傳に稱し、物部守屋等、難波の堀江に投ぜしもの

（二）眞田氏十萬石の舊城下

て佐久平に出で、養蠶の盛んなる上田より追分、輕井澤を経て、碓氷峠を過ぎ上野に入る。碓氷峠は勾配殊に急なるにより、アプト式によりて瀛車を昇降し、山中には二十六の隧道あり。姨捨山の西南は犀川の上流にして、その灌域を松本平と云ひ、その平谷の松本町は、養蠶業盛んなるが上に、南部地方より越後までの商權を握る。諏訪湖は國の中央に位し、そ



アプト式鐵道

の附近の地を諏訪平と稱し、湖畔の上、諏訪下、諏訪は共に製絲業盛んに、上、諏訪は地方に温泉多く、戸々に浴湯の設けあり。湖水は南に流れて天龍川となる、その流域は伊那谷にして、飯田町あり、元結を出だす。上、諏訪は中山道の通路に當り、東北は和田峠を越えて追分に出で、西南は鹽尻峠を越え、木曾川の上流を下り、古へ、木曾の棧橋のありし福島を過ぎ、木曾谷を経て美濃に入る、此の山道を、所謂、木曾街道と稱し、木曾の棧道、寢覺の床の勝景ありて、山谷深阻なる一帯の山林は扁柏等の良材に富む、木曾義仲は此の地に生長したりき。此の國は何れの地方となく、養蠶業甚だ盛んなるを以て、その時期に際せば、一泊の旅宿だにも得易からざることあり、故に物産も亦、蠶卵紙繭生絲真綿等を主とし、外に扁柏細工漆器上田紬木曾駒の名世に知らる。

（一）下野と
共に古へ毛
野國と稱せ
しに、今
猶毛地方
と云ふ

（二）松平大
和守十七萬
石の舊城下

群馬縣 上野を支配す。●地勢は北・東西の三方に山岳を繞らし、淺間火山脈は域内を横斷して、處々に高山峻嶺をなせども、利根川上流の灌域は關東平野の一部にして、地平らかに、土肥え、村里皆桑を植ゑ、蠶業甚だ盛んなり。●前橋市は縣廳所在の地にして、利根川の流域に立ち、生絲取引の大市場なるが上に、北は利根川の谿谷をたどり、清水越を経て、越後に通ずる要路なると、日本鐵道の兩毛線は、南は高崎より、東は伊勢崎・桐生を経て、下野の小山に連絡せるとにより、市況甚だ賑はし、高崎市は前橋の西南、瀛車時程僅かに二十分の地にありて、中山道の通路なると、瀛車、西は信越線に通じ、西南は富岡を経て下仁田に上野鐵道を連れ、東南は東京に至る交叉點に當るとの故に、市街繁華に、製絲の業盛んなり。伊

勢崎の銘仙織桐生の絹織物は共に世上に名高く、富岡亦製絲の業盛んなり。前橋の西北に聳ゆる榛名山は、有名なる火山にして、赤城妙儀の二山と共に上野の三山と稱し、衆峯競ひ立ち奇秀を以て聞ゆ、榛名山の東北、伊香保の温泉は草津と共に古へより世に知らる。

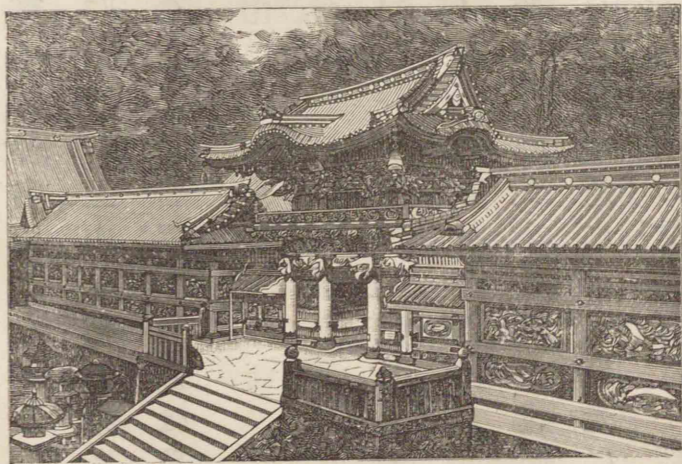
縣下の物産は絹織物を主とす。

栃木縣 下野を領す。●地勢は上野と同じく三方山岳に圍まれ、中央以南は、平野開け、地味麻の栽培に適す。●宇都宮市は縣廳所在の地にして、鐵道は東京より此處を過ぎ、北に那須野原を経て磐城に通じ、西北は日光鐵道により日光に連絡せるによりて、市況盛んなり。市の東南の眞岡町は小都會なれども、その木綿は殊に世に名高し。●日光町は男體・白根

（一）源實朝
の歌に、
のふに、
並つくり、
小並の、
殿手の、
原那須
の矢に
須の篠

(一)徳川家
光の創設

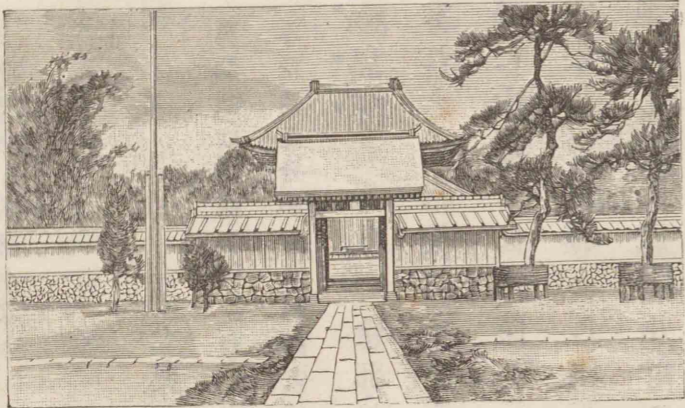
等の諸山より成れる二荒山の南麓に位し、その東照宮は金碧燦爛として、建築の精巧壯麗なるは「日光を見ずして、結構を云ふ勿れ」との古諺を以て、一斑を想像するに足る。男體山は海拔八千尺に聳ゆる名山にして、南麓に中禪寺湖あり、その水流れて華嚴瀑となり、高く四十丈に懸り、幅の廣さ十五間ありて、裏見瀑・霧降瀑等と共に、勝景を以て稱せらる。日光より西南の國境に足尾鑛山あり、銅の産額、帝國産の三分の一を占め、足



日光の唐門

尾町

(一)毎年四月十六日に日光東照宮へ奉幣せし人から往來せし街道



足利學校

南は越名に通ぜり。

尾町の市街ために賑やかなり。●小山は小山・兩毛二線の鐵道交叉點にして、兩毛線は栃木・佐野・足利を経て、西に高崎に至る。栃木町は縣下第二の都會にして、北の鹿沼と共に、麻の集散を以て名高し、ここより鹿沼を経て、日光に至る道を、例幣使街道と云ふ。足利は足利絹を出だす、その足利學校は、小野篁の創立せし所と傳ふ。佐野は木綿・鍋釜等の鑄物を以て聞ゆ、佐野鐵道はここより北は葛生

縣下の物産は足尾の銅を第一とし、外に鹿沼麻、足利絹、日光塗等の特産あり、米穀、綿、煙草亦著名なり。

(ハ) 奥羽區

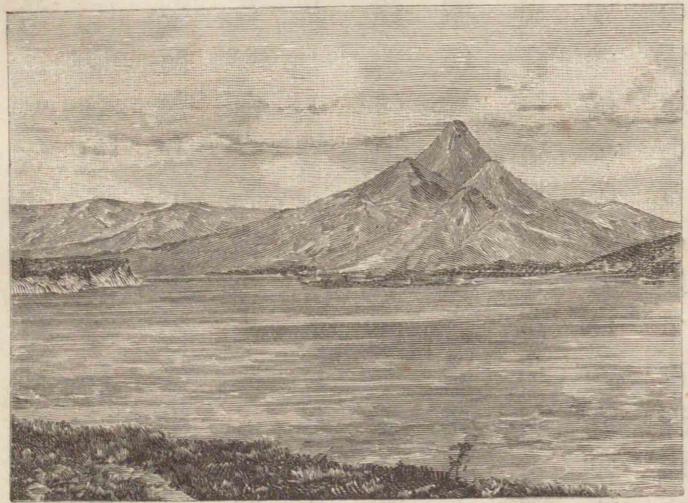
奥羽區は磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後の古への所謂、奥州、出羽全體を含み、縣治上分ちて、福島、宮城、巖手、青森、秋田、山形の六縣とす。

福島縣 岩代の全部、磐城の大部を管す。●沿海の地は低平なれども、岩代に中央分水山脈、磐城に阿武隈山脈ありて、大部に山地をなし、僅かに阿賀川上流の灌域なる會津平と、阿武隈川の流域とに稍平地あるのみ。●福島町は縣廳所在の地にして、阿武隈川畔の桑野に立ち、生絲、蠶卵紙取引の中心に當るにより、奥羽地方繁華の市場をなす。福島より鐵道は、

(一) 靈山神社ありて北島顯家を祀る
(二) 阿部氏の墓石ありて城下

(三) 能因法師の都を法に立ちしと秋風ぞ吹

奥羽南線は西北に米澤に通じ、東北線は南に、阿武隈川の流域に立てる二本松、製絲の盛んなる郡山及び白河等を経て、宇都宮に連絡し、東北は仙臺の方へ連結す、その縣界の處には、東に靈山、西に半田銀山あり、白河は馬市を以て名高き處にして、地勢峻嶮、勿來關と相待つて、奥羽の咽喉をなせるにより、其東南には、古へ白河の關を置けり、郡山の東なる三春も亦良馬を以て著はれ、三春駒として、駿足能く騎



猪苗代湖より磐梯山を望む

く白河の關と詠みし處(一)丹羽氏十萬石の舊城下

○二松平肥後守二十八萬石の舊城謂會津

○三相馬氏の舊城下

乘に堪ふ。二本松は紬を産し、白河と共に維新の史上に名あり。二本松より吾妻山、及び明治二十一年に破裂せし磐梯山を右に見て、猪苗代湖畔を西に進めば、會津平にして、一帯を會津地方と稱し、若松市その要區たり、市の近傍は維新の史上に名高く、その白虎隊が戦死の跡は戦血今に腥し、附近の地は土肥え、農業に豊かなれども、工業も亦發達し、會津塗、會津燒、蠟燭等の名産あり。岩越鐵道は、郡山より此處まで既に開通し、これより阿賀川の流域に沿ひて越後に通ぜむとす。●濱街道は水戸より勿來關趾の附近を経て、平、中村を過ぎ、奥羽街道と合して仙臺に通ず、今は、その全部に鐵道の便あり。平は近傍に小山田、白水等の炭坑あるを以て、市況賑やかに、中村は、俗に、ひび燒と稱する相馬燒を以て有名なり。

縣下の物産には生絲、蠶卵、紙、漆器、陶器、諸織物、煙草等を主とし、馬は特に世に知らる。

宮城縣 陸前の大部、磐城の一部を領す。●西境は中央分水山脈、東北は北上山脈の餘波を受けて、地の多くは山地なれども、大部は北上川、阿武隈川の河領に屬し、その灌域は土肥え、能く稻作に適し、仙臺米を出だす處たり。●仙臺市は縣廳所在の地にして、陸前の東南部に位し、人口七萬五千許なれども、第二師團司令部、控訴院、第二高等學校等の設けありて、繁華は奥羽地方にて第一に位す、青葉神社、躑躅岡、櫻岡、瑞鳳寺等は市内の勝地たり、古への宮城野は市の東にあり、市の物産は仙臺平織、埋木細工等著名なり。●仙臺より鐵道南は東京に達し、北は岩切、松島を経て巖手縣に入り、又支線は岩

○一伊達氏の舊城下

(一) 有名な
ある鹽竈神社

切より鹽竈(ニシホガ)に通ず。鹽竈は松島灣頭に位し、製鹽業盛んなり。此處より岩切に至る間に多賀城(タガ)の遺趾ありて、その古碑には、京、その他への里程を記す、所謂、天平寶字六年に建てし壺碑(ツボイシ)是なり。鹽竈より西南に、海岸を阿武隈川の河口にかけて、貞山堀(ニシイザンボリ)と稱する運河あり。鹽竈の東北は松島灣にして、海水深く彎入し、内に宮戸(ミヤド)・桂(カヅラ)・寒風澤(サムサバ)等大小の八百八島灣内に散在す、これ所謂日本三景の一なる松島にして、島上には松樹多く、海として島ならざるはなく、島として松ならざるはな



島 松

(二) 伊達政宗の開きし
もの長さ九
里十八町

(三) 明治十
四年に開き
しもの長さ
四里八町

し、加ふるに、島腹はみな波浪のため、に窪みて洞をなし、その風色の明媚なるは、松島やただ松島や松島やの古句を以て想像するに足る。灣の東に盡くる處に野蒜港(ノビロ)あり、萩濱(ハギハマ)は牡鹿半島(シカ)の西岸にありて、横濱・小樽へ汽船の往來あり。石巻(イシノキ)は、北上川の河口に位し、港内水深く、且つ流域地方と舟楫の便あると、猶西に野蒜港の附近に運河(ウネ)を開けるとによりて、縣下の商業を左右す。北上川は此處より四里許の上流に、河口を東に分ち、北上山脈を横斷して太平洋に注ぐ、追波川(オサバ)これなり。

縣下の物産は米穀を主とし、養蠶業盛んに、又魚鹽に富み、工業も能く發達せり。

巖手縣 陸中の大部・陸前・陸奥の小部を支配す。●地は陸前

(一)南部氏
二十萬石の
舊城下

(二)近傍に
鎮守府の古
趾あり

(三)貞任が
討死せし地
(四)秀衡の
館趾
(五)義經寄
寓の館趾

と同じく、中央分水山脈は西境を限り、北上山脈は東部を縦貫して、大體は山地なれども、北上川の河谷は南より北に開き、地味肥沃なり。●盛岡市は縣廳所在の地にして、陸中の中央、北上川の東岸に枕し、青森・秋田・釜石・宮古・仙臺に通ずる八達の要區に當り、南部縮緬・蠶絲等は市の名産たり、市の對岸なる厨川には安部貞任の古城趾あり。●盛岡より南は鐵道は北上川の平谷を過ぎ、黒澤尻・水澤・平泉及び養蠶の盛んなる一關を経て仙臺に通じ、北は南部富士と稱せらるる。岩手山を左に見、一戸を経て青森縣に入る。一戸の東には、有名な末の松山あり。一關より北、衣川の北上川に會流する間には衣川柵趾・平泉館趾・高館及び中尊寺の古刹等、史上に名高き古蹟あれども、今ははや風物いたく荒れはてぬ、されど、中

(一)所謂金
色堂

尊寺には藤原秀衡等三代の廟ありて、その光堂は當時の遺物として、山城宇治の鳳凰堂と共に美術家の歎稱する所たり。釜石・宮古は縣下の要港にして、共に碇泊に宜し、釜石の附近は殊に鐵鑛に富み、仙人嶺は實に帝國第一の鐵山たり。

縣下の物産には生絲・絹布・鐵器・昆布等あり、また牧畜の業盛んにして、南部馬能く世人に知らる。

●青森縣 陸奥の大部を管す。●地勢は沿岸殊に屈曲し、下北津輕の二半島は、平館海峽を挟みて、内に、陸奥灣を抱き、夏泊崎中央より灣水を分かちて野邊地、青森の二小灣をなす。内地は中央及び西部に山岳重疊すれども、岩木・馬淵・相坂等、諸流の灌域は平野開け、地味豊かに、能く米作に適す。●青森市は縣廳所在の地にして、青森灣に臨み、北海道へ渡航する要

(二)函館へ
半夜程、室

關へ凡そ十
三時間

○津輕氏
十萬石の舊
城下

港に當る。此より鐵道は、東北線は東に野邊地を經、南に小河原沼を左に見、馬淵川の流域を遡りて陸中に入り、奥羽北線は西南に弘前市を過ぎ、碓關より秋田縣に通ず。弘前市は津輕富士と稱せらるる岩木山の東麓に立ち、縣下第一の都會にして、軍事上樞要の地なるにより、第八師團の司令部あり、津輕塗は市の名産たり、下北半島の大湊は良港にして、軍港の設置せらるべき豫定地となれり。

奥羽地方は一般に石器時代の遺跡に富み、地中より石器土器骨角器等を發掘することあり、殊に青森弘前の附近には、當時の土人が棲息したる數多の竪穴ありて、學者の研究に幾多の效益を與ふ、縣下の物産には米穀、林檎材木等の外、鱒の漁利あり、又恐山よりは多くの硫黃を産す。

秋田縣 羽後の大部、陸中の小部を領す。●地勢は中央以東に山岳盤結すれども、能代御物の河領は、田野開け、能く稻作

○佐竹氏
二十萬五千
石の舊城下

○藤原藤
房の遺世せ
し處と傳ふ

に適し、所謂、羽後米本場の地たり。●秋田市は縣廳所在の地にして、御物川の下流に臨み、河口に土崎港を控へ、市況盛んに、秋田米の輸出多し、秋田畝織、八丈縞等の織物ここに産し、又この地方に生ずる秋田露は高さ七八尺、葉の回り丈餘の大なるものありて、世上に名高し、市に歩兵第十六旅團の司令部あり、市の東に高清水補陀寺の城趾古刹あり、秋田より國道は、北に八郎瀧に沿ひて、春慶塗の産ある能代に出で、能代川畔を東に大館を経て陸奥に入り、南は御物川の流域に沿ひて、大曲より、八幡太郎義家が、武衛・家衡を攻めし、柵趾のある金澤を過ぎ、羽前に入る、その陸奥に通ずる國道に沿ひて、奥羽北線の鐵道一部既に開通す。八郎瀧は又琴の浦といひ、周回十五里、その水、南に通じ海に連なる、瀧の西は男鹿半

島にして、松島と共に、山水の明媚なるを以て聞え、男鹿の島巡りとして名所多し。

鑛物は縣下第一の物産にして、阿仁院内小坂の銀山、尾去澤荒川の銅山は古へより採掘夥し、又山林に富み、秋田杉の名風に世に知らる、御物川には鮭鱒の産あり。

●**山形縣** 羽前の全部、羽後の一部を管す。●地勢は東に中央分水山脈を繞らし、中央は、所謂、羽前の三山なる湯殿、羽黒、月山の三峯より、漸次南に山地をなせども、全部最上川の河領に屬し、灌域は平野遠く開け、地味豊かにして、所謂、出羽米の産所たり。●**山形市**は縣廳所在の地にして、羽前の東部に位し、四通の要路に當り、市況盛んなり。山形の北に天童及び龜綾織の産ある新庄あり、共に秋田縣に通ずる國道に當る、新

(一)もと最上町と云ふ

(二)酒井氏の舊城下

(三)上杉氏の十五萬石の舊城下

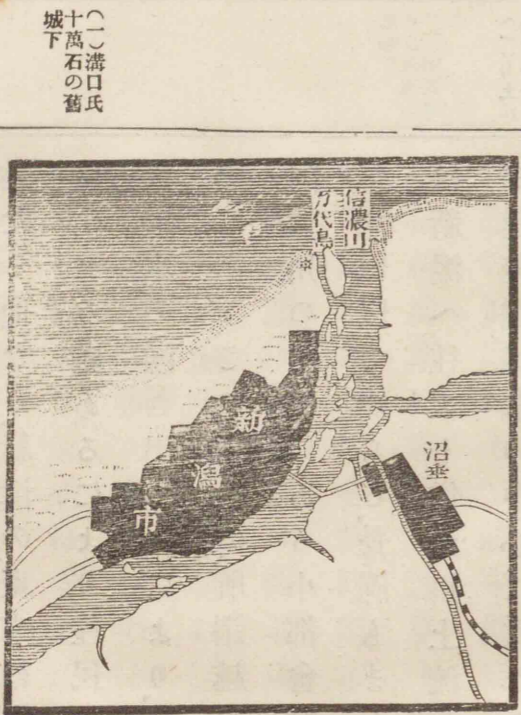
庄より、日本三急流の一なる最上川に沿ひ、俗に出羽富士といへる鳥海山を右に望みて、河口に出づれば、所謂、莊内地方にして、酒田町に達す。酒田は縣下第一の良港にして、船舶の出入多く、且つ北は濱街道を経て秋田に、南は繪蠟燭を以て有名なる鶴岡を経て新潟に通ずる街道に當り、商業盛んなり。山形の南に米澤市あり、市は山間の僻地なれども、官設鐵道の奥羽南線は既に開通し、北は上山、赤湯等の温泉に近く、又東は福島、南は若松の街道筋に當りて、市街繁華に、且つ舊藩主が産業を保護獎勵せし結果として、市民今猶養蠶、機業を勉め、米澤織の名世に高し。鶴岡の東南に鼎立する羽前の三山は、共に行者が崇信する靈場にして、夏時登山の人多く、山中の絶壁には、鐵鎖を攀ち、鐵階を踏むべき嶮あり。

縣下の物産には米穀馬諸織物生絲漆器等を主とし、最上川の附近には薄荷を産す。

(二)北陸區

北陸區は越後・越中・能登・加賀・越前若狹及び佐渡の北陸道全體を含み、縣治上分ちて、新潟・富山・石川・福井の四縣とす。

新潟縣 越後・佐渡を管轄す。●地勢は海岸の屈曲少なく、且つ日本海の強き西風を殆ど直角に受くるによりて、到る處、砂丘を成し、殊に米山の麓なる砂上げと稱する處の如きは、一帯の砂丘南北に亘りて、高く二百二十尺に聳え、道路は百六十尺の高處を通ず、内地は東・南・西の三方は山岳を繞らせども、信濃川・阿賀川の流域は廣き沃野にして、農業能く發達す、所謂、越後米本場の地にして、その産額は帝國第一に位す。



(一)溝口氏十萬石の舊城下

新潟

●新潟市は縣廳所在の地にして、人口五萬餘、信濃川の河口に臨める開港場なれども、河口に砂洲あると、冬期日本海は波高くして、殆ど船舶の航行を杜絶する不便あるとによりて、貿易は微々たり、されども、歩兵第十五旅團司令部のある新發田及び村上より、西南は信濃川の流域に發達せる都邑と、直ちに交通の便あるを以て、市況盛んなり。●北越鐵道は新潟の對岸なる沼垂町より信

濃川に沿ひ新津三條長岡を経て直江津に通ず、新津近傍の酒屋村は今後五泉を経て、會津地方に通ずる岩越鐵道の終點たる地なり、新津の東南には、火井とて、自然瓦斯の盛んに發生せる處あるにより、住民は燈火にかへてこれを用ゐ、又炭酸水の湧き出づるにより、自然瓦斯にて之をわかし、溫泉藥に供す、これ古への所謂越後の七不思議の一なり、五泉は阿賀川の中流にある小都會なれども、精巧なる絹織物を出だすを以て知らる。長岡もまた織物を以て名高く、小蒸漁船は新潟へ往來し、信濃川上流の小千谷十日町地方に製織する越後縮集散の中心に當れり、新潟より濱街道は西南に、彌彦山の麓を廻り、寺泊出雲崎柏崎直江津を経て、親不知子不知の新道を過ぎ富山縣に入る。されど、親不知の舊道は、斷崖

（一）山上に彌彦神社あり



（一）榑原氏十五萬石の舊城下

の磯道なるにより、波の退く隙を見てとり、走り過ぐる嶮道にして、親子も相顧みるに暇あらずといふ處なり、直江津は西部の要港にして、越中能登と船舶の往來劇しく、また鐵道は信越線南に東京に連絡し、北越線東に新潟に通ず、高田はその南にありて、冬時降雪多きを以て名高く、鑷粟飴の産あり。●佐渡は新潟より西北の海上に位し、夷小木の二港は越後と交通劇し、殊に夷港は天然の良港にして、大風雨の時すらも、港内鏡面の如し、されど、冬期二三月は新潟よりの航行絶ゆるにより、汽船は寺泊より赤泊へ行くを常とす。相川は嶋中の都會にして、東北に金北山の金山を控へ、市街賑やかなり、相川の東南、眞野村には順徳天皇の舊蹟あり。

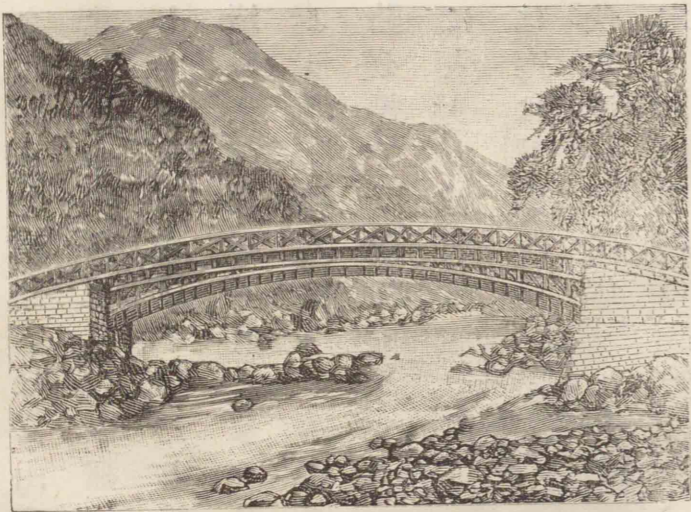
縣下の物産は米を第一とし、石油は未だ内國の需用を充たすこと能はざれ

ども、出雲崎附近の尼瀬ニセより多量に湧出し、柏崎町に設置せる日本石油會社の如きは、一日に七百石の石油を採取せり、その他、越後縮越後上布ゴシラウチ、五泉平織ゴシラウチ、朽尾紬等の織物は夙に名高く、無名異焼ムナミイヤキと稱する陶器は相川より産し、清酒は醸造の多きこと攝津に亞ぎ、佐渡の金銀は古へより採掘夥し。

富山縣 越中全部を管す。●北は海岸廣く蝕入して富山灣をなし、東・西・南の三方は山岳相重りて、國境を限るを以て、地勢は漸次北に低きが上に、諸大河の灌漑を受くるにより、中央以北は、地平らかに、土肥え、越中米の産を以て知らる。●富山市は縣廳所在の地にして、人口六萬に近く、神通川畔に位置し、北陸鐵道の終點なると、河口に東岩瀨港ヒサノハを控ふるとにより、貨物の集散甚だ敏捷にして、市況盛んに、鮭の鹽引シホヅク、干鮎アキヤクを産す、反魂丹ハンゴウタン、熊膽圓クマタン等の賣藥は古へより市の特製に係り、そ

(一)前田氏
十萬石の舊
城下

の賣子ウツコは帝國到る處に行商す。神通川は往時は六十餘雙の



橋 本 愛

に、常願寺川ジョウガンジを溯れば、有名なる立山タテヤマにして夏期に登山する

(一)山上に
雄山神社あり

者頗る多く、その谿谷の地獄谷は、處々に硫烟或は熱湯を噴き出だす。●高岡市は富山の西北に位する、縣下第二の都會にして、諸金物・漆器を出だし綿・紡績絲・米の取引も盛んなり。高岡より北陸鐵道は西南に福岡・石動*を経て石川縣に入り、中越鐵道は、南は城端、北は伏木港に通ず、伏木より能登路の海岸に氷見町あり。伏木は開港場にして、米穀の輸出多し。越



石柱天び及橋釣

へし戦仲の
平軍を破り
し處

中・加賀の界に有名なる俱利伽羅峠あり。城端は機織の業盛んに、その東南、山谷の數村は、所謂五箇山中にして、中に釣橋及び天柱石の奇觀あり。

縣下の物産は米・綿・繭・生絲・紙・銅器・鐵器・漆器・針・菅笠等を主とす。

石川縣 加賀・能登を管轄す。●加賀は東部に山岳重疊して、地勢漸次西北に低下すれども、能登は大低山巒起伏して、瀕海の地に、稍平地を残すのみ。●金澤市は、もと前田氏百萬石の舊城下にして、今は、人口八萬餘に充たざれども、西北は金石港を控へ、商工業甚だ盛んに、第九師團司令部・石川縣廳・第四高等學校等ありて、北國街道筋にて最も繁榮を極め、象眼細工・陶器・銅器・漆器は市の名産たり、市の中央に位せる兼六園は、もと前田氏の別業にして、その閑雅幽趣なると、規模の

大なるとは、日本三公園中の第一と稱す。金澤より北陸鐵道は、北に河北道は、北に見て、津幡を過ぎ高岡に通じ、七尾鐵道は津幡より能登に通じ、七尾を終點とす。七尾の北に、



兼六園の旭櫻

（一）謙信が
氣清の七絶
は人口に膾
炙す前田氏
の支封地に
して十萬石
の舊城下

輪島塗を以て名高き輪島あり。輪島の西南には、有名なる曹洞宗の本山總持寺の古刹あり。七尾は開港場にして七尾酒をいだす。近傍の城山に上杉謙信の古城址あり。●金澤より南は、鐵道は南に小松大聖寺を経て福井縣に通ず。小松は機業盛んに、加賀絹の名世に高し。安宅の關趾は、小松の近傍なりしかど、今は、遙かに海中に沈めり。縣下温泉多く、就中、最も著名なるは、和倉山代山中の温泉とす。

縣下の物産は能登の鹽馬、輪島塗、加賀の絹織、九谷燒、杉原紙、銅器、象眼細工等皆世に知らる。

福井縣 越前若狹を領す。●地勢は日野九頭龍足羽の河領に肥沃の平野を成せども、東部南部は濃飛高原中國山脈に接し、山岳連亘せり。●福井市は縣廳所在の地にして、機織甚

（三）松平越前守三十二

萬石の舊城
下往時の北
の庄の地
○新田義
貞を祀る

○尊良親
王新田義顯
の戦没せし
地
○酒井若
狹守十餘萬
石の舊城下

だ盛んに、羽二重絹手巾ハンカチは外國の市場に名高し、市の東、四里に曹洞宗の本山永平寺の古刹あり、市の北郊の藤島神社(一)は、近時、市内に移れり。福井より北陸鐵道は、北に加賀に通じ、南に鯖江・武生・敦賀を経て東海道線の鐵道と連結す。敦賀は開港場にして敦賀灣頭に臨み、歩兵第十八旅團の司令部あり、ここの東北なる金崎カナガサキに南朝の古城趾ありて、官幣中社金崎宮ここに鎮座す。小濱コハマは若狹の都會にして、塗物・瑠璃細工の名産あり。●福井より九頭龍川を遡れば、上流の溪間に勝山カトヤマ、大野の名邑ありて、共に生絲絹織・煙草の特産あり。三國港は又坂井港とも云ひ、日野川の河口に位し、福井と漕運の便あり。

縣下の物産は羽二重奉書・納鳥子紙トリコガミ・奉書紙・煙草・鯛・鱈・鱈・雲丹・蚊帳等皆世上

に聞ゆ。

中日本西部

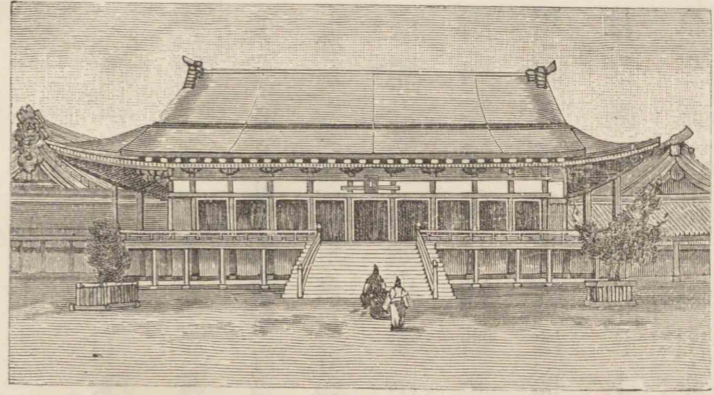
(イ) 近畿區

近畿區は山城大和河内和泉攝津紀伊淡路播磨丹波丹後但馬を含み、縣治上分ちて、京都府奈良縣和歌山縣大阪府兵庫縣の二府三縣とす。

●京都府 山城丹後の全部丹波の一部を管轄す。●地勢は中國山脈域内を横斷せるを以て、丘陵處々に起伏すれども淀川ユヅクラ由良川の水域は、地平らかに、田圃大に開けたり。●京都市は府廳所在の地にして、人口三十四萬、加茂川、市の東部を流れ、三方に東山ヒガシヤマ西山ニシヤマ北山キタヤマを繞らして、恰も蹄鐵の狀をなす。殊に東山は、蒲團きてねたる姿や東山と稱せられ、山容の溫雅

(一)上京區
下京區

(二)御即位
及び大嘗會
の禮を行
はせらるる
處



餘年の帝城たりしを以て、由緒ある神社佛閣、さては名所舊

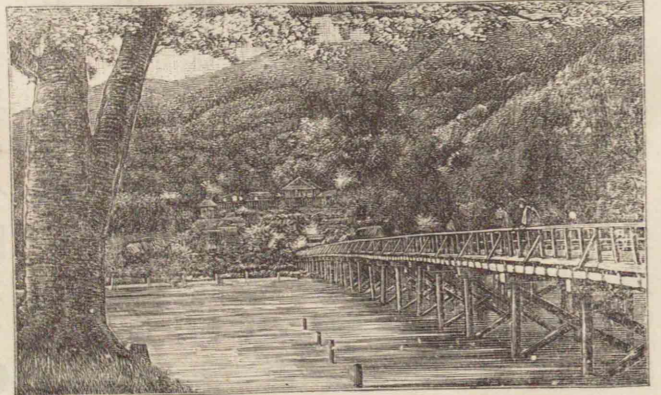
なること、全國に多く見ざる所なり、全市を二區に分ち、市

の區劃、筋目正しく、碁盤の目の状を
なし、三條通を以てその分界とし、道
幅廣き處に電氣鐵道あり、舊御所は
紫
加茂川の西、市の北部にありて、二條
離宮は市の西端にあり、又修學院、桂
殿
の兩離宮は共に市の郊外にあり、現
時、京都帝室博物館、京都帝國大學、高
等工業學校、第三高等學校等は此の
地に置かる。●此の地は古への平安
京にして、山水秀美なるが上に、千有

(一)賀茂別
雷神社と稱
す
(二)賀茂御
祖神社と稱
す
(三)金戒光
明寺
(四)蓮華王
院と稱す

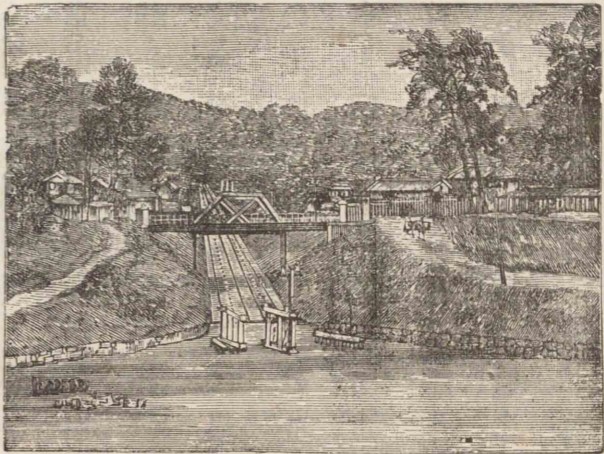
(五)高雄、
榎尾、
榎尾

蹟はなはだ多く、就中、上賀茂神社、下賀茂神社、銀閣寺、黒谷、平
安神宮、智恩院、八坂神社、南禪寺、東大
谷、西大谷、清水寺、豊國神社、三十三間
堂、東寺、東西本願寺、梨木神社、護王神
社、北野神社、平野神社、建勳神社、等持
院、金閣寺、大徳寺等は最も著はれ、市
の東南の泉涌寺には、先帝及び英照
皇太后の御陵なる後月輪、東山陵、後
月輪、東北陵その他、歴代諸帝の御陵
あり、郊外亦遊賞の地多く、春花秋葉
にて、士人の筈を引く處は、西より北
に嵐山、御室の櫻花、三尾の紅葉あり、東山に祇園の夜櫻、東福



嵐山

を併せ稱す



水疏ニイラクニイ

寺の紅葉などありて、京都は常に帝國の公園たるのみならず、又實に世界の公園たり。●京都は古來久しく美術の中心たりしを以て、今に、名匠大家多く、市民は性質一般に心匠精密、工藝に巧みにして、製出する西陣織・友仙染・繡箔・加茂川晒布・鹿子絞・清水焼・粟田焼・漆器・扇子・京人形・京紅・白粉等は、夙に中外に名高く、又近時、琵琶湖の水を疏通して、加茂川に落ししより、その水力を利用して、製造工業益進歩の域に向へり。●市の南端の七條停車場は、京都に入る

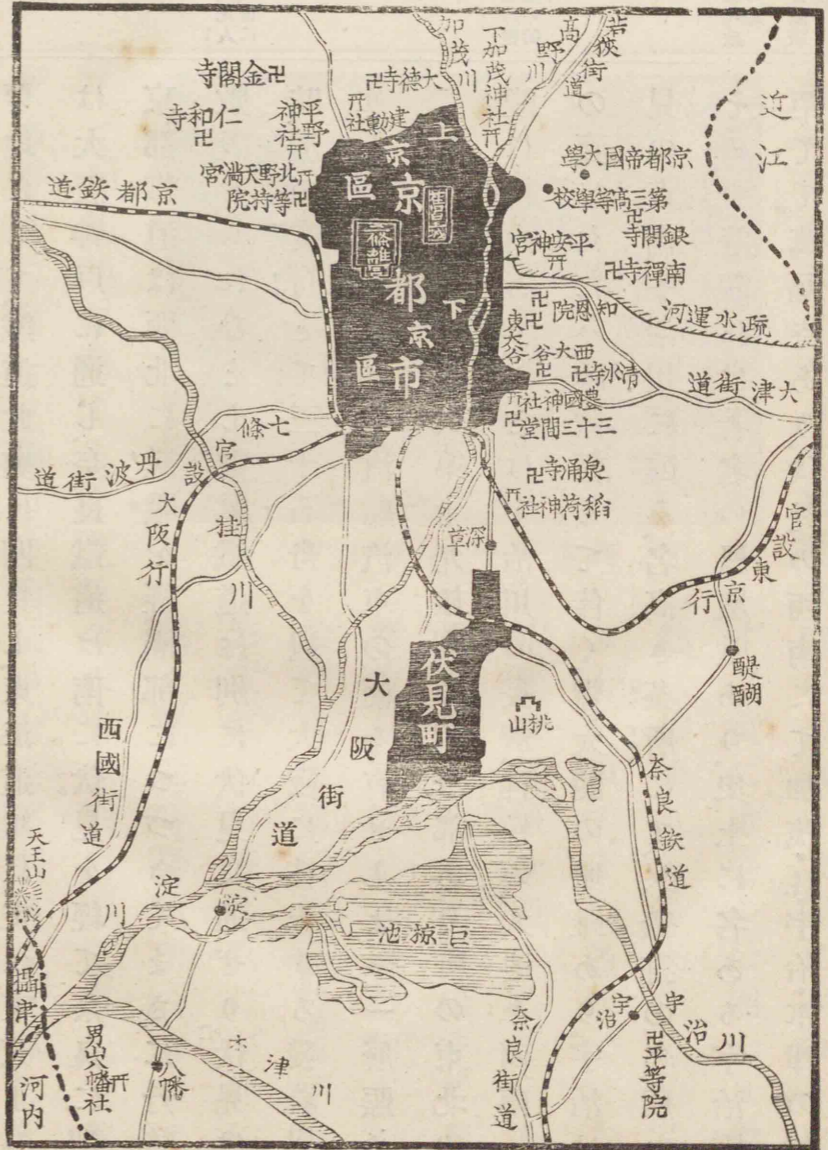
(一)伏見人の名世に高し

(二)北に桓武天皇の御陵あり

(三)源賴政自刃の地

(四)黄蘗宗の本山

要地にして、鐵道此處に四集し、東海道線は、東は東京より、西は大阪・神戸に通じ、奈良鐵道は南に伏見を経て奈良に到り、京都鐵道は西北に嵯峨を經園部につづきてまさに丹後に敷設せられむとし、電氣鐵道は別に伏見に通ぜり。伏見は、往時、淀の夜舟とて、三十石舟を以て大阪に往來する發着場なりしが、大阪・奈良と汽船汽車の便を有せしより、一層賑やかになりぬ。町に歩兵第十九旅團の司令部あり。町の東北の丘陵に桃山あり、ここは、宇治川の長流、巨椋の大池を西南一眸の裏にたたみ、眺望極めて佳く、豐太閤の城趾あり。宇治は伏見の東南、宇治川に臨み、名高き茶所にて、又螢狩の名所たり、その平等院には著名の鳳凰堂あり、史上に名ある宇治橋を距てて萬福寺あり。伏見の西南にて加茂・桂・宇治・木津の諸川



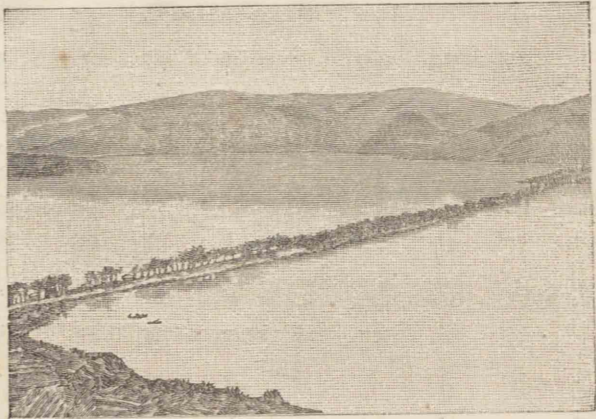
近附のそび及市都京

(一) 稻葉氏
 (二) 千石
 (三) 下八幡宮あり
 (四) 男山八幡宮あり
 (五) 天王山あり
 (六) 吉吉の古戦場あり

落ち合ひて淀川となる、その兩岸に淀八幡山崎あり。木津川を遡れば、木津を過ぎ笠置山の麓に到る、木津は城南の都會にして、關西鐵道は、大阪名古屋に通じ、奈良鐵道は京都奈良を連絡す。木津の東なる、瓶原加茂は、地、山中に偏せども、聖武天皇の恭仁大宮のありし舊跡にして、瓶原わきて流るる泉川とは木津川の上流の古稱なり。笠置山は後醍醐天皇の行在所のありし處にして、史上に名高く、今は、山腹に行宮遺趾と題せる一片の石を立つ。●櫻花を以て名高き嵐山は、京都の西にありて、大堰川その麓を流る、川の下流は即ち桂川にして、丹波にては、また保津川といひ、嵐山の近傍にて清瀧川を併す、清瀧川の溪流には高雄、梅尾、檜尾などの紅葉の名所あり。京都より西に、桂川を渡り老坂を越ゆれば丹波にして、

(一)明智光秀の築きし城趾あり

龜岡・園部・福知山あり、福知山より東北に鬼城山を望み、由良川に沿ひて下れば丹後にして、舞鶴に達す。福知山は丹波の



天の橋立

物産集散地にして、阪鶴鐵道は大坂に通じ、歩兵第二十旅團の司令部あり、舞鶴は港内水深く、大船の碇泊に便なるを以て、第四海軍鎮守府の所在地たり。舞鶴より海岸を西に、七曲八峠を越ゆれば、宮津灣に出づ、灣頭の宮津港は開港場にして、市況の盛んなること丹後第一たり。灣の西北岸より、一條の沙洲遠く西南に斗出し、白沙青松相映じて眺望の絶佳なる

は、日本三景の一なる天橋立にして、成相山よりの眺望最も佳なり。宮津の西北、峯山は丹後縮緬本場の地たり。

府下の物産は丹波丹後に蠶業行はれ、丹波は栗を産し、丹後は縮緬最も名高く、またその海は鯨鯨鳥賊の漁利多し、山城は殊に茶を以て著はる、その他鞍馬炭北山丸太白川石松茸亦世に名あり。

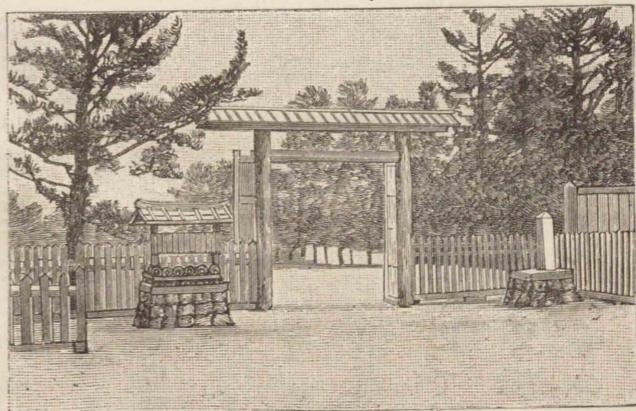
奈良縣 大和全國を領す。●地勢は大和川の灌域に、纔かに平野をなせども、南部は概ね山岳重疊す。●奈良市は縣廳所在の地にして、元明天皇より七代の帝都たりし處にて、南都又は平城と書しき、市の東の三笠山は殊に名高く、又春日神社・東大寺・興福寺・猿澤池等の名區勝地を存し、東大寺の正倉院及び他の寺院には、古代の美術品多く、わけて奈良帝室博物館の陳列品は、一として上古の雅致を存せざるはなし、

(一)所謂奈良の大佛のあり處

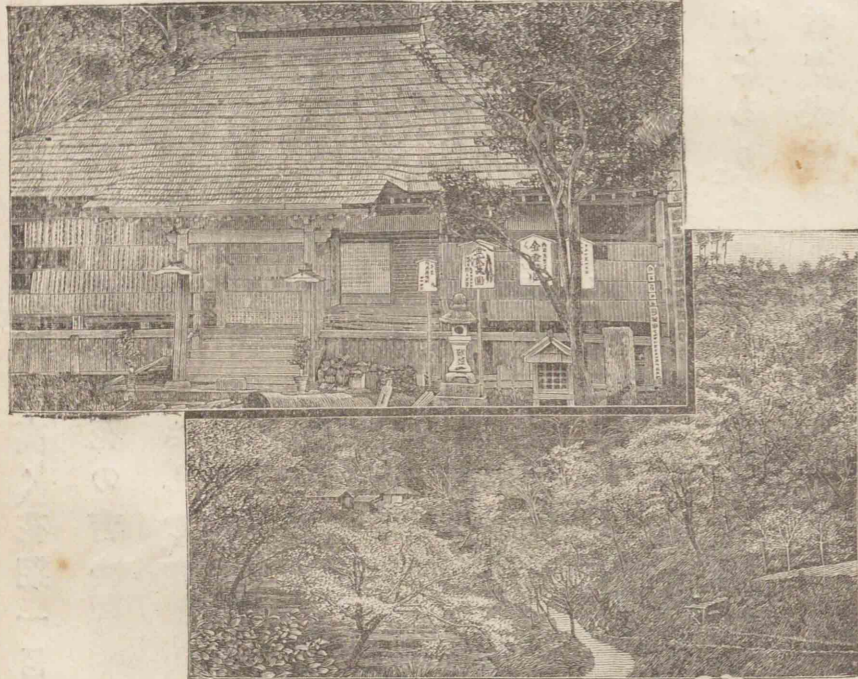
(一)柳澤氏の
十五萬石の
舊城下

(二)天誅組
の事を擧げ
し處に南に
賀名生の宮
あり

奈良漬・奈良晒布・奈良人形・墨鹿の卷筆・奈良根來塗等は市の
名物たり。●奈良より大阪鐵道は西
に郡山・法隆寺・王子を経て大阪に通
ず。法隆寺は聖德太子の創立にかか
り、我が國最古の佛寺なり。王子より
は、南和鐵道は南に、高田・御所・五條に、
紀和鐵道は五條より橋本に至る、又
奈良より奈良鐵道は、南に櫻井に通
じ、櫻井より西は、高田まで大阪鐵道
あり。此の地方の一帶を遊歴するを
俗に大和巡りと稱し、畝傍山下の檀
原・神宮・天香山・多武峯の談山神社・初瀬なる長谷寺の觀音等



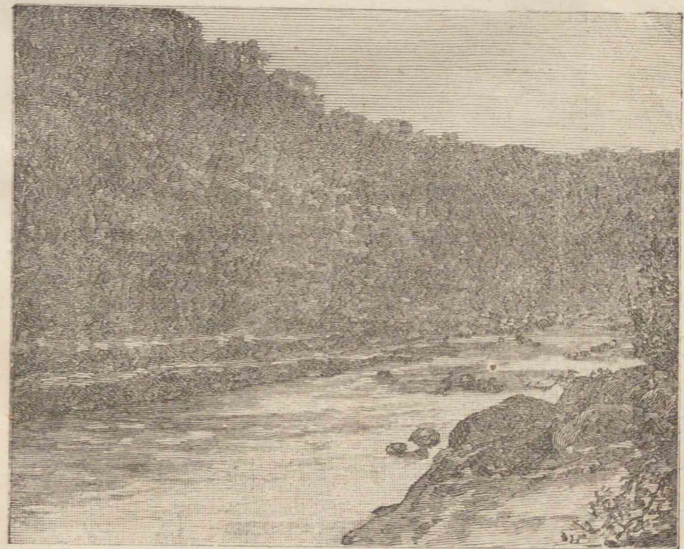
畝傍山東北陵



吉野の櫻花と如意輪寺

に巡拜し、又南に吉
野山に遊ぶ。長谷寺
の牡丹・多武峯の櫻
は、花時殊に麗はし
く、談山神社は藤原
鎌足の靈を祀れる
處にして、其規模は
敢て大なるにあら
ざれども、社殿の壯
麗なるにより、關西
の日光と稱す。吉野
山は北に吉野川に

臨み、古來櫻を以て名高く、花期一目千本の櫻は、そぞろにこ
 れはこれとはばかり花の吉
 野山ノの佳什を想ひ起さしむ、
 此の地、又南朝四代の行宮あ
 りし處として、後醍醐天皇の御
 陵あり、その傍の如意輪寺に
 は、小楠公が辭世の歌を刻み
 しと稱する堂扉を存す。是よ
 り南は、所謂吉野十二峯にし
 て、十津川郷はその西南の山
 中にあり、山上嶽は眞言の行
 者が崇信する靈場たり、觀梅に有名なる月瀨は奈良より東



梅の瀨ノ月

（一）所謂大峯山

の伊賀境にあり。

縣下の物産は吉野地方の杉、葛粉、紙塗物、鮎及び北部の綿、白木綿、飛白木綿等最も名高し。

和歌山縣 紀伊の大部を管す。●地勢は紀伊山脈の分派、域内に盤結せるにより、大部は峰巒相重なり、紀川の流域纔かに地平らかに、土肥ゆ。●和歌山市は縣廳所在の地にして、人口殆ど六萬許、北は大阪と瀛車を通ぜると、紀川に臨めるとにより、海陸交通の便に富み、商工業盛んに、綿、フランネル、紋羽織は市の名産なり、綿、フランネルはこの地にて、瀬戸十助氏が始めてこれを製織せしによりて、單に紀州チルとも稱す。市の東に天照大神を祀れる日前國懸の兩社あり。和歌山より紀川の流域を遡れば、根來粉河を経て大和に入る、紀和鐵道

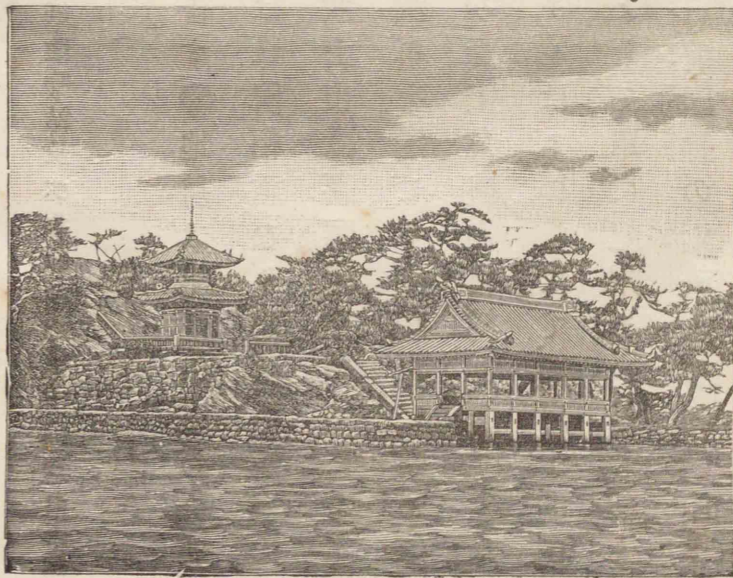
（二）紀伊中納言五十五石の舊城下

（三）眞言宗新義派の本

山根來山大
傳法院あり

は、此の街道に沿うて敷か
れむとす。粉河の東南に高
野山あり、此の山は扁柏・杉
金松を以て蔽はれ、頂上の
高野平は弘法大師の開き
し地にして、有名なる金剛
峯寺あり、高野豆腐は、最初
此處の製出に係る。●和歌
山より南に、和歌、浦の勝地
あり、漆器を以て名高き黒
江あり、これより湯淺・御坊
を経て東南に田邊に至る、

(一)真言宗
古義派の本
山



和歌浦

(一)伊藤孫
右衛門が肥
後八代に
移したた
るに始まる
(二)古への
湯崎の温泉

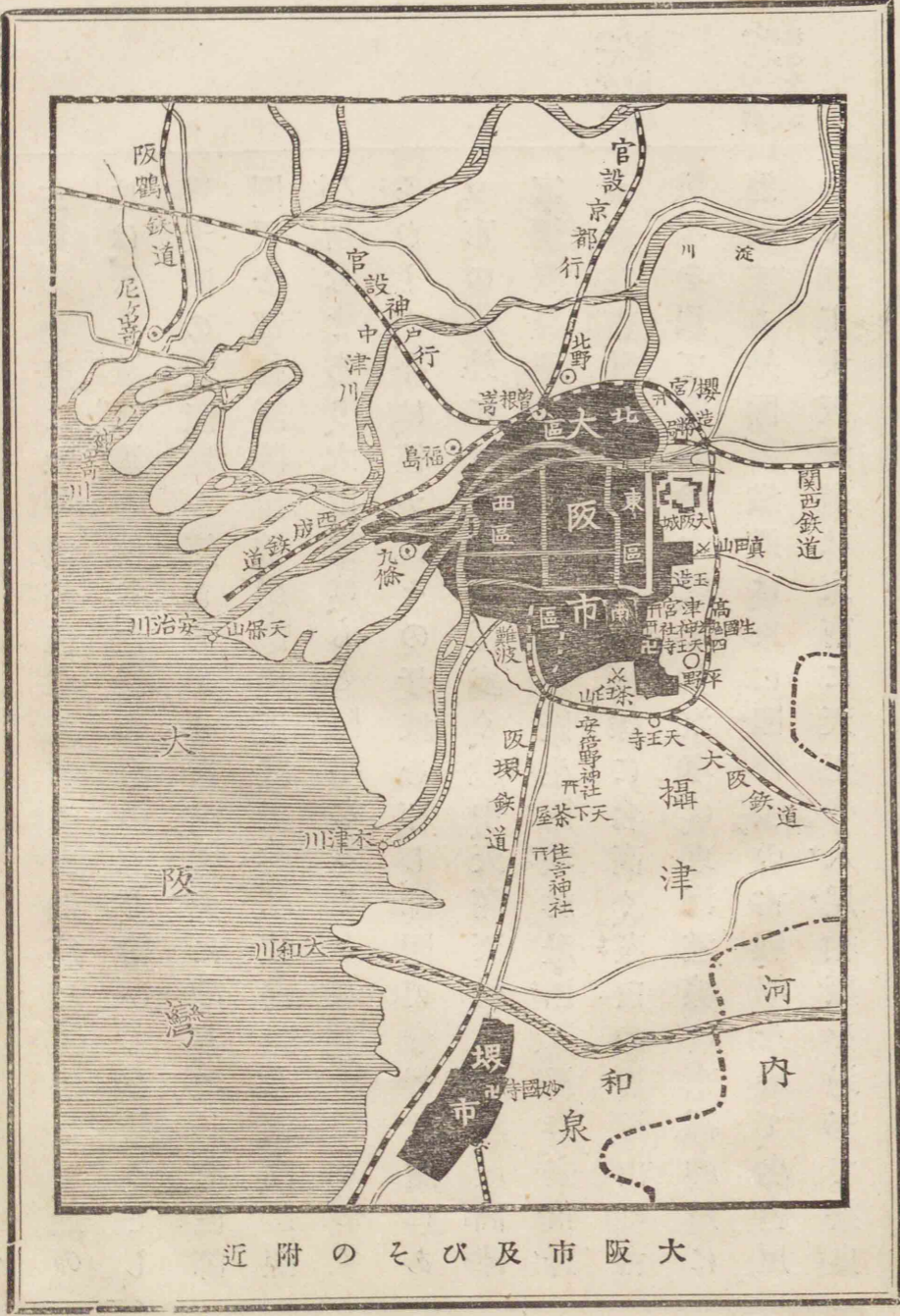
(三)本宮の
熊野神社
新宮神社
速智山社
野須美神

その間の有田川・日高川の灌域は、地味殊に蜜柑の栽培に適
し、紀州蜜柑の名能く人に知らる。田邊は南部の都會にして、
田邊灣に臨めり、附近に鉛山の温泉あり。田邊より東の山間
に本宮あり、十津川北より此處を過ぎて東に流れ、北山川に
合し熊野川となる、その河口に新宮あり、熊野三社の一なる
那智山は、新宮の西にありて、山腹の那智瀑は、高く懸かるこ
と八十四丈、幅十丈ありて熊野灘を過ぐるもの、船中より之
を望むべし。

縣下の物産は蜜柑・生蠟材木・薪炭・綿・ラテキル・紋羽織漆器等を主とし、殊に漆
器は黒江にて製するもの最も多く、その三分の二は、小卓子・盆・飾臺・小箱等に
して、大抵は海外に輸出す、又沿海は鯨鯨等の漁網に富み、熊野川の上流より
は無煙炭をいだす。

大阪府 河内・和泉の全部・攝津の一部を管す。●地勢は南部北部に山岳起伏すれども、中央以北は、淀川・大和川の灌域なる畿内平原にして、地低く、土肥え、米・綿の産あり。●大阪市は府廳所在の地にして、淀川の三角洲に位し、人口七十六萬、實に我が國第二の大都たり、全部を四區に劃り、市内は東西横堀・長堀道・頓堀等の河溝縱横に貫ぬき、大小二百有餘の架橋を以て往來を通じ、陸路は四方に鐵道の便を有せるにより、水陸の交通完備し、且つ開港場なるを以て、許多の外國人在留し、殊に安治川口の天保山沖には、内外の船舶常に輻湊し、出船千艘・入船千艘の名、實に空しからず。工業も近時大に振ひ、夥多の工場には、煙突高く空を撐へて、黒烟天を蔽ひ、盛んに綿絲紡績・造船・燐寸・紙・製革・煉瓦・硫酸・曹達・銅鐵器等を製し、

(一)東區、
西區、南區、
北區



大阪府及びその附近

古來の物産には、一閑張・薄雪・昆布・眞田織・籐細工等あり。此の地は、もと難波津ナニハヅと稱し、仁徳天皇の都し給ひしを始めとし、豊太閤の大阪城を築きしより、市況盛大に趣き、現時、第四師團司令部・控訴院・造幣局・砲兵工廠・工業學校・商船學校・商品陳列所などあり、大阪城は、もと堅牢なること天下無雙と稱せられしが、今は、僅かにその牙城を存し、師團司令部此處にあり、市の内外には社寺勝區多く、就中、天滿天神・座摩神社・高津宮・豊國神社・難波別院・津村別院・生國魂神社・四天王寺・安倍野神社・住吉神社・大念佛寺等は殊に名高く、茶臼山・眞田山は古戰場を以て聞ゆ。●大阪より瀛車は、東海道線は京都・神戸に連絡する外、關西鐵道は、東に四條畷ヨシノナハの古戰場を経て、名古屋まで通じ、大阪鐵道は、東南に天王寺・八尾・柏原を過ぎて奈良

(一)平野にありて、念佛宗の本山

(二)四條畷神社には、小幡公を祀る

(三)崇神天皇の開き給ひしもの

に至り、柏原より河南鐵道は南に分かれ、道明寺を経て富田林トキノに至る。富田林より遙かに東南に見ゆる山は、即ち金剛山コンゴウザンにして、麓なる赤阪アカサカ・千早チノハヤの城趾は當年の壯圖を追想するに足る。富田林の西なる狹山池サヤイは、我が國にて、水利土功の始めにして、民今にその利に頼る。●堺市は大阪の南にあり、往時は外國との貿易場にして、市況盛んなりしが、港内水淺きが故に、今は、神戸と盛衰その所を換へぬ。鐵器・段通織は市の特産たり、市内に妙國寺の古刹ありて、その大蘇鐵は殊に名高し、東郊に仁徳天皇の大山御陵オオヤマミマあり。堺より阪堺鐵道は、北に大阪に、南海鐵道は南に海岸を濱寺・岸和田等を過ぎて和歌山に通じ、高野鐵道は現時市の東より河内の長野まで開通す。●釀酒及び木炭を以て名高き池田は、大阪の北にありて、

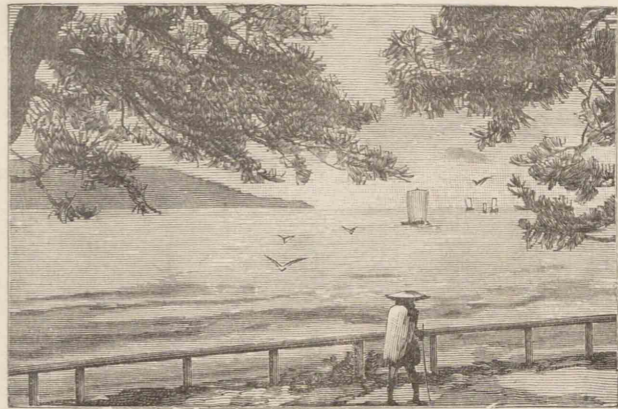
尼崎アヅサキに阪鶴鐵道を通ず、箕面山ヒシノはその東北に聳ゆる紅葉の名所なり。

府下の物産は前記の外、河内木綿最も名高く、紋羽織ウンサイオリ、雲齋織ウンサイオリ、道明寺繻ホシイヒ和泉の魚貝等あり。

兵庫縣 但馬・播磨・淡路の全部、攝津・丹波の一部を支配す。●地勢は中國山脈、中央を互りて分水界をなし、その分脈南北に横はりて、峯巒起伏すれども、河海の沿岸は平坦なり。●神戸市は縣廳所在の地にして、大阪灣の西北に位し、湊川市の中央を貫きて東西に二灣をなす、その東を神戸、西を兵庫とす、神戸港は我が國第二の開港場にして、水深く船舶の碇泊に便なるを以て、内外の商舶出入夥しく、繁華は横濱に亞ぎ、人口亦粗相同じく、牛肉・西洋紙・燐寸は市の名産たり、輸出は

綿織絲米・茶・燐寸・銅・陶器・地蓆・麥稈・眞田等を主とし、綿絲・繰綿・金巾・石油・砂糖・諸器械・米・豆類を輸入す。楠正成を祀れる湊川神社は、市の北にありて、その「嗚呼忠臣楠子之墓」の墓碑は、千古の下、凜として今に正氣あり、平清盛が別邸の舊趾なる福原は、市の西にあり、近郊の生田・森布引・瀑タケは共に有名なり。鐵道は市内を貫き、東海道線は東に大阪に、山陽線は西に岡山に通ず。神戸より東の御影・魚崎・西宮等を一帶に灘地方ナタと稱し、古來銘酒釀造の本場たり。灘の北に有馬の溫泉あり。また東に伊丹・尼崎ありて、ともに阪鶴鐵道の線路にあたり、伊丹の酒は殊に世に名高し。●神戸より西は、海岸に沿ひ、鴨越ヒヨドリゴ、谷鐵拐峯カクガの古戰場を右に見、須磨舞子・明石を経て姫路に至る、此の邊は、空氣の清鮮なると、氣候の溫和なるとによりて、

○部大松平兵
石名舊城十萬
有なる人
丸神社あり



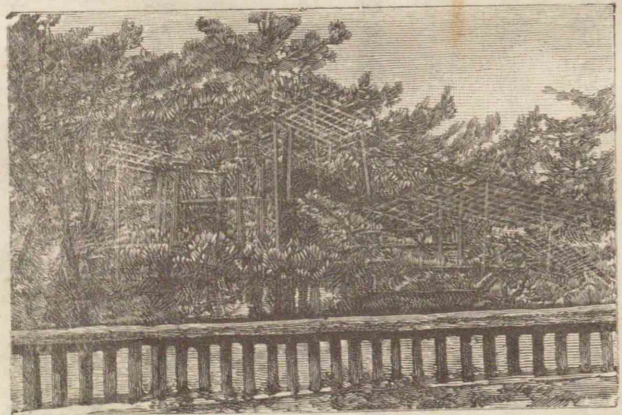
舞子濱よ淡路島を望む

やかに、由良は紀伊に福良は四國に渡る要津たり、福良より

天下有數の療養地と稱せられ、その砂岸一帯は青松と相映じ、沖の風帆、遠きは座するが如く、近きは馳するが如き所、恰も一幅の墨畫を展ぶるに似たり、明石は明石鯛、帆木綿を出だし、その城趾は離宮たり、是より姫路にいたる途上は、所謂播磨名所にし、別府の手枕、松尾、上松、高砂の相生、松曾根の天神、松石の寶殿等、見るべき者多し。舞子濱の對岸は淡路島にして、呼べば應へむとす、島の東岸なる洲本は市街稍にぎ

○酒井雅
樂頭十萬石
の舊城下

は支那向きの陶器を出だす、所謂珉平燒是なり。由良は大阪灣の咽喉なるにより砲臺を築き、要塞砲兵を置けり。姫路市は、播磨の都會にして、北は生野より、南は飾磨港に播但鐵道を通じ、西北は因幡美作に達する街道に當るを以て、市況盛んに、革細工は製法舊式なれども、市の名産たり、第十師團司令部その城にあり。市の北に書寫山あり。●姫路より以西には醬油の産ある龍野、鹽を以て名高き赤穂あり、殊に赤穂は四十七士のことによりて、今に、世人に記憶せらる。生野は中國



手枕の松

(一) 朝來川
とも云ふ

山脈の中に位し、古來銀金の採掘夥し。此こより圓山川の谿谷を下れば豊岡あり、柳行李の産を以て知らる、更に下れば城崎の温泉あり、その間の入り込みたる處に、有名なる玄武洞ありて、洞内の玄武岩は殊に奇觀なり。豊岡の東南なる出石には、出石焼の名産あり。

縣下の民は、山地にては主に農耕牧畜に従ひ、沿海にては製鹽漁業を事とせるにより、牛生絲真綿の産夥しく、東部の酒西部の紙御影の石材亦世に知られ、淡路には陶器の産あり。

(口) 中國區

中國區は因幡伯耆出雲石見隱岐長門周防安藝備後備前美作を含み、縣治上分かちて、鳥取島根山口廣島岡山の五縣とす。

(一) 池田氏
三十二萬石
の舊城下

鳥取縣 因幡伯耆を管す。●海岸は夜見濱西北に突出せる外、一體に屈曲少なく、域内は山岳連亘して、地勢概ね峻惡を極め、千代川日野川の流域纔かに低平なり。●鳥取市は縣廳所在の地にして、千代川に臨み、美作播磨但馬と交通の便を有し、市街繁華なり。國道は是より西に、海岸に沿ひ、湖山地を左に見、更に西に、淀江を過ぎ、日野川を渡りて米子に至る。東郷池の西南には、木綿飛白の産ある倉吉あり。淀江の東なる名和村には名和神社あり。大山は淀江の東南に峙だてる著名の高山にして、その北麓は牧牛甚だ盛んに行はれ、多くは阪神地方に輸出す。名和長年の王事に勤めし船上山は、其東北にあり。境港は開港場にして、夜見濱の北端に位し、僅かに中江海峽を距てて、島根半島に對し、灣水深く、船舶の碇泊自

在なるを以て、敦賀・伏木・新潟・馬關等と汽船の往來あり。

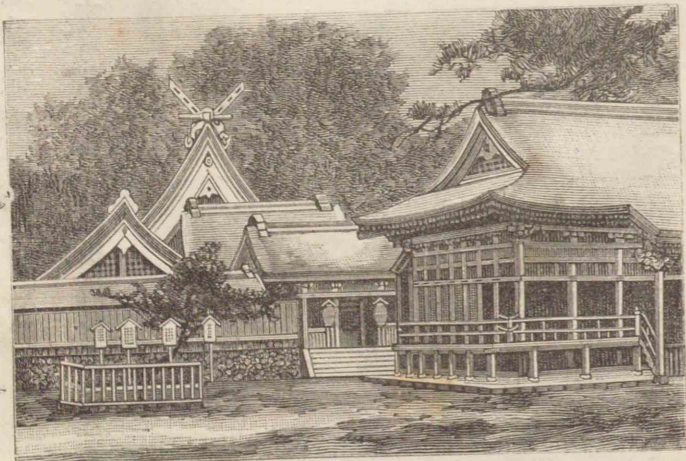
縣下の物産は、因州の牛紙・白珊瑚・杉・樅等の材木・伯州の木綿・砂鐵等を主とす。

島根縣 出雲・石見・隱岐を領す。●海岸は東北に島根半島ありて、内に、矢道湖・中海をなせる外、著しき屈曲なく、域内は大部に山岳重疊して、僅かに神門川・斐伊川・江川の流域に平原をなす。●松江市は縣廳所在の地にして、矢道湖水が中海に通ずる大橋川に立ち、湖山の景に富む、湖南地方より布志名焼を出だす。松江より東へ、半島の盡くるところに美保關あり。矢道湖は周回十一里餘、鱸を以て著はれ、斐伊川これに注ぐ。川は源を船通山に發す。古史に、所謂、簸川上の地方にして、素盞鳴尊の事を以て名あり。杵築は島根半島の西岸に臨む。小都會なれども、出雲大社あるによりて、市街繁華なり。杵

○所謂石の門十萬石の米産地
○松江平出の石八萬羽下
○六千石の舊城

多きは漁業を専らとす、西郷港は灣水深く、國中の良港たり、

築より海岸を西南にかけ、三瓶山を左に見、大森の銀山を経て、江川を渡れば濱田に達す。濱田は開港場にして、紙の取引盛んに、汽船は馬關及び境に航行し、石見第一の良港たり、附近より長濱焼を出だす。津和野は此より山口に通ずる街道にあり。●隱岐は四大島より成り、東北の島後島に對して、その南の知夫里・西島・中島の三島を島前と云ふ、共に地不毛にして耕作に適せざるにより、住民



大 社

○(一)後醍醐天皇の御所跡
○(二)後鳥羽天皇の陵廟

西島の黒木神社・中島の後鳥羽神社は、共に史上に名あり。縣下温泉多く、就中、著名なるは、温泉津・頓原とす。

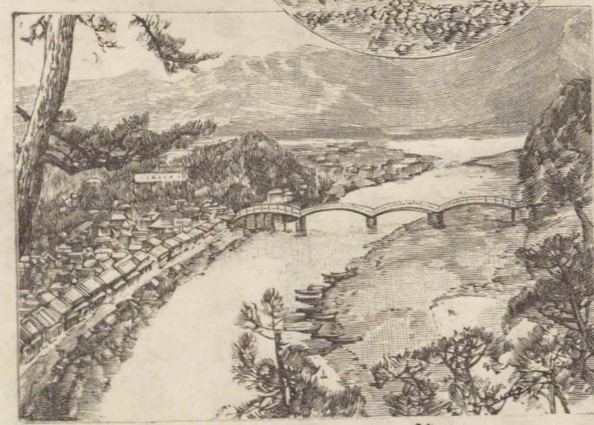
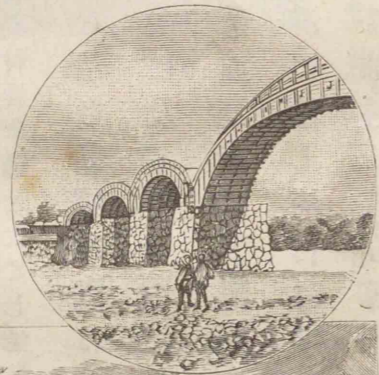
物産は隠岐にて鰯海鼠腸材木雲州にて十六島の海苔大根島の人參布志名及び長濱の陶器石州にて紙砂鐵銀等は殊に著名なり。

山口縣 周防・長門を領す。●海岸は屈曲して、地概ね低平なれども、内部は中國山脈の餘脈を受けて、大部に山岳充塞す。

●山口町は縣廳所在の地にして、周防の西部に位し、三方に山岳を控へて、要害堅固なるにより、大内氏の城を築きし頃は、繁華京都を凌ぎしが、いまは、市街淋しく、歩兵第二十一旅團司令部・山口高等學校ここにあり。三田尻はその東南に位し、縣下の要津たり、ここの近傍には製鹽業盛んなり、現時、山陽鐵道は神戸より此處まで開通し、その線路に徳山・室積・柳

○(一)毛利氏三十一萬九千石
○(二)長島の關・三

井津・岩國の都邑あり。柳井津の南は、地南に突出し、左右に大島・長島あり。岩國は繁華の地にして、その錦帶橋は、俗に算盤橋といひ、日本三奇橋の一にして、五橋の連架より成り、構造頗る奇巧なり、岩國縮・岩國半紙は此處の名産たり。山口より北に、日本海の沿岸に萩の舊城下あり、幕末維新の當時、幾多の俊傑を出だししを以て知らる。●赤間關市は防・長・三關の一にして、馬關或は下關と稱し、開港場にし



錦帶橋

田尻の西の
中の關を合
せ稱す

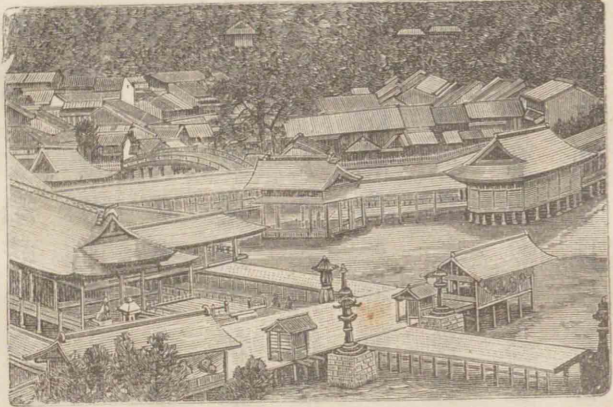
て商業盛んに、石炭・米・綿布を輸出し、米・肥料・豆を輸入す。煙草・硯材は市の名産なり、市内の赤間宮は官幣中社にして、安徳天皇を祀る。引接寺は日清戦役よりこのかた名高くなれり。此の地は、門司と相對して、内海の咽喉に當るを以て、砲臺を設く。壇浦の古戰場は市の東にあり。

縣下の物産は鹽紙、木綿硯材、煙草等を主とし、沿海は漁利多し。

(一)淺野氏
の四十二萬石
の舊城下

廣島縣 安藝備後を治む。●域内概ね山岳重疊し、北部は殊に高く、冬期積雪丈餘に及ぶことあれども、漸次南に低く、沿水の地稍平坦なり。●廣島市は縣廳所在の地にして、人口十萬餘、太田川の三角洲に位し、河口に宇品港を控へ、水陸の便宜しく、第五師團司令部・控訴院・高等師範學校等あり、牡蠣海苔は市の名産なり。宇品の南なる似島は形ちの富士山に肖

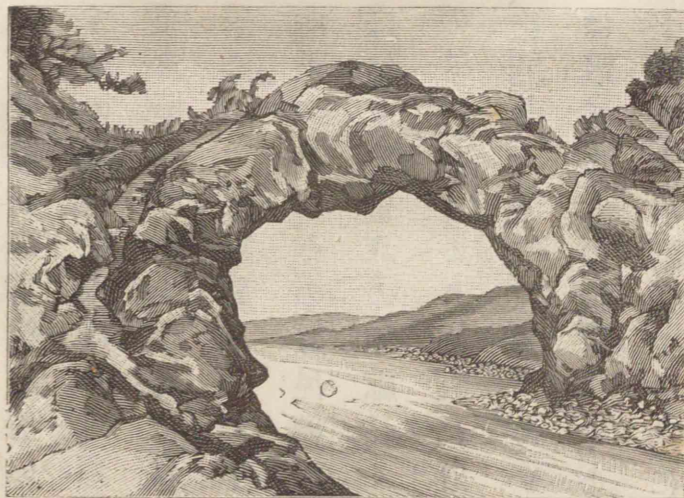
(一)毛利元
就の陶晴賢
を討ちし處



島 嚴

たるにより、安藝の小富士の名あり。その南の江田島には海軍兵學校あり、島の對岸は吳港にして、第二海軍鎮守府のあり處とす。此の地の南端は、音戸瀬戸を距てて倉橋島に對す。嚴島は日本三景の一にして、又宮島と稱し、宇品の西南海上にあり、その嚴島神社は殿堂水に架りて、百八の廻廊長く繞り、燈華の波に映ずるさま實に壯觀にして、繪圖よりも見て驚けり。いく島とは敢て古人の誣言にもあらじ、宮島土産の竹木諸細工は世に名高し。●廣島より鐵道は東に三原・絲崎・尾道・福山を経て岡山

縣に入る。三原より西の海岸なる竹原は頼山陽が父の故郷なり、東の絲崎はさきつころ開港場となれり。福山の南なる鞆津は、内海の要津にして、保命酒の産あり。尾道市は前に向島、因島を横たへて、風浪静かなるに
より、船舶常に輻輳し、煙草鹽の産あり。三次は備後の西北、山中の小都會なれども、吉田を経て廣島に通じ、且つ雲石二國の通路に當ると、江川も亦此處より舟楫の便あるとにより、商業盛んなり。この地方に霧の海の



橋 神

奇觀あり。三次より東の御神山には、奇岩多く、殊に、帝釋川に架せる神橋は、斷崖自然に谿流に一大橋をなし、實に天下の奇觀たり。

縣下の物産は備後の壘表・綠綿鹽・鐵安藝の牡蠣・大麻・藍綿・紬・傘等を主とす。

岡山縣 備中・備前・美作を領す。●地勢は大部に山岳起伏し、漸次北に高まれども、海岸は低平なり。●岡山市は縣廳所在の地にして、人口六萬に近く、旭川に跨り、河口に三幡港を控へ、商工業盛んに、華筵・熊野染は市の名産なり、第六高等學校は此こにあり、市内の後樂園は、日本三公園の一にして、頗る風致に富む。岡山より播州路は、東に刀劍を以て名ある長船伊部及び蠟石の産ある三石を經、六百餘間の舟坂峠の隧道を過ぐ。三石の西なる閑谷新田にある閑谷饗は池田光政の

(一)池田氏の
三十一萬石
の舊城下



後 樂 園

創むるところに
して、その名高く、
今猶學生の來り
學ぶ者多し。伊部
は上古の忌部職
のありし處にて
我が國の最も古
き製陶地にして、
嘗て精巧他に類
なきものを製せ
しが、今は大に衰
へて、僅かに伊部

（一）吉備津
彦命を祀れ
る吉備津神
社あり
（二）吉備
津神
（三）吉備
津神
（四）吉備
津神
（五）吉備
津神
（六）吉備
津神
（七）吉備
津神
（八）吉備
津神
（九）吉備
津神
（十）吉備
津神
（十一）吉備
津神
（十二）吉備
津神
（十三）吉備
津神
（十四）吉備
津神
（十五）吉備
津神
（十六）吉備
津神
（十七）吉備
津神
（十八）吉備
津神
（十九）吉備
津神
（二十）吉備
津神
（二十一）吉備
津神
（二十二）吉備
津神
（二十三）吉備
津神
（二十四）吉備
津神
（二十五）吉備
津神
（二十六）吉備
津神
（二十七）吉備
津神
（二十八）吉備
津神
（二十九）吉備
津神
（三十）吉備
津神
（三十一）吉備
津神
（三十二）吉備
津神
（三十三）吉備
津神
（三十四）吉備
津神
（三十五）吉備
津神
（三十六）吉備
津神
（三十七）吉備
津神
（三十八）吉備
津神
（三十九）吉備
津神
（四十）吉備
津神
（四十一）吉備
津神
（四十二）吉備
津神
（四十三）吉備
津神
（四十四）吉備
津神
（四十五）吉備
津神
（四十六）吉備
津神
（四十七）吉備
津神
（四十八）吉備
津神
（四十九）吉備
津神
（五十）吉備
津神
（五十一）吉備
津神
（五十二）吉備
津神
（五十三）吉備
津神
（五十四）吉備
津神
（五十五）吉備
津神
（五十六）吉備
津神
（五十七）吉備
津神
（五十八）吉備
津神
（五十九）吉備
津神
（六十）吉備
津神
（六十一）吉備
津神
（六十二）吉備
津神
（六十三）吉備
津神
（六十四）吉備
津神
（六十五）吉備
津神
（六十六）吉備
津神
（六十七）吉備
津神
（六十八）吉備
津神
（六十九）吉備
津神
（七十）吉備
津神
（七十一）吉備
津神
（七十二）吉備
津神
（七十三）吉備
津神
（七十四）吉備
津神
（七十五）吉備
津神
（七十六）吉備
津神
（七十七）吉備
津神
（七十八）吉備
津神
（七十九）吉備
津神
（八十）吉備
津神
（八十一）吉備
津神
（八十二）吉備
津神
（八十三）吉備
津神
（八十四）吉備
津神
（八十五）吉備
津神
（八十六）吉備
津神
（八十七）吉備
津神
（八十八）吉備
津神
（八十九）吉備
津神
（九十）吉備
津神
（九十一）吉備
津神
（九十二）吉備
津神
（九十三）吉備
津神
（九十四）吉備
津神
（九十五）吉備
津神
（九十六）吉備
津神
（九十七）吉備
津神
（九十八）吉備
津神
（九十九）吉備
津神
（一百）吉備
津神

（三）松平三
河守十萬石
の舊城下

燒即ち備前燒の名を存して、土管の製造を主とす。舟坂峠は
兒島高德の後醍醐天皇を要せんとせし處なり、牛窓港は伊
部の南にあり、岡山の西に眞金・高松あり、西南に倉敷あり。是
より西に、高梁川を渡れば、玉島・笠岡の諸港あり、玉島は港内
水深く、神戸と漁船の便を有し、縣下の要津たり。藤戸、渡は兒
島半島の頸部に位す。●高梁川を遡れば、高梁の城市あり、そ
の西北なる吹屋の銅山は、大同年間より採掘し、今猶數百の
坑夫その業に従ひ、山上ために一小市街をなす。津山は山間
の都會なれども、因伯二國の通路に當り、市況盛んに、雲齋織
の産あり、現時、中國鐵道は岡山より此處まで開通す、その線
路の一驛なる誕生寺には、淨土宗を創めし法然上人の生れ
し誕生寺あり、津山の西に院庄・勝山あり、院庄は高德が櫻樹

(一)崇徳天皇行在所の趾あり
(二)安徳天皇の内裡の趾あり

津は縣下の要港にして、中國より九州へ航行する、汽船の寄港する處なり。埠頭より西北海上なる、鹽飽群島の眺望頗る佳し。琴平は世に、所謂金毘羅大權現のある處にして、その殿社は、高く象頭山の半腹にあり。●高松より東に、志度へ行くまでの間に、屋島の古戰場あり、五劍山はその西北の半島に聳え、古へは五峯聳立せしが、今はその一峯を缺けり、その北の小豆島は醤油の産を以て名高し、志度より阿波に通ずる街道筋の引田は砂糖・醤油の製出盛んなり。

縣下の物産は穀物・綿・藍・醤油等の外、砂糖・鹽の製出は帝國に冠たり。

(三)もと勝山と稱す久

●愛媛縣 伊豫一國を領す。●四國山脈は土佐を限り、その餘脈更に高繩半島に充塞せるにより、山岳大部に起伏し、沿水の地、纔かに平原をなす。●松山市は縣廳所在の地にして、西

松氏十五萬石の舊城下

(一)伊豫の湯の湯桁はついで左八つ右は十六つ中

(二)もと板石伊豫十萬石の舊城下

北に三津濱を控へ、市街繁華に、松山・縞・伊豫素麵の名産あり、歩兵第十旅團の司令部此にあり。市の東北なる道後の温泉は、古へより殊に名高し、鐵道は松山より道後三津濱を連ね、又平井河原郡中に通ず。三津濱の西北には島嶼處々に散在す、その興居島は、全島一山より成り、風景佳く、伊豫の小富士の名あり。宇和島は西南の海港にして、織物・紙の産あり。大洲はその北にありて、肱川に跨り、河口の長濱と舟楫の便あり、ここに製する大洲半紙殊に有名なり。八幡濱はその西南の要港なり。●松山より東に、國道に沿ひて高繩・石槌二山の連脈より成れる分水脊を越ゆれば、西條あり、更に東に川江あり、有名なる立川・別子の銅山・市川の安質母尼鑛山は、此の街道の南にあり。西條の東北なる新居濱は、鹽業盛んに、今治

は西條の西北に位し、舟泊の要港たり。

縣下の物産は紙、生蠟、織物、砥石、伊豫籠等の外、銅は産額足尾に亞ぎ、市川の安質母尼は多量の輸出をなす。

徳島縣 阿波一國を治む。●東部の沿岸、及び吉野川の灌域

は、地低く、土肥え、廣き平野をなせども、西南部は山岳重疊し、

劍山ツルギザンの谿谷、祖谷ソノヤの僻郷の如きは殆ど別世界の觀をなす。●

徳島市は縣廳所在の地にして、人口六萬餘、吉野川の三角洲

に位し、水陸運輸の便あるを以て、商業甚だ盛んに、緞織シヨウシは市

の特産たり。市の北なる撫養港ニユヤは鳴門海峡を距てて淡路に

渡る要津にして、有名なる齋田鹽本場の地なり。徳島より徳

島鐵道は西に一部既に開通せり、これより吉野川筋の流域

を遡れば、平谷は藍煙草の耕作に適し、その河畔に立てる脇ワキ

(一)蜂須賀氏二十萬石の舊城下

(二)西の池谷には土御門天皇の御陵あり

(一)安徳天皇の御劍を祀る(二)煙草、茶を産す

(三)山内氏二十萬石の舊城下

町・貞光・池田等の都邑は、徳島に通ふ河舟の往來繁く、市況皆

盛んなり。劍山は吉野河系の南に聳ゆる高山にして、頂上に

劍社あり。祖谷ソノヤは山西の谿谷に位し、平家の落人の隠れ處と

稱す、そこを流るる祖谷川には、數多の蔓橋カワバシを架し、長きもの

は三十餘間に及ぶ、また山間の奇觀なり。徳島より國道は南

に、海岸に沿ひ、小松島・富岡・日和佐を経て土佐に通ず。

縣下の物産は藍煙草、甘蔗、鹽、茶、穀物等を主とし、殊に藍は産額品質共に帝國

無雙と稱せられ、齋田鹽は品位赤穂に亞ぐ。

高知縣 土佐一國を支配す。●域内は山岳大部に盤結して、

東北殊に嶮惡を極め、海岸一帶のみ稍平野をなす。●高知市

は縣廳所在の地にして、鏡川カガミに臨み、灣内水深く、汽船の出入

自由なるを以て、市況盛んなり、市の中央の城趾は、今は公園

○(一)近傍に
長曾我部氏
の城跡あり
○(二)紀貫之
の政所あり
し之處

となり、牙城の威臨閣は全市を瞰下し、吸江の眺望殊に佳し。市の咽喉の浦戸港又東北の國比左は共に史上に名あり。高知より海岸を通ずる阿波街道には、赤岡・安藝・甲浦等あり。赤岡の東、海岸の脇磯は土御門天皇の行在所のありし處なり。甲浦は國の東隅に偏せるにより、漁船の出入稀なれども、灣廣く、水深く、許多の巨舶を容るるに適するは四國第一と稱せらる。●宿毛は西南の小都會なれども、維新の際、名士を出だししを以て知らる。是より高知に至る間に、中村・須崎・高岡等の都邑あり。就中、須崎は縣下の良泊なるが上に、附近の地に、製紙の業盛んなるを以て、繁華は高知に亞ぐ。

物産は水産物甚だ多く、殊に鯉は帝國中の首位を占め、その鯉節は市場に名高く、鯨珊瑚亦他縣に稀なり、農産物は穀物甘蔗煙草茶樟腦を主とし、土佐半

紙は近時益改良して製抄我が國に冠たり。

(二)九州區

九州區は豊前豊後筑前筑後肥前肥後日向大隅薩摩壹岐對馬を含み、縣治上分ちて、大分福岡佐賀長崎熊本宮崎鹿兒島の七縣とす。

○(一)もと府
内と云ふ

大分縣 豊後の全部・豊前の一部を管す。●地勢は山岳大部に縦横し、中津灣・大分灣の沿岸稍低平なり。●大分町は縣廳所在の地にして、大分川に臨み、中國の諸港と漁船の航行あり。東の佐賀・關・東南の臼杵・佐伯は共に船舶出入し、市況盛んなり。別府は大分の西北海岸にありて、温泉を以て名高く、豊後富士と稱せらるる由布岳はその西に聳ゆ。山國川上流の山國谷は、所謂耶馬溪にして、河水浸蝕の作用は、數里の間、怪

(一)奥平氏
十萬石の舊
城下

岩奇石水を夾みて屹立せるさま、ハルタケノ春筍の如く、實に海内有數
 の奇景たり。中津町は山國
 川口の東岸に位して、鐵道
 は、一は宇佐に通じ、更に驛
 館川タガに沿ひて、河口の長洲
 に到り、他は遠く小倉門司
 と連絡し、市街賑やかなり。
 宇佐は宇佐八幡宮のある
 處にして、和氣清麿の故事
 を以て著はる。



耶馬溪

縣下の物産は疊表を第一とし、大
 豆、煙草、甘蔗、釜、鍋、紙等の外、沿海地方には製鹽業盛んなり。

(二)黒田氏
四十七萬三
千石の舊城

(三)敵國降
伏の數額を
納む

福岡縣 筑前・筑後の全部、豊前の一部を分轄す。●地勢は大
 部に山岳錯雜すれども、一般に高峻ならず。筑後川の流域は、
 所謂筑紫平原に屬し、地平らかに、土肥え、米作に適し、北部の
 沿海亦低平なり。●福岡市は縣廳所在の地にして、博多灣に
 臨み、那珂川、市内を貫流して、東西に博多・福岡を限り、人口合
 せて六萬餘あり、博多は商勢舊時の状態をなさざれども、開
 港場にして、博多織は市の特産なり。附近の地は、上古、朝鮮・支
 那と交通の盛んなりし時、最も頻繁を極めし處とて、西南の
 鳥飼村トリカには、九州探題の城趾あり。東北一帯の沿岸は多々良
 の海濱砂白く、千代の松原松翠にして、箱崎香椎ハコサキカシヒは共に史上
 に名高く、箱崎なる箱崎宮には、應神天皇を祀り、香椎なる香
 椎宮には神功皇后を祀る。名島ナシマは神功皇后が征韓の際、出船

(一)應神天皇の生れ給ひし處
(二)天智天皇の時築きしもの
(三)有馬氏の舊城下

(四)立花氏の十萬石の舊城下

し給ひし處なりといふ、總じて此あたりの地に、殘壘の今に點々たるは、元寇の往時を追思せしむ。香椎の北より、砂洲一帶西に志賀島に連なる處を海、中道と稱し、風景恰も天橋立に似たり。福岡の東なる、宇美東南なる太宰府は、天拜山と共に名高く、水城の古城趾、その附近にあり。●久留米市は筑後川に臨み、歩兵第二十四旅團司令部のある處にして、九州鐵道は、北に福岡に通じ、久留米飛白製織の本場なり。河口の若津港は、瀛船定期に航行し、筑後の要津たり。柳川はその近傍にあり。三池は肥後の國境に近く、石炭坑ありて採掘夥しきにより、大牟田港はその積出の要港として、近時市況大に盛んなり。久留米より筑後川を遡れば、左に英彦山高く雲表に屹立し、山中に十谷四十九洞ありと云ふ、英彦山神社その絶

(一)小笠原氏十五萬石の舊城下

頂に鎮座す。●小倉市は小倉織の産を以て名高き城市にして、第十二師團司令部所在の地たり。九州鐵道線は東に門司南に、大分縣に通じ、その支線また西南地方を掠む。門司市は開港場にして、石炭・米の輸出夥し、この地、下關と相對して、内海の咽喉に當るを以て、砲臺の設けあり。近傍の柳浦は安徳天皇駐輦の地なりしにより、又内裡と稱す。小倉の西は洞海にして、海口の若松港は遠賀川流域一帯の、所謂筑豊炭田を控ふるにより、石炭積出の要津として鐵道を通じ、また我が國唯一の製鐵所は、石炭供給の利あるがために、此の近傍の八幡村に設置せられたり。遠賀川の河口に位する蘆屋港は、古への岡湊にして、洞海と運河を通じ舟楫に便せり。

縣下の物産は、石炭の産額帝國第一に位し、外に、穀物諸織物紙蠟燭等を主と

し英彦山の杉亦良材の譽れあり

佐賀縣 肥前の大部を管す。●域内山岳東西に亙れども、筑紫海の沿岸は地低く、漸次東に、筑後川の水域は、筑紫平原の一部をなせり。●佐賀市は縣廳所在の地にして、人口は三萬に足らざれども、筑紫平原に立ちて、重要な位置を占むるに、より、もとは、鍋島氏三十五萬石の城下たり。此處より鐵道は東に福岡に通じ、西に溫泉を以て名高き武雄及び有田を経、て長崎縣に連結す。有田は北の伊萬里と共に製陶盛んに、伊萬里燒有田燒は今猶世上に名高し。此の間には、伊萬里鐵道あり。唐津は唐津灣頭、松浦河口にある、開港場にして、唐津燒の名産あるが上に、石炭は採掘の夥しきと、品質の佳なるを以て知らる。唐津より東の濱崎にかけて、一帯の海岸は、所

征韓の
役豐太閣の
陣せし處

謂、虹の松原にして、白砂一帯、青松と相映じ、風光佳し。唐津より西北の東松浦半島に、名護屋の城趾あり、古へ渡韓の船は多く此の附近の地より帆を揚げたりき。

縣下の物産は石炭、陶器、生蠟、鹽、茶等を主とす。

長崎縣 壹岐對馬の全部、肥前の一部を分轄す。●域内山岳起伏して、地勢一樣ならず、海岸亦頗る錯雜して、肥前の西に五島列島あり、北に壹岐對馬あり。●長崎市は縣廳所在の地にして、人口殆ど十萬、肥前の西南海灣に臨み、北・東・南の三方は山に圍まれ、西方一帯は、海水深く彎入して、自然の良港をなし、伊王島、香燒島等、その灣口を扼す。市に控訴院、第五高等學校の醫學部あり、唐木細工、鼈甲細工、縫箔、煙草等は、此の物産なり。此の地は我が國第三の開港場にして、主に石炭、鰯

米・綿織絲等を輸出し、砂糖・石油・鐵・豆類・繰綿などを輸入す。灣の西南海上なる、高島・中島は良質の石炭を産す。長崎より西北の地續きは彼杵半島にして、その西に五島列島あり、島中の富江・福江は市況繁華なり。附近の海は頗る魚族に富み、殊に五島鯨・五島鰯は、古へより名高し。長崎の東は島原半島にして、温泉嶽その中央に聳え、山腹處々に温泉あり。島原の舊城市は半島の東岸にあり。口津は半島の西南岸の小港なれども、三池炭輸出の要港たるが故に、今は開港場となれり。半島の北岸よりは、夏月、有明洋の不知火を望見すべし。所謂、千燈籠是なり。●長崎より東北は、諫早地頸にして、北に大村灣に臨める大村の舊城下あり。歩兵第二十三旅團の司令部ここにあり、九州鐵道は長崎よりここを過ぎ、北に早岐を経て

佐賀縣に入り、早岐より支線は西北の佐世保に分かる。佐世保はもと、市街淋しかりしが、灣廣く水深きにより、軍港として第三海軍鎮守府を置かれしより、人口三萬以上を有する都邑となれり。平戸島はその西北にあり、島の平戸港は始めて、和蘭と互市を開きし處とす。この東北なる鷹島は、元寇のことを以て著はる。壹岐の勝本郷浦はみな名邑にして、船舶の出入多く、對馬の嚴原は、佐須奈・鹿見と共に開港場にして、主に朝鮮と取引す。嚴原には警備として、歩兵一大隊を置き、島司廳を設く。又竹敷には砲臺を築き、要塞砲兵の設けあり。

縣下の物産は鯨・鯨鰯・雲丹等の海産物最も名高く、又砂糖・煙草・甘藷等の産あり。

（一）細川氏
の四萬石
の舊城下
人口五萬餘

熊本縣 肥後一國を治む。●地勢は北・東・南の三方に山岳重疊し、東南は山勢最も峻悪なれども、沿海は低く平らかに、西北部に開けて、平野をなし、肥後米の産處たり。●熊本市は縣廳所在の地にして、白河の右岸に沿ひ、市況盛んに、第五高等學校ありて、鎮西文學の中心たり、加藤清正の築きし熊本城は市の中央にありて、堅固なること九州第一と稱せられしが、西南の役に、久しく包圍攻撃を受け、城樓兵火にかかれり、現時、第六師團の司令部あり、朝鮮飴木綿、刻煙草は市の名産なり。市の西岸なる百貫石港は、長崎に渡る要津なれども、水淺く、大船を容れず。熊本より東に、白川の河源を探れば阿蘇山に到る、此の山は有名なる活火山にして、山麓處々に温泉あり。●熊本より鐵道は、北に植木・田原阪等の戰趾地附近を

（一）菊池神
社ありて、菊
池武時を祀
る

過ぎ、菊池川を渡りて福岡縣に入り、南は宇土半島の頸部を経て、八代に到る。菊池川上流の山鹿・隈府は共に北部の名邑なり。八代は球磨川の右岸に立ち、市街賑やかに、八代焼セメント等の産あり。是より



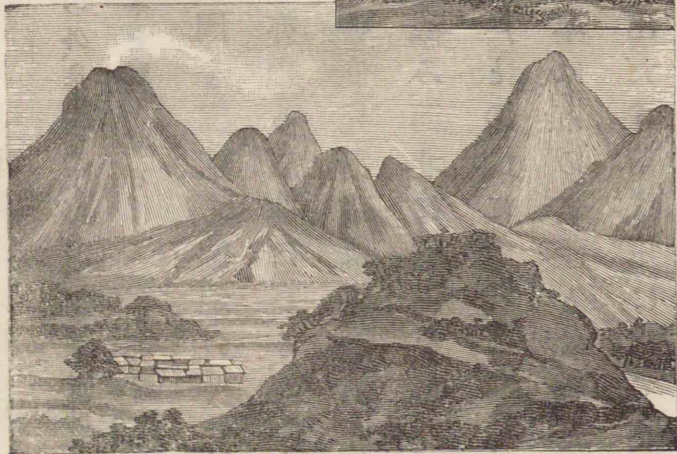
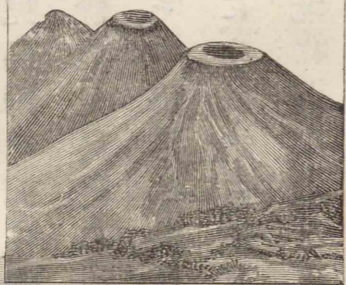
阿蘇山の噴火口

日本三急流の一なる、球磨川を遡れば人吉あり、猶北に球磨川の支流を遡れば、山谷深き處に、平氏遺族の住所なりと傳ふる五家の莊の僻郷あり。三角港は宇土半島の西端に位せる開港場にして、多く米を輸出す。その西南海上に天草群島あり。

縣下の物産は米粟、煙草、甘蔗、甘藷等の農産物甚だ多く、殊に粟の産額は帝國第一に位し、天草島には無煙炭の産あり。

宮崎縣 日向の全部を支配す。●國の地勢は東方一帶海に面すれども、海岸の屈曲甚だ少なく、南西北の三方は、全く山に包まれ、餘脈國中に起伏して、水陸交通の便を缺くが故に、人口甚だ少なく、縣廳所在地の宮崎町の如きは、大淀川に跨り、海岸に近き好地位を占むれども、もと、原野なりしを漸次

開拓して、現時の市況をなしし者なるが故に、人口一萬に充たず。その他、**飢肥**、**都城**、**佐土原**、**高鍋**、**美々津**、**延岡**等の名邑あれども、繁華は宮崎町に髣髴し、僅かに**細島**、**油津**の諸港は、大阪・神戸へ汽船の航行あるのみ、されど、縣下は皇祖發祥の靈地にして、**五箇瀬川**上流の**高千穂村**には、太古天孫の降臨し給ひし遺跡あり。都城附近の**宮丸村**には、高千穂の宮趾あり。霧



高千穂の峯

島山東嶽の高千穂峰には、絶頂に天逆矛等ありて、今猶神皇の武徳を表はせり。

縣下の物産は日向炭材木紙樟腦椎茸等の外、良馬を出だし、都城は近時茶業大に發達して、玉露煎茶を首とし、殊に紅茶を製出するに至れり。

(一)島津氏
七十七萬石
の舊城下
(二)西郷隆
盛、戦死の
地、近傍の
淨光、明寺に
桐野、原等
の墓あり
(三)河北に
秀吉、西征の

鹿兒島縣 薩摩、および大隅の二國を支配す。●地の大勢は山岳錯雜して、平地に乏しく、海岸亦頗る屈曲に富み、薩摩大隅は南に相抱き、鹿兒島灣を擁す。●鹿兒島市は縣廳所在の地にして、人口五萬餘、鹿兒島灣に臨み、西北に城山を負ひ、南西は甲突川に枕む、その海港は、神戸との間に定期の航行あるを以て、市況盛んに、生絲、飛白、煙草は市の名産とす。鹿兒島より熊本街道は、西北に薩摩焼を出だす、苗代川に出で、北に芹ヶ野の金山より川内川を渡り、阿久根を過ぎて肥後に入

時、本營を
置き、及び可
愛、山陵あり

(一)官幣大
社あり
(二)山笠に
官幣大社霧
島神社あり
(三)高屋山
陵あり

る。阿久根の西南海上に甌島あり。錫山を以て名高き谿山は、市の南の谿山驛の近傍にあり、附近の福元には、陸軍省所屬の軍馬育成所ありて、良馬を出だすこと、年に五十頭に下らず。谿山より海岸を南に、薩摩富士と稱せらるる開聞嶽を望みて進めば、楫宿山川の二港あり、是より西に廻れば、枕崎坊津の諸港あり、近傍の鹿籠は金鑛を以て殊に著はる。坊津は古へより琉球へ渡航する要津にして、南に硫黄島、竹島、黒島等の諸島を望む。●鹿兒島より日向街道は、灣北を東に廻り、加治木、濱の市、國分、福山を過ぎて都城に出づ。國分は、所謂國府、煙草本場の地なり。加治木より北に霧島山を東に見て、溝邊、横川を過ぐれば、人吉街道なり。横川の近傍には、山ヶ野の金山あり。●大隅の南は薩隅諸島にして、大隅海峽を距てて

(一)硫黄、竹、黒の三島を合せ川邊の十島と云ふ

(二)薩摩灣沖の小島に我がありと親に告げし潮風八重の詠處なり

種子・屋久の二島あり。その西に、口、永良部島あり。就中、種子島は天文年間、葡人の始めて鐵砲を傳へし地なるによりて、殊に世人に知らる。是より西南には、口島、中島、臥蛇島、平島、諏訪瀨島、悪石島、寶島等の順次散在せるを寶七島とし、その海上を七島灘と云ひ、航行甚だ危険なる所とす。寶七島の南は、所謂、大島群島にして、大島、喜界島、徳島、沖、永良部島、興論島等、相連なりて琉球諸島に至る。就中、大島最も大にして、周圍七十三里あり、その東北の名瀨港は、琉球に渡る要港に當り、島司廳所在の地たり。西郷隆盛は、三たび此の島に流されたるに、より、大島三左衛門と稱せしことありき。喜界島は平康頼、僧俊寛等が、平清盛を討たんとして流されし處たり。これ等の諸島は生産物少なけれども、蘇鐵、竹、杪、檣等を出だし、大島群

島は殊に砂糖・紬・疊表等あり。

縣下の物産は金・銀・錫の諸礦物、硫黄、煙草、寶七島の疊表、櫻島の大根、薩隅諸島の砂糖、甘藷等の外、薩摩節、薩摩上布、薩摩飛白等の諸織物、陶器、馬等は殊に世に有名なり。

(二)北日本

北日本は本州の東北に位する一大島及びその東北の群島より成れる北海道全體を含み、その一大島を渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室の十國に分ち、群島を千島とす。皆北海道廳の支配に屬すれども、千島は氣候寒く、また、住民今なほ稀少にして、他の諸國と状態を異にせる所あるにより、便宜上、北日本を(イ)北州區、(ロ)千島區の二區に分か

つ。 (イ) 北州區

現時、大和民族は北州區の各地に移住し、市街を建て、山林を開き、田野を耕やして、その主要の地は、中日本と異なる所なけれども、往時は蝦夷と稱し、蝦夷人即ちアイヌと名づくる土人の棲息せる本土たり。此の土人は男女皆全身に毛多く、頭髮を被り、大抵跳足を常とし、被服は皆左衽にして、木皮を織りて作れるアッシを着し、女子は嫁すれば、一般に文身を施し、男子は外に出づれば小刀を帶ぶる風あり。その住み家は、丸木を掘り立てて柱とし、横木を渡して、繩、藤、蔓などにて、結ひ付け、茅、木の皮等を葺きて屋根とし、四側は壁なくて、又唯茅、蘆などにて圍む、内は土間にて、入口の奥に爐を切り、周圍に筵を敷けるのみにて、甚だ單純なる様は、我れ等の住居と頗る異なり。多くは漁獵射獵を以て生活を營めども、開けたるものは、移住民と雜居して、諸種の業務に従

事す、性質は強健朴直にして、禮義を重んずれども、蒙昧にして、文字を解せず、言語も山をヌプリ、島をモシリ、村をコタン、溪をナイ、日本人をシサム、又はシヤモと唱ふる等、我が國語と著しく異なり。

地勢は樺太山脈、北は宗谷岬より、南は襟裳岬にかけて、南北に縦斷し、千島火山脈、東より來りてこれに會せるを以て、大部に山岳連亘すれども、石狩川、天鹽川、十勝川の流域は、廣き原野をなし、地味肥え、能く耕作に適す。



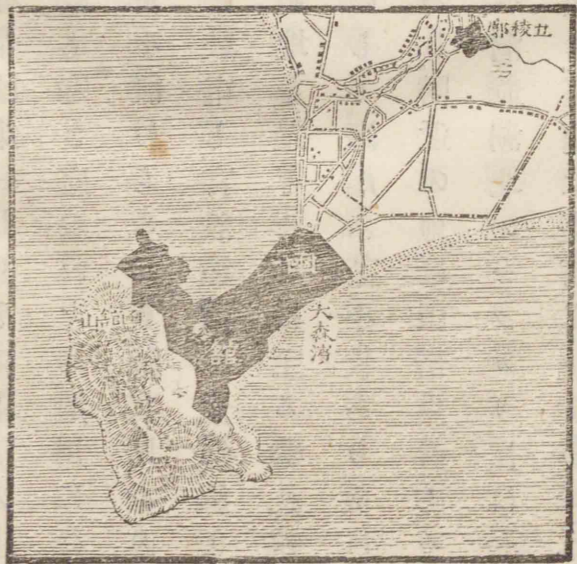
アイヌ人

●札幌區は道廳所在の地にして、石狩の西南、豊平川に跨り、人口僅かに五萬に充たざれども、北海道炭鑛鐵道會社、麥酒會社、製麻會社などありて、人家よく稠密せり、四近の交通をいへば、炭鑛鐵道は西に小樽港、南に室蘭港、東北に空知、郁春別、幌內、歌志内、夕張等の諸炭田に達する、所謂四通八達の要區に當り、市況盛んなり、有名なる札幌農學校も此ここにあり、此の地の兵備には、現時、歩兵第二十五聯隊第一大隊と、外に、野戰砲兵第七聯隊第二大隊、工兵第七大隊第一中隊との設けあり、小樽は人口六萬、本島西部の重要な開港場にして、札幌の西北に位し、船舶の出入夥しく、百貨常に輻輳す、札幌の東北は即ち石狩平野にして、全部石狩川の流域に屬す、此の川は長さ百七十里、幅廣き處三百餘間、深さ六七尋ありて、

（一）秋の彼岸より十月中旬までを漁期とす

水勢緩く、舟行の便に富み、實に帝國第一の大河にして、河口は、鮭漁の盛んなること亦帝國第一たり、その上流の上川地方は、土地高く、帝國中の最も寒き處なれども、旭川には第七師團司令部あり、また、離宮を設けらるべき豫定地たり、現時、屯田歩兵第三大隊此ここに駐屯し、官設鐵道は炭鑛線より連絡して、旭川、永山等の開墾地を過ぎここに至る、●札幌より東南に出づれば、膽振國にして、海岸に苫小牧あり、更に海岸を西南に行けば、室蘭港あり、附近の地は山巒重疊し、その間に支笏洞爺の諸湖を湛へ、洞爺湖北のマクカリ岳は一に蝦夷富士と稱し、風景殊に佳し、室蘭は麥、石炭、硫黃、麥粉、木炭、セメント、硫酸、滿俺礦、晒粉、木材、板、竹材に限りて、輸出を許されたる特別開港場にして、内浦灣の灣口に位し、繪鞆岬海中に

突出して風浪を防ぎ、港内は水深く、舟舶に適するを以て、第五海軍鎮守府の豫定地たり。室蘭の對岸は渡島國にして、その森港は、南に農事試験場のある七飯を経て函館街道筋に當る。函館港は北海道支廳の所在地にして、人口八萬許、津輕海峽の口を扼し、本島の咽喉に當るに、より、要塞砲兵の設けあり、その海港は開港場にして、港内水深く、且つ箱館山、南に聳えて、風波を避くるにより、船舶絶えず出入す、本港の貿



函館及その附近

(一)春の彼
岸より七十
五日間を漁
期とす

易は、現時は、僅かに海産物、硫黄、石炭等の輸出に過ぎざれども、他日、西伯利亞鐵道の全通するに至らば、普ねく世界の大市場たるに至らむ。區の東北なる五稜郭は、往時、函館奉行の經營せし所に係り、その砲臺は形ち五稜形をなし、維新の史上に名高し、函館氷は此この製出とす。函館より海岸を西に廻れば、福山、江差の諸港あり。福山は往時の松前にして、全島の首府たりしが、今は、鯨の漁場となれり。●苦小牧より海岸を東南に、新冠の高原を左に見、浦河、幌泉を過ぐれば、襟裳岬に出づ。此の地方は日高國にして、十勝と腹背に縦貫山脈を受け、地大體に高けれども、土肥え、殊に新冠は牧養に適し、駿馬の産出を以て知らる。されど、沿岸は屈曲少なくて、舟を寄するに適する處なし。沙流には義經の祠あり、傳へいふ、義

經高館タカノより逃れて此こに來れりと。襟裳岬は古への所謂、口
 蝦夷・奥蝦夷の分界線にして、奥蝦夷の十勝は、日高と共に、河
 流の沿岸にアイヌ種族の部落甚だ多し、十勝も亦、土地高燥
 にして、原野の大部は、未だ全く開墾せられざれども、能く牧
 養に適し、十勝川の河口には、大津・十勝の名邑あり、俗に十勝
 石と稱する黒曜石は國の名産なり。是より東は、釧路國にし
 て、海岸に釧路・厚岸アサシの諸港あり。厚岸港の東北に、厚岸灣につ
 づきて、周回七里餘の牡蠣島の湖あり、牡蠣を産すること夥
 しく、その罐詰は、北海道の重要産物として、世に知らる。釧路
 の北部は、山岳處々に起伏し、その間に釧路・阿寒アカンの諸湖を挾
 む。釧路湖南の硫黃岳アサキは、帝國中、硫黃の産額最も多きが故に、
 鐵道は南に標茶シベツチに通じ、釧路港は硫黃輸出の要港として、今

(一)探藻期
 は七月の末
 より九月の末
 までとす

は開港場となれり。根室國は本島の極東に位し、その根室港
 は、前に辨天島を横たへ、船舶の碇泊に適せると、千島諸島に
 渡る要津たることにより、市況盛んなれども、冬期氷結の憂を
 免れず、現時、屯田歩兵第四大隊ここに駐屯す。根室港より風
 蓮湖畔フジノを經、北に知床半島の頸部を過ぐれば、北見國にして、
 網走・紋別・宗谷・稚内ワカナイは、共に沿海の名邑なれども、海岸は屈曲
 に乏しく、且つ氣候の寒きと、交通の不便なることにより、地一
 體に肥沃なるに拘はらず、人家未だ稠密ならず、就中、宗谷は
 本島の北端にして、樺太島のノトロ岬と相對す。稚内より禮
 文・利尻の諸島を右に見、海岸を南に向へば、天鹽國にして、沿
 海より夥しく、昆布コンブを産するにより、天鹽昆布は、今は、普通
 上等昆布の汎稱となれり。天鹽川の河口に天鹽港あり、更に

南にトマ・アハ・ル・モ・シ・ゲ 苫前・留萌・増毛の諸港あり、就中、増毛は小樽との交通盛んなり。

本島は氣候一般に寒く、大抵九月下旬に霜を見、十月中旬に雪の降るを常とす、されば住民今猶少く、地未だ十分に開墾せられざるが故に、肥沃の平野處々に存在し、森林亦鬱蒼として、許多の良材を藏むるに拘はらず、産業未だ發達の域に向はず、されど牧養漁業は甚だ盛んにして、帝國富源の要部を占め、鑛物も亦石炭・硫黄は採掘殊に多量なり、之に亞げるは農産物にして、茶・米等は中日本の輸入を仰げども、麥・甘菜・林檎・麻・葡萄等は産額多く、中日本に輸出すること夥し。

(ロ) 千島區

千島區は根室の東北より、露領西伯利亞のカムチャツカ半島の

間に散在せる、國後クナ・シ・リ 島・色丹シヨクタン・エ・ト・ロフ 擇捉島・得撫ウルツフ・シ・ニ・シ 新知島・捨子シヤシ・コ・ク・タ・シ 古丹島・恩禰オンネ・コ・ク・タ・シ 古丹島・幌筵ハラムシ・シ・ユ・ム・シ 占守島など、大小三十餘の千島群島を含む、此の群島の内、得撫以北は、もと、露西亞の所領なりしが、明治八年に、樺太島と交換せし者とす、全面積は、殆ど北州區の五分の一にひとしけれども、人口は帝國中最も稀少にして、その割合、北州區の百九十分の一に相當し、一方里の平均人口、僅かに五人に充たず。

住民は大抵漁業を事とし、その種族は内地人・アイヌ人の外、僅かにアリユートといふ土人あり、此の土人の風俗は西洋人に倣ひ、粗製の麵麩及び魚肉を常食とすれども、家屋は地下五六尺の深さに穴を掘り、流木を以て支柱となし、草を葺き、その上に土を置きて家となす、言語も亦、全く我が國語と異にして、往々露西亞語を使ふものあれども、一般に文字を解せず。

地勢は各島大抵、千島火山脈の出沒せるによりて、平原は甚

(一)米船タ
スカロラ號

だ乏しく、地味も不毛にして、耕作に適する處少なし。●群島の西南端にあるは國後島にして、根室海峽を距てて根室に對す、國後の東北にあるを擇捉島とし、東南にあるを色丹島とす。此の三島は地勢山地多くして、耕作に堪ふる處少なければども、トド松・エゾ松・ハイ松等の森林は、山腹の谿谷を埋め、家材燃料等に不足を感ずることなし。擇捉島の紗那・蕊取・色丹島の斜古丹・國後島の泊港は、共に良港にして、紗那には北海道廳の支廳あり。擇捉島の東北に連なれる得撫島・新知島・捨子古丹島・恩禰古丹島・幌筵島・占守島等は、殆ど無人の有様なり。就中占守島は我が國の極東にして、千島海峽を距ててカムナカ半島のロバッカ岬に對す。諸島の東南なる、大平洋の海底は所謂、タスカロラ海床にして、世界の最深處と稱せら

の發見にち
なみて名づ

れ、深さ四千尋より五千尋に至る、諸島の地勢は、大概火山質の山岳に富み、多少の硫黄を産する外、樹に喬木とはなく、地に耕作すべき處少なく、又、海岸は屈曲して灣水深ければ、港口淺く、暗礁ありて船舶の出入に便ならず、獨り占守島は全島火山なく、地平らかに、沼澤多く、能く耕作に適す、されど、氣候は英國の倫敦と、殆ど緯度を同じうせるに拘はらず、一年の内、一二ヶ月を除けば、大抵雪を降らす、現時、郡司大尉の報効義會員此に移住して、専ら開墾漁獵に従事す。アライト島は幌筵島の北に位し、我が國の最北端たり。

物産は鮭・鱒・紅鱒・鱈・昆布等を主とし、外に海豹・臘虎・膾肭獸・鯨等の海獸も少なからずして、北州區と共に、沿海は世界の三大漁場と稱せらる、その他、陸には狐・熊・貂等あり。

(三) 南日本

南日本は薩隅諸島の西南より、沖繩群島・宮古群島・八重山群島を経て、臺灣及び澎湖列島に至る諸島を總稱す。之を畿道の制に較ぶれば、沖繩・宮古・八重山の諸群島は、所謂琉球にして、西海道の一部に屬し、臺灣・澎湖列島は、明治二十七八年の戰役により、新に清國より收めたる土地にして、琉球とは全く施政の方針を異にせるを以て、便宜上、南日本を(イ)琉球區、(ロ)臺灣區の二區とす。

(イ) 琉球區

琉球區は大島群島の西南より、臺灣の間に散在せる、沖繩群

島・慶良間群島・宮古群島・八重山群島など大小五十有餘の島嶼を含み、宮古・八重山の二群島を、又先島群島と稱す、全部沖繩縣の管轄に屬し、本島を沖繩島と云ひ、その島内を國頭・中頭・島尻の三部に分ち、その下に間切と稱するあまたの區別あり。●地勢は大部は丘陵起伏すれども、地高千四五百尺に達せず。地味は肥瘠相半ばすれども、水利の不便なるによりて、穀類の生育に適せざるが故に、住民は甘藷を常食とし、飢饉に迫れば蘇鐵の幹を食ふ。氣候は年中溫暖にして、寒さを感じず、殊に夏期は、地熱帯に近きに拘はらず、海氣常に涼風を送りて、盛夏も凌ぎ難からず、されど、颶風時に襲ひ來るを以て、到る處、家屋の構造は低き平屋にして、周圍に石垣を繞らせり。

されど、本港は沖繩縣下の要港なるを以て、大阪・神戸より鹿兒島を経て、毎月數回、汽船の往復あり、支那との交通も亦行はる、大阪より航程九百海里餘ありて、六日を費やす、この東の首里は舊藩王尙氏の居城地たりし處にして、今に、王都の古風を存し、士族大家の邸宅多く、人口殆ど三



首里の王城

（一）鐘西八
那為朝伊
豆より逃れ
來りし處と
稱し今にそ
の弓矢鏢等
を傳ふ

萬許あり、國頭の運天港は、沖繩群島第一の良港たり。されど、群島の沿岸は、珊瑚の縁礁よりなれるにより、大抵船舶の碇泊に便ならず、那覇の北なる、安里の近傍に崇元寺の巨刹あり、舊藩王累代の廟所なり。●沖繩群島の西にあるは、慶良間群島にして、西南にあるを宮古群島・八重山群島とす、就中、宮古群島の主島を宮古島・永良部島等とし、八重山群島の主島を石垣島・入表島等とす。入表島の西なる與那國島及び南なる波照間島は共に八重山群島に屬し、臺灣の我が版圖に入りし以前は、帝國の西端及び南端たりしが故に知らる、與那國島より臺灣までは、海上僅かに二十里を距つるのみ。縣下の物産は砂糖・甘藷泡盛の外琉球飛白細上布芭蕉布等の諸織物豊表琉球塗の名亦世に高し。

(口) 臺灣區

臺灣區は與那國島の西方に横たはる、臺灣島及び附近の澎湖列島・火燒島・紅頭嶼等の諸島を含む、就中、臺灣島は南北百餘里・東西廣き處三十里許ありて、面積は殆ど九州と伯仲す、此の島は我が國人が、古代に高砂タカサワと呼びし處にして、西洋人はこれをフォルモサと云ふ。本區は縣治上、臺北ホウキ・臺中ヂョウキ・臺南の三縣・宜蘭イラン・臺東タイト・澎湖の三廳に分かつ。

住民は内地人のほか、支那人と蕃人との區別あり、そのうち、支那人最も多數を占む。蕃人中には熟蕃生蕃の別あり。熟蕃は支那人と雜居し、言語風俗は粗彼等と同じけれども、生蕃は東部の深山幽谷の平地に棲息し、文字なく、曆日なく、服装は脚絆腰巻及び水牛皮にて作れる長衣を着け、男女共に刺墨を



生蕃人

施し、家屋は丘側に穴を穿ちて、そのうちに穴居し、或は樹木を以て支柱とし、樹皮竹藁を以て、その屋根を葺く、性殺伐にして、出入には必ず刀槍を携へ、山野に獵し、獸肉・芋等を食し、各自蕃社を設け、社には會長及び副會長あり。

臺北府は總督府

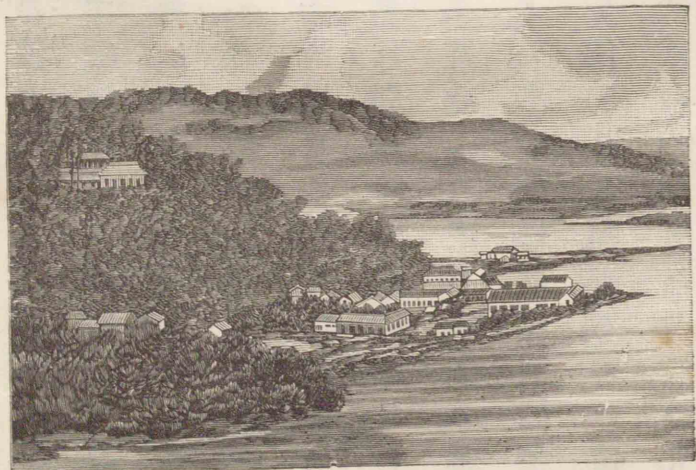
及び臺北縣廳所在の地にして、四方に山岳を繞らし、新店溪その傍を流る、府内は市街繁華にして、南に大稻埕を擁し、北に艋舺を控ふ、就中、大稻埕は舊來の埠頭にして、新店溪と大姑陷河との會流點に位し、製茶の業盛んに、烏龍茶の輸出は、主に此の地よりす、臺北の北、淡水河口の淡水港は、又滬尾と云ひ、開港場にして、茶、石炭、樟腦、砂金等を輸出すれども、港口に砂洲あるが故に、滿潮を俟つにあらざれば、大船の進退自由ならず、臺北より鐵道は、東北に基隆、西南に新竹まで通ぜり、基隆も、開港場にして、水稍深く、巨船を容るべき唯一の良泊なれども、港内狭きが上に、東北風を防ぐに由なきと、潮流の急なるとの不利あり、現時石炭の輸出を主とす、新竹はもと、竹塹といひ、平野に立ち、市街の近傍は田圃開け、農産物頗

る多し、附近の舊港は開港場たり、苗栗は新竹の南なる山中にありて、樟腦の製出甚だ盛んなり、此の地は生蕃に接近せるを以て、守備隊を置き、要害に備ふ、苗栗より後壠溪を下れば、溪口の後壠もまた開港場なり、●臺中府は、臺中縣廳の所在地にして、苗栗の南に位し、市街は規模の廣大なるに拘はらず、住民未だ多からず、府の東南、山中の溪間なる埔里社には、支那人及び熟蕃の村落あり、彰化は臺中の西にあり、その西の海岸にある鹿港は北の梧棲と共に、開港場なり、中につきて、鹿港は支那に渡る最近の要津なるを以て、西部商業の中心に當り、貨物の集散盛んに、支那船常に入出す、臺中より南に、北斗を過ぐれば、嘉義あり、その西北數里に北港あり、これより北港溪を下れば、溪口一帶の地方を下湖口と稱し、開

港場たり、嘉義の東北なる雲林は樟腦の集散地を以て名高し。嘉義の西海岸なる東石港も、また開港場たり。嘉義の東十二三里の處に烏帽子形に聳ゆるは新高山にして、海面高高一萬三千尺を抜き、大抵十一月中旬より雪ふり、二月下旬に至りて消ゆ、實に我が國第一の高山なれども、山容の靈秀なるは、富士山に較ぶべくもあらず、嘉義より遙か南の臺南は、もと、臺灣府と稱し、鄭氏の都を定めし以來、久しく本島の首府たりし處とて、今も猶、臺南縣廳を置き、南部商業の中心に當れり、安平港は府の西北にある開港場にして、砂糖、樟腦の輸出夥し、されど、船舶の碇泊は、海岸を去ること、一里許の外にありて、貨物の揚げ卸しには、カタマランと稱する竹筏を用ゐる不便あり。臺南の南なる鳳山は蕃地に入る街道筋に

（一）宮古島に漂はるる人殺したるに

當る、鳳山より西の海岸なる打狗港もまた開港場にして、砂糖を輸出し、安平と共に、南部の良泊たりしが、港底次第に淺くなるがために、商況日に衰ふるが如し、されど、下淡水溪口の東港は、水利に宜しきにより、米穀、砂糖等の輸出盛んに、今は、開港場たり。東港の東南に恒春あり、本島極南の都邑にして、人文未だ開けず、恒春の東北は、所謂、牡丹蕃社にして、明治七年に、征臺の事ありしを以て、我が國人に知られ、蕃社の酋長は、今に首



打 狗 港

棚を設けて人首を所持するものあり、また蕃人の帶ぶる刀には、鞘室に人頭を彫刻し、首級を獲れば、獲るだけその數を加へ、數の夥しきを以て名譽とす。●恒春の東南端なる南岬は、實に帝國の最南端にして、近海は暗礁多く、海流亦急く、且つ暴風屢起るを以て、岬頭に燈臺あり。是より東の紅頭嶼は、臺灣島を距つること、僅かに四十海里なれども、住民は他種族との交通なきを以て、太平無事に別世界の生活をなし、千二三百の土人は、皆純然たる馬來種族より成り、八個の蕃社に分かれ、概ね裸體を以て常とし、外出の際には、籐製椰子製の帽子を被り、服装は苧麻管にて作りたる胴衣を著け、短刀を右肩より左脇の下に掛け、又儀式の時は、風呂敷様のものを掛くるなど、一種の奇風をなせり。臺灣島の東部一帯は、所

謂、生蕃地方にして、卑南に臺東廳あり、宜蘭には宜蘭廳あり、宜蘭の南なる蘇澳は、東岸唯一の良港なれども、交通不便なるを以て、人口猶稀少なり。●澎湖列島は澎湖島・漁翁島・白砂島及びその附近の諸島より成り、面積壹岐國に等しく、澎湖廳を置きて全島を治む、島内概ね平坦にして、海拔三百尺を出づる處なく、地に喬木なし、されど、三島相抱きて内海をなし、その南灣の媽宮港は、實に列島中の良港にして、大船の碇泊甚だ自在なるにより、今は、開港場となり、澎湖廳所在の地たり。漁翁島の西南海上なる花嶼は、帝國の西端たり。

臺灣の物産は、農産物甚だ夥しく、殊に茶砂糖は、本島の一大富源にして、茶は北部地方に産し、製糖は南部の西岸地方に行はる、又樟腦の産額は世界第一に位し、大姑陷地方に巨大の樟樹あり、その他、米、甘藷は年内二三回の收穫あり

り、鑛物も石炭・石油・硫黄・砂金等を産し、殊に砂金石炭は採掘最も有望なり。

第三章 政治

政體 帝國の政體は、東洋唯一の立憲君主政體にして、萬世一系の 天皇は、國の統治權を總攬し給ひ、明治二十二年二月十一日、憲法を發布し給ひしより、國家の機關益完備し、行政の事務は國務大臣輔弼の任に當り、立法は帝國議會の協贊を須ちて成り、司法權は 天皇陛下の名に於て、裁判所これを 行ふ。

立法部 立法部は帝國議會と稱し、分ちて貴族院・衆議院とす。貴族院は皇族・華族及び國家に功勞あり、又は學識ある

勅選議員、并に多額納稅者が互選したる議員より成り、衆議院は、各府縣に於て、公選せられたる議員より成る。

行政部 行政部は内閣及び内務・外務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・遞信の九省より成り、内閣には總理大臣を首班に置き、各國務大臣と共に國事を料理し、國務大臣は又各省專務の長官となりて庶政を處分す。その他、帝室の事を承くる宮内省ありて、その長官に宮内大臣を置く。又元老に國務を諮詢し給ふ所の樞密院及び會計検査院等あり。

地方の行政は、淳和天皇の御代に、全國を通じて一畿七道六十六國二島となし、爾後、明治維新の際に至るまで、大抵此の區劃に據りて政務を調理せしが、明治元年、奥羽を分ちて七國とし、同じ二年に、蝦夷を北海道と改め、今は、全國を一廳三府四十三縣に分ち、道廳には長官府縣には知事を置き、更に道

廳・府縣を小分して、郡・區・市・町・村若しくは島廳とし、みなその長を置き、島廳には島司を置く、されど、臺灣は我が版圖に歸せしより、日猶淺きを以て、特に總督府を置き、天皇陛下の親任あらせられたる臺灣總督ありて、大權の一部を行ひ、その下に三縣三廳を設け、その長官を知事又は廳長とし、又辨務署、撫墾署等ありて、地方の政務を分かち行ふ。

司法部 司法部は區裁判所・地方裁判所・控訴院・大審院の四等より成る。その組織は、區裁判所の判決に對する控訴は、地方裁判所これを審判し、地方裁判所の控訴は、控訴院に於てし、控訴院の判決に對する上告は、大審院これを判定す。その内、大審院は最高の法衙にして、ここにてなせる判決は終審なるが故に、東京に一箇所を限れども、控訴院は全國に七箇所、地方裁判所は各府縣に一箇所を置き、區裁判所はその數

最も多く、全國に三百有餘あり。その他、行政裁判所は行政官廳の違法處分に關する訴訟を判決し、臺灣には特別の法院を設く。

兵備 封建時代の軍備は、武士と稱し、今の所謂、士族の専ら任ずる所なりしが、維新後に至り、全國皆兵の制を定められしより、帝國の軍隊は、大元帥陛下親らこれを統率し給ひて、苟も臣民の男子たるものは、滿十七歳より四十歳に至るまで、悉く兵役に服する義務を有することとなれり。兵役は適齡の壯丁を檢查し、陸軍は徵兵令の定むる所によりて徵集し、海軍は沿岸及び島嶼の地より之を採用し、分かちて、常備兵役後備兵役補充兵役國民兵役とす。常備兵役は現役及び豫備役とし、陸軍は現役三年、豫備役四年、四箇月、海

軍は現役四年、豫備役三年を経て後備兵役に服し、更に各五年を経て國民兵役に入る、補充兵役は、陸軍にては第一補充兵役は七年四箇月、第二補充兵役は一年四箇月、海軍にては、一年を経て國民兵役に入る、又常備兵役、後備兵役に服せざる十七歳より四十歳までの男子は總て國民兵役に服す。陸軍の兵種はその任務によりて、歩兵・騎兵・砲兵・工兵・輜重兵の五種に分ち、外に憲兵及び軍樂隊などあり、その編制は、全國を三都督部とし、之を十二師管に分ち、その下に師團を置き、更に旅團聯隊等に小分す、その他、専ら皇室の警衛に任ずる近衛師團及び邊境の島地を警戒する警備隊あり、臺灣は目下各師團交代を以て、三個の混成旅團を駐屯せしめ、別に護郷兵の設けあり。

都督部												師		團		旅		團				
都督部												號		司令部所在地		番		號		司令部所在地		
東部 都督司令部 (在東京)												近衛	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												一	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												二	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												三	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												四	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												五	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												六	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												七	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												八	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												九	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
東部 都督司令部 (在東京)												十	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
中部 都督司令部 (在東京)												十一	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
中部 都督司令部 (在東京)												十二	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												十三	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												十四	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												十五	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												十六	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												十七	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												十八	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												十九	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十一	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十二	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十三	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十四	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十五	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十六	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十七	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十八	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												二十九	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東
西部 都督司令部 (在東京)												三十	東	東	第	第	東	東	東	東	東	東

陸軍には出師・國防・作戰の計畫を司とる參謀本部、及び陸軍

全般教育の齊一進歩を規畫する教育總監部あり、現時軍人の現役に服する者凡そ十五萬、これに豫備・後備のものを合すれば、三十萬以上あり、軍人を養成する學校には、陸軍大學校・砲工學校・士官學校・中央及び地方幼年學校・戸山學校・軍醫學校・經理學校等あり。

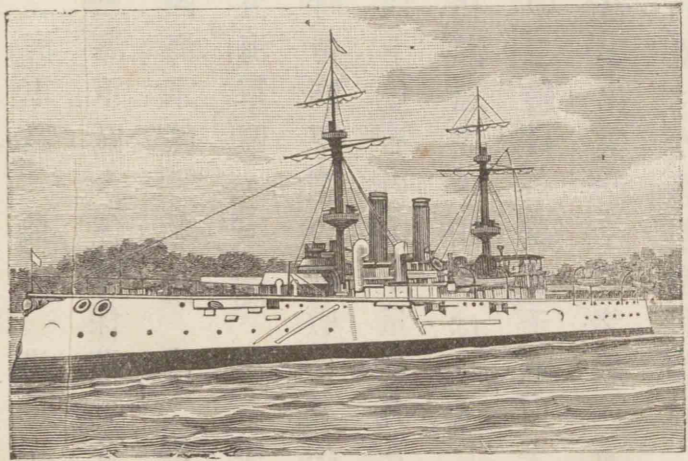
海軍は帝國の海岸及び海面を分かちて五海軍區とし、各海軍區には軍港を置き、鎮守府を設け、軍艦をこれに附屬せしめ、出師の準備軍港及び要港の防禦管轄海の警備、并に軍艦の製造・修理・兵員の徵募訓練を司とらしめ、又別に常備艦隊を組織して、環海を巡衛す、海軍區及び鎮守府の區分は左の如し。

海軍區 軍港 所 管 海岸延長里程

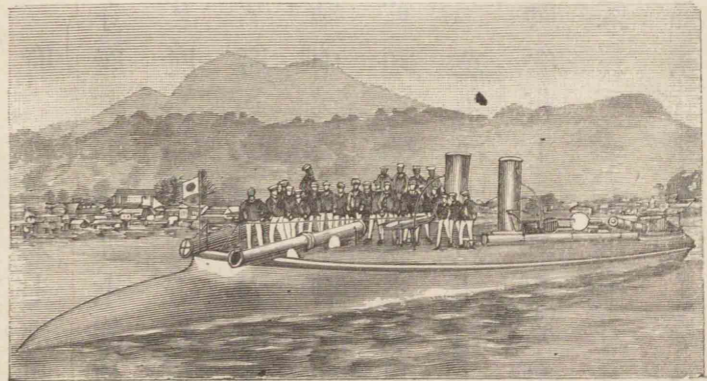
第一海軍區	橫須賀港	橫須賀鎮守府	一〇五七海里
第二海軍區	吳港	吳鎮守府	二〇六七海里
第三海軍區	佐世保港	佐世保鎮守府	一四九七海里
第四海軍區	舞鶴港	舞鶴鎮守府	一〇五五海里
第五海軍區	室蘭港	室蘭鎮守府	二二七六海里

現時、帝國軍艦の總數は、製造又は艤裝中のものを合せて殆ど六十隻、その排水量は凡そ二十六萬噸に達す、就中、敷島・朝日・初瀬・三笠の四艦は、ともに排水量一萬五千噸以上、富士・八島の二艦は、一萬二千噸以上の一等戰艦にして、淺間・常磐・八雲・吾妻・出雲・磐手の諸艦これに亞ぎ、みな九千噸以上なり、水雷船艇は水雷艇・驅逐艇・水雷艇の種別ありて、これまでは、水雷艇のみにて、總て二十八艘、その排水量凡そ二千噸なりし

が、叢雲・東雲・雷電・夕霧・不知火・曙・漣・陽炎・薄雲・朧等の水雷艇驅



號士富艦軍國帝



號鷹小艇雷水

逐艇より、あらたに製造せる水雷艇を合すれば、排水量八千

餘噸に達す、水雷艇にては、小鷹號最も大なり。

海軍には出師・國防・作戰の計畫を司どり、并せて軍隊の教育・訓練を監督する海軍々令部、及び兵器を製造する海軍造兵廠等ありて、海軍々人は現役・豫備・後備を合せて、三萬餘あり、海軍々人を養成する學校には、海軍大學校・海軍兵學校・海軍機關學校等あり。

第四章 住民

種族及びその特質 帝國々民の最も多數を占むるものを大和種族とす、されど、北海の天地に驅逐せられて、纔かに餘命を保つアイヌ種族・琉球諸島に一團をなせる琉球種族。

及び臺灣の全部に住める臺灣種族も、亦均しく皆我が皇化に霑へるを以て、現今、法律上の所謂、日本臣民は四種族より成れり。

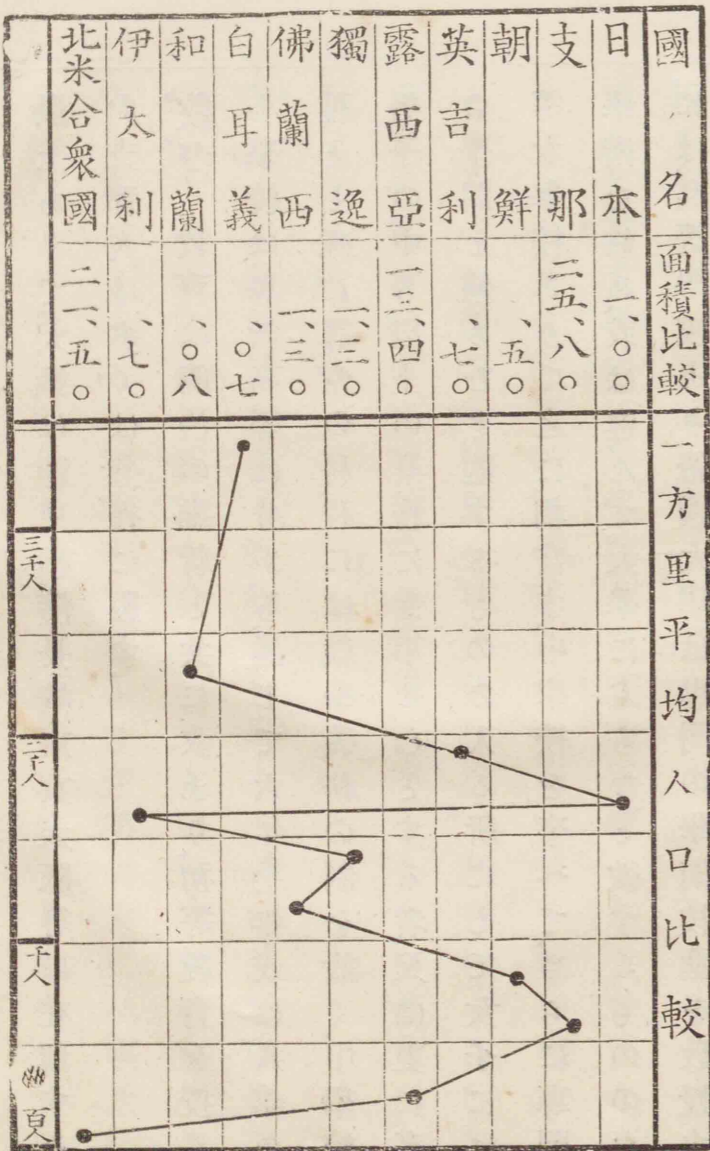
大和種族は歴代皇室の親愛し給ひし、臣民の子孫にして、由來忠勇義烈の精神に富み、節義を守り、廉耻を重んじ、敢爲にして武を尙び、兼ねて優美敦厚の風あり、アイヌ種族は上古本土に蔓延し、屢大和種族に抵抗を試みたることありしが、今は、北海道の一隅に屏息し、人口僅かに二萬に充たず、此の種族は、性一般に溫良篤實なれども、知識の發達甚だ遲鈍なり、琉球種族は大和種族及びアイヌ種族と、全く言語風俗等を異にせることは、人類學上の認むる所なれども、元來、何れより移住せしものなりしかは、未だ詳ならず、臺灣種族は、現時、人口凡そ二百七十萬、概ね支那人及び土人の二種族より成る、支那人は支那南部の福建廣東地方より移住せし者にして、福建地方よりの移民は、明朝の遺民に屬し、性溫良なれども、廣東地方よりのものは、頑固にして、文化を

悟らず、土人は馬來種に屬し、熟蕃生蕃の二種あり、熟蕃は大に支那人の感化を受けて、人情風俗言語等は殆ど彼等と大差なきのみならず、學校を建て、一定の業務に従事せる等は、却て下等の支那人に勝れり、生蕃は全く野蠻にして、人を殺し、首級を獲るの多きを名譽とし、とりわけ、いたく支那人を憎み、常にその首級を獲んことを望めり、我が臣民の彼の地に趣ける者の、亦彼等の毒手に仆れしも少なからず、されど、彼等は自ら耕し、自ら織り、各その分を守りて自活の道を立て、父子兄弟親戚の關係を重んじ、苟くも人たるの道に於ては、殆ど他の文明人の及ばざる美風あるのみならず、太陽を以て公平の神として崇拜する等、一種信仰の觀念を有せるを見れば、鹹首の嗜好は、彼等が先天の性情に出でし者にあらずして、人種競争の結果、止むを得ず、漸く現時の習慣を養成せしものに外ならず、されば、我が國が同島を占領せしより、懐柔の道、その宜しきに適ひしを以て、彼等は漸次歸服して、鹹首の風、亦稍薄らぎ來るに至れり。

人口 帝國々民を分かちて、華族・士族・平民の三階級とし、人

口合せて四千五百萬餘あり、その分布は各地に疎密の別ありて、東京府及びその附近、京都、大阪の二府、愛知、香川、熊本等の諸縣には頗る稠密に、千島、北海道、臺灣より、巖手、青森、秋田、宮崎の諸縣には稍稀少なれども、これを全國の面積に配當すれば、粗密の度、一方里の平均人口、凡そ千七百人に當れり。帝國の人口を以て、我が國人の最も能く知れる、海外諸國の人口に較ぶれば、一方里平均人口粗密の度は、白耳義和蘭、英吉利等を除けば、帝國人口の最も稠密なること、實に左表に示すが如し。

近來帝國々民の勞働、留學、又は遊歷のために、海外諸國に渡航するもの、漸くその數を増し、布哇、朝鮮、支那、北米合衆國、西伯利亞、南洋諸島より、英吉利、佛蘭西、獨逸等の諸國に在留せるもの、七萬以上に達す。又我が國に在留せる外國人は、支那



我が國と諸外國の人口比較

人・北米合衆國人・英吉利人など最も多く、その數一萬二千人以上ありて、大抵は神戸・横濱・長崎・東京・大阪等に在留す、その内、支那人は多くは勞役に服す。

教育 教育は明治の維新と共に改まり、初等教育を授くる小學校は、尋常・高等に分ち、通じて六年・七年・或は八年の三種とし、殊に尋常の科程には就學義務の制を設く。中學校は男子の中等以上の業務に従事せむとする者、又は更に、高等の學問を修めむと欲するものに入る所にして、女子には高等女學校ありて、之に相當す。中學校を卒へて、さらに専門の學術を修め、或は進んで、大學に入らむと欲するもののためには、高等學校あり。帝國大學は専門の學術技藝を教授する所にして、法・醫・工・文・理・農の六科に分ち、各分科の上に、大學

院を設けて、さらに深奥の學理を研究する所とす。また中學校を卒へ、更に實業に就く豫備をなさむとするもののため、高等商業學校・工業學校及び商船學校等あり、教員を養成せむがために、高等師範學校・女子高等師範學校・師範學校等あり、その他、商業學校・農學校・美術學校・工業學校・音樂學校・盲啞學校等各種の實業學校・専門學校等を合すれば、その數凡そ三萬に達す。

宗教 帝國に流布する宗教を分ちて、神道・佛教・基督教の三とす。神道はその教派を分ちて、大社教・黑住教・御嶽教等の十數派とし、外に、神宮奉齋會あり。伊勢神宮には、宇治の内宮、山田の外宮ありて、ともに國家の宗廟たり。國內の神社は、その社格を、官幣社・別格官幣社・國幣社・府縣社等に分ち、尾

（一）官幣大社にして能く北白川宮を祀る親王

張の熱田神宮・出雲の出雲大社・常陸の鹿島神宮・下總の香取神宮・奈良の春日神社・山城の賀茂別雷神社・賀茂御祖神社・男山八幡宮・紀伊の日前神宮・國懸神宮・京都の平安神宮・豊前の宇佐神宮・筑前の香椎宮・太宰府神社・讃岐の琴平神社・東京の靖國神社・攝津の湊川神社・河内の四條畷神社・大和の談山神社・臺灣の臺灣神社等を始め、その數五萬二千餘あり。佛教は欽明天皇の御代に、三韓より傳はり、時に一盛一衰ありたれども、國民の歸依最も厚く、その信徒全國に普ねし、宗派を分かちて、法相・華嚴・天台・眞言・融通念佛・淨土・臨濟・曹洞・眞宗・日蓮・時宗・黃蘗の十二宗とし、更に數十派に分かれ、京都の東・西・本願寺・知恩院・近江の延暦寺・京都の教王護國寺・甲斐の久遠寺・越前の永平寺・能登の總持寺・紀伊の金剛峯寺等の本山を始

めとし、寺數凡そ七萬二千あり。基督教は後奈良天皇の御代に初めて我が國に入り、一時多數の信徒を出だししを、徳川氏に至りてこれを嚴禁せしが、維新以後、政府は信教の自由を人民に與へしと共に、歐米の諸國より來りて、盛んに布教に従事す、されど、その勢力猶微弱にして、信徒は殆ど十萬に過ぎず、東京のニコライ會堂の如きは建築殊に宏壯なり。

第五章 生業

國民の生業は農を主とし、農民の數は實に帝國人口の三分の二以上を占む、これに亞ぐを林業・牧畜業・漁業・鑛業等とし、都邑の民は多く商工業に従事す。

農業 我が國は、往古より瑞穂國と稱し、歷朝の農業を獎勵し給ひしと、人民の耕作を勉めたる^事により、耕地は僅かに、全面積の一割七分なるに拘はらず、米穀は實に重要な産物に屬す、中に就きて、米は年額大凡五千萬石を産す、收穫の最も多きを新潟・兵庫・福岡・愛知・千葉・富山・熊本の諸縣とし、地の稲作に適せるは、尾張及び大阪附近の地を推し、質の佳良と稱せらるるは、肥後・米・越中・米等とす、また、臺灣は品質劣れども、年内二回の收穫ありて、産額五百萬石以上をいだし、麥は産額殆ど米の半ばにして、産出の多きは、埼玉縣を第一とし、茨城・兵庫・熊本・千葉・愛知の諸縣、その次に位し、地味の最も麥作に適せるは、武藏・尾張・讚岐とす、茶は氣候の寒きを厭ふが故に、九州の西部・山城・近江・伊勢・駿河・遠江の地に最も多し、

されど、芳香佳味なるは山城を第一とす、帝國にて茶の産額一年に大抵五千萬斤以上にして、過半は海外に輸出し、臺灣も多量の製茶を輸出す、蠶業は近來各地に甚だ盛んにして、本邦輸出品の首位を占む、蠶卵紙産出の多きは、長野・福島・群馬・滋賀の諸縣を主とし、繭及び蠶絲産出の夥しきも、亦長野・群馬・福島の諸縣を推す、その他、豆類は東京附近に、實綿は瀬戸内海の沿岸地方、及び大阪附近に、藍は吉野川の流域・尾張・遠江・筑後・肥後に、麻は九州の西南部・安藝・石見・越前等の山地に産す、煙草は全國到る處に産すれども、常陸・大隅・薩摩等より出づるもの最も名高し、砂糖は原料を甘蔗と甘菜とにとり、甘蔗よりするは臺灣に最も多く、一年の産額一億斤以上に達す、内地にては、香川縣の白下^{シロシタ}・赤砂糖・鹿兒島縣・沖繩縣の

黒砂糖共に名高く、近時、北海道も亦甘菜より多少の砂糖を製す。

林業 全土山岳に富み、雨量多きが上に、地味・氣候共に植物の生育に適するを以て、森林到る處に鬱生し、その面積原野を合せて、凡そ二千八百萬町歩に達す、就中、木曾・立山・霧島・天城の諸山を始め、紀伊・大和・伊勢・日向等の森林には、松・杉・扁柏・檜・樅等の良材、廣く幾十里に亙り、深山幽谷の地は、人跡の未だ到らざる處あるのみならず、樟腦・木蠟・漆・椎茸等の山林副産物に富み、殊に樟腦・漆は本邦の特産物として、その名外國に高く、樟腦の如きは、世界を通じて、その産額凡そ六百萬斤なるが、その二百萬斤は臺灣より出づ。

牧畜業 牧畜は風土のこれに適せざるにあらざれども、西

洋諸國とは、國民衣食の方法を異にするにより、家畜の飼養は、由來、僅かに牛・馬を首め、豚・家禽あるのみにして、綿羊・山羊等の如きは、敢て記すべきものあらざりき、されど、近年肉食の盛んなるに従ひ、これ等の牧養も亦漸次増殖して、各地到る處、大抵牧場屠場の設けなきはなく、馬は奥羽地方及び九州に最も盛んに、鹿兒島縣・巖手縣・熊本縣・福島縣は共に十萬頭以上を飼養し、その良種なるは殊に南部駒・三春駒を第一とす。牛は廣島縣・岡山縣に多けれども、兵庫縣・鳥取縣より出づるものは、良種の聞えあり、家禽の飼養は、千葉・島根・岡山の諸縣に能く行はれ、豚は沖繩縣に多く、水牛は獨り臺灣に牧養せらる。

水産業

四周の海は、南に南洋の黒潮あり、北に北海の寒流

ありて、北海より鯨・鮭・鱒・昆布・鯨族等を捕獲すると共に、南海より鱈・鯉・鮪・鯛・鰺・烏賊・章魚等を漁獵するのみならず、各種の苔藻珊瑚などは、食用・肥料・或は粧飾品・製薬品として、その種類甚だ多きを以て、水産物は實に帝國の一大富源にして、その価格は凡そ五千六百萬圓以上に達す、されど、漁船・漁具などの不完全なると、漁法の未だ幼稚なるによりて、我が近海は世界有数の漁場なるにも拘はらず、多くは近海の漁獵に止まり、廣島・山口・大分・長崎等諸縣の漁民が、僅かに朝鮮近



漁業



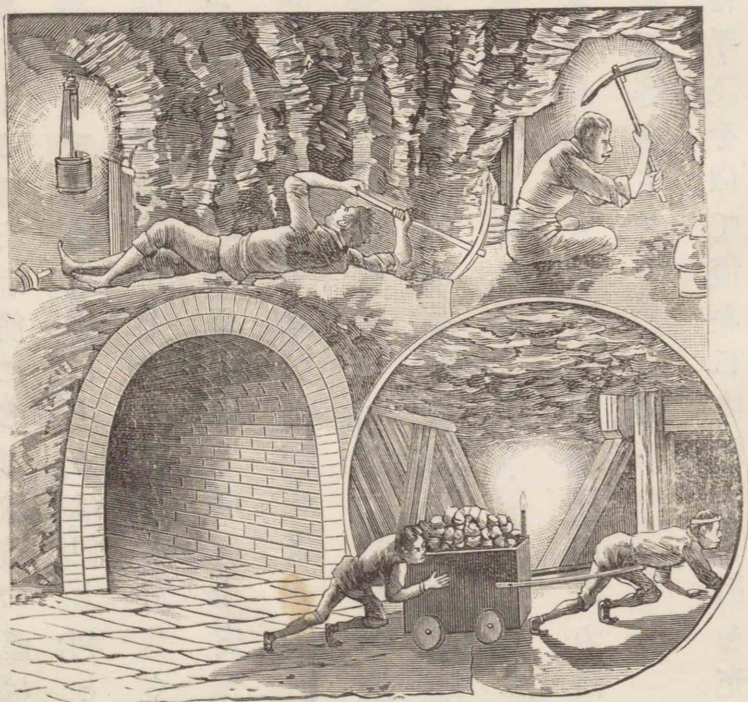
鹽田

海にて従事するもの外、北海に生殖する臘虎・臘肭獸の如きは、空しく外國密獵船のために、その利を奪はるるは、寔に遺憾の極みなり。食鹽は、海水を蒸發せしめて製するほか、鹽井・鹽泉等より取ることを得れども、我が國のは、主として海水を

糞て製するもの多きを以て、製鹽業は晴天打ち續き、空氣の乾燥せる、瀬戸内海沿岸の地方に最も盛んに、年々の製鹽は六百萬石以上に達す、産額の多きは、山口縣を第一とし、香川・廣島・兵庫・岡山・徳島の諸縣これに亞ぎ、赤穂及び齋田の鹽は殊に世上に知らる。

鑛物 鑛物は金・銀・銅・鐵・錫・鉛・石炭・硫黃・安質母・尼・滿・俺・石・油・水晶等各種の採掘あれども、最も多きを石炭・銅とす。石炭は高島炭・唐津炭・三池炭等を第一とし、北海道炭これに亞ぐ、全國一年の産額は五百萬噸以上ありて、九州産はその八割以上を占め、大概は東洋諸港に輸出す。銅は石炭に亞ぎて、産額六百五十萬貫に達し、採掘の夥しきことは、世界中三四位を下らず、されど、電氣事業の發達と共に、用途次第に増加して、今

は、外國の輸入を仰ぐものも、亦少なからず、我が國にて、足尾別子・阿仁・尾去澤・荒川の銅鑛は産出の多量なるを以て稱せられ、日向・加賀・備中その次に位す。金は佐渡・薩摩・但馬に多く、北海道・甲斐は砂金を出だす。銀は羽後・陸中・岩代・飛騨・石見・薩摩の諸國に多く、鐵は伯耆・出



坑

炭

は、外國の輸入を仰ぐものも、亦少なからず、我が國にて、足尾

雲・石見等の諸國、及び陸中の釜石近傍に多し。硫黃の産は世界に著名にして、商品として貿易市場に上るは、伊太利と我が國とに限る、その産額は、大抵三百七十萬貫にして、多くは北海道より出だし、その七割は北米合衆國と取引す。安質母尼は産額凡そ四十萬貫ありて、多くは英吉利、北米合衆國に輸出す、その採掘の著名なるは、伊豫の市川、鑛山、周防の鹿野、鑛山等とす。その他、鉛は陸前に、錫は薩摩に、滿庵は後志、陸奥、美濃に出づ。石油は越後を主とすれども、遠江、信濃亦多少の産あり。石材は美濃、常陸、長門の大理石、攝津、瀬戸内海の沿岸地方、及び常陸の花崗石等を主とす。

工業 工業は從來皆手工を以て、僅かに内國の需用を充たすに止まりしが、近來、歐米の器械を使用し、大仕掛に機關を

運轉するに至りしより、斯業の發達著しく進歩し、綿織、絲綿、布、絹帛類の輸出年々盛んに、今は、世界の工業國に列するに至れり。紡織にて、絹織物の盛んなるは、京都の西陣を第一とし、桐生、足利、福井等これに亞ぎ、木綿物は愛知、和歌山に、紡績絲は大阪に多し。染物は殆ど京都の專業にして、友仙染は殊に世上に名高し。陶磁器は京都の清水焼、粟田焼、加賀の九谷焼、尾張の瀬戸焼より、薩摩焼、有田焼、伊萬里焼、萬古焼等は、今に、名聲益熾んに、その三分の一は外國に出だす、その他、高知の製紙、東京、神戸の洋紙、燐寸、岡山、廣島の地蓆、麥稈、眞田等も、亦品質の佳良なるを以て聞ゆ。漆器は本邦の特産物として、その名海外に高く、黒江塗、春慶塗、津輕塗、日光塗、輪島塗、山中塗等の名稱あり。又飲用品にありては、兵庫縣の清酒、千葉縣

岡山縣の醬油は共に醸量多く、麥酒葡萄酒も、亦近時内國の需用を増し、造量漸次盛んなるに至れり。

商業 商業は運輸の利、交通の便次第に備はると共に、これが機關たる日本銀行・正金銀行・日本勸業銀行を始め、數多の公私立銀行を設立して、金融の圓滑を助くるを以て、内外の取引益盛大に趣き、商品の集散甚だ迅速なり。内國商業にて、取引の最も盛んなるは、清酒・米穀・生絲・織物・茶・石炭・材木・陶器・紙・魚具類にして、關東諸國に於ける東京は、關西諸國に於ける大阪と共に、東西の商業を支配して、貨物の中心市場をなし、名古屋・仙臺・金澤・新潟・函館・廣島・徳島・福岡等は、亦その間に各方面の商業を差配せり。外國貿易は開港場と稱する、横濱・神戸・長崎・新潟・函館・大阪・清

(一)瑞典、諸威を一條

水・武豊・四日市・絲崎・下關・門司・博多・唐津・口津・三角・巖原・佐須奈・鹿見・那覇・濱田・境・宮津・敦賀・七尾・伏木・小樽・釧路に於ては、條約國たる以上は、禁制品を除けば、何品によらず、取引をなすことを許され、室蘭は麥・石炭・硫黃・麥粉・木炭・セメント・硫酸・滿俺礦晒粉・木材・板竹材に限りて、特に外國への輸出を許さる、臺灣にては、基隆・淡水・安平・打狗を限りて、普通の開港場となし、ほかに、舊港・後壠・梧棲・鹿港・下湖口・東石港・東港・媽宮の八港も、また開港場たり、ただしこれ等の八港は、當分の内、支那形の船に限りて出入することを得るのみ。

現今帝國と通商を結べる外國は、北米合衆國・英吉利・露西亞・和蘭・佛蘭西・葡萄牙・獨逸・瑞西・白耳義・伊太利・丁抹・瑞典・諾威・西班牙・埃太利・匈牙利・秘露・朝鮮・暹羅・墨西哥・支那・ブラジル・希臘

コンゴ自由國の廿二國とし、そのうち、取引の最も盛んなるは、北米合衆國・支那・英吉利・英領印度・香港ホク・佛蘭西・獨逸・朝鮮等にして、明治三十二年には、輸出品價二億一千五百萬圓、輸入品價二億二千萬圓以上ありて、その主要の商品は、本邦より生絲・綿織絲・羽二重・石炭・銅・米・茶・燐寸・樟腦・海產物等を輸出し、海外諸國より、鐵類・綿類・砂糖・石油・毛絲・毛織物・車輛・船舶・鐵道用具・米・大豆・肥料・葉煙草等を輸入す。

交通 交通の機關は、猶歐米の諸國に及ばざれども、維新以來海陸共に著しく發達し、道路は國・縣里の三道に分ち、東京より道廳・府縣廳・各開港場並びに伊勢大廟に達するもの、道廳・府縣廳と、師團司令部とを連絡するもの、府縣廳を連接するもの、師團司令部より旅團司令部に通ずる街道筋は、山

路は開きて、平坦砥の如くし、峻坂は鑿ちて隧道を通じ、又河流には堅固の橋梁を架せるを以て、到る處、概ね車輛の通行を自在にし、古への飛脚・荷持等の支配せし、幼稚なる交通機關は、一轉して鐵道・郵便・電信・電話に代はれり。

鐵道は明治五年に、東京・横濱間に官設せられしを始めとし、神戸・大阪・京都間これに亞ぎ、私設は明治十四年に、日本鐵道會社の創設を始めとし、現時、官私設共に既に開業せしもの、三千五百哩以上に延長し、唯奥羽地方・日本海沿岸の中國地方・四國及び九州の東南部・北海道の北部・臺灣の大部に未だ敷設せられざるのみ、外に少許の電氣鐵道あり。

郵便は明治四年に、東京・京都・大阪の間に開始せられしより、現時、局數凡そ三千八百ありて、到る處、信書を往復し得るのみならず、外國に宛つる郵便物は、横濱・神戸・馬關・長崎に集め、これを萬國聯合郵便船に托して、各方面に發送するを以て、天涯萬里の旅客も、その通信は、本國にあると同じく、一も不便を感

せざるに至れり。

電信は明治二年に始めて東京横濱間に架設せられしより、全國主要の都邑は、概ね電信局の設けありて、線路の互長凡そ五千三百里に互り、線條の延長は二萬里以上に達し、四國九州北海道等へは各本州より水底電線をしき、臺灣へは薩隅諸島より琉球を経て基隆に通ず、外國に通ずるには、壹岐對馬を経て朝鮮に、長崎より浦鹽ウラハネ斯德スエッ及び上海シヤンハイに臺灣より支那に通ずる海底電信あり、電話は明治十八年に始めて架設せられ、現時、東京横濱京都大阪神戸及びその他の大市に行はる。

帝國は四方に海を繞らせるが上に、内地の河湖多くは小漚船の航行に堪ふるを以て、水運事業の發達は自然の結果なれども、造船及び航海の技術に熟し、航路標識海上保險等、交通漕運の機關の漸次備はるに従ひ、沿岸航路はもとより、遠洋航路もまた漸次に開けて、船舶は定期に往復し、商船會社

は大阪を中心とし、内海の沿岸諸港より、北は馬關を経て、日本海沿岸の要港に寄港し、南は和歌山徳島より、九州の南部・長崎及び臺灣等の間を往復し、日本郵船會社は横濱を中心とし、西は四日市・神戸・長崎・臺灣・支那・朝鮮の諸港に航行し、東は荻濱・函館・小樽・根室・千島より、浦鹽斯德の間を往來し、又遠くはサイゴン・シヅヴァ・孟買ボンバイ等に航するのみならず、近頃、更に歐米の諸國及び濠洲大陸・布哇等に航路を開始せり、現時西洋形商船は三千餘艘、その排水量六十五萬噸ありて、外に、日本形商船一萬九千餘艘あり。

訂增 新式日本地理終

理學士岩崎重三 共編 ● 新編萬國地誌 全二册

〔上卷正價金六拾五錢
下卷正價金七拾五錢〕

理學士岩崎重三 池田鹿之助 合著 ● 新式萬國地理 全一册

〔定價 金九拾貳錢〕

理學士岩崎重三 池田鹿之助 共編 ● 新式萬國地理附圖 全一册

〔定價 金三拾五錢〕

理學士比企 忠閱 ● 新式日本地理 全一册

〔定價 金六拾錢〕

理學士藤岡 作太郎 閱 ● 新式日本地理附圖 全一册

〔定價 金二拾五錢〕

文學士吉國 藤吉 著 ● 西洋史 全一册

〔定價 金九拾錢〕

文學士吉國 藤吉 辻安彌 合著 ● 西洋史地圖 全一册

〔定價 金四拾五錢〕

文學士 秋月胤繼 著 ● 東洋史 全一册

〔定價 金七拾錢〕

文學士 本多淺治郎 著 ● 新編日本歷史 全二册

〔上卷定價金四拾五錢
下卷定價金六拾五錢〕





広島大学図書

2000023781

